326
232

始

大正六年三月

米穀貯藏ニ關スル調査

農商務省

326-232

本調査ハ囑託員農學士川崎一郎ヲシテ一箇年間全國主要米産地及集散地ニ就キ米穀貯藏ニ關スル從來ノ慣行及貯藏ノ米穀ニ及ホス影響等ヲ調査セシメタルモノナリ、調査スヘキ事項多岐ニ亘リ就中歴史的變遷ヲ詳ニスルノ必要アルモノノ如キ固ヨリ未タ悉ササル所アリト雖不取敢復命書ヲ其儘印刷ニ付ス關係執務者及當業者ノ參考ニ資スルコトトセリ

大正 6. 6. 8 内交

米穀貯藏ニ關スル調査

目次

第一章　貯穀ノ慣行……一
第一節　籾貯藏ノ慣行……一
第一項　籾貯藏ノ由來及變遷……三
第二項　籾貯藏ノ慣行アル地方名……一〇
第三項　現時ノ籾貯藏慣行ト農家經濟事情……一三
第四項　地方別籾貯藏ノ由來及變遷……一六
第五項　地方別籾貯藏若クハ今摺米ノ可否ニ對スル意見……五〇
第二節　玄米貯藏慣行……五八
第三節　白米貯藏慣行……五八
第一項　白米貯藏ノ由來及變遷……五九
第二項　地方別白米貯藏ノ由來及變遷……六〇

第二章　貯藏ト品種、土質、肥料、收穫期、乾燥及調製等トノ關係……六八

(イ)　乾燥ト穀蟲繁殖試驗　鳥取縣米穀檢查所……七一

(ロ)　乾燥法ト米質　鹿兒島縣米穀檢查所……七二

(ハ)　乾燥ト穀蟲繁殖試驗　西ケ原農事試驗場……七三

第一節　稻乾燥法……七三

(一)　乾燥法試驗　福島縣農事試驗場……七九

(二)　米穀乾燥法試驗　岐阜縣農事試驗場……八二

第二節　地方別稻乾燥法慣行……八四

第三節　地方別調製及包裝慣行……一一三

第三章　貯穀倉庫ノ構造……一三六

第一節　現在ノ貯穀倉庫……一三八

第一項　普通貯穀倉庫ノ實例……一四三

第二項　優良貯穀倉庫ノ實例……一七二

山居倉庫　山崎商店倉庫　古林氏倉庫……一七三

第二節　新ニ貯穀倉庫ヲ建設スル場合ニ特ニ注意ヲ要スト認ムル事項……一八五

第四章　貯藏方法……一九八

第一節　籾ノ貯藏方法……一九九

第一項　地方別籾貯藏方法ノ慣行……二〇二

第二項　貯藏ニ關シ特ニ注意スヘキ事項……二二〇

第二節　玄米ノ貯藏方法……二二一

第一項　地方別玄米貯藏方法ノ慣行……二二七

第二項　貯藏ニ關シ特ニ注意スヘキ事項……二四七

第三節　白米ノ貯藏方法……二五一

第一項　地方別白米貯藏方法ノ慣行……二五二

第二項　貯藏ニ關シ特ニ注意スヘキ事項……二五七

第五章　貯藏ノ米ニ及ホス影響……二五八

第一節　概說……二五八

兵庫縣米穀檢查所調查、米穀貯藏試驗成績、附晴雨溫度表……二六二

第二節　貯藏ト米質……三〇三

第一項　籾貯藏ノ場合……三〇三

第二項　玄米貯藏ノ場合……三〇七
第三項　白米貯藏ノ場合……三一七
第三節　貯藏ト容量及重量ノ變化……三一八
第一項　籾貯藏ノ場合……三一八
第二項　玄米貯藏ノ場合……三二二
(一)　鹿兒島縣米穀檢查所試驗成績……三二六
(二)　富山縣……三二七
(三)　防長米同業組合調査成績……三二七
(四)　秋田縣、玄米貯藏試驗……三二八
(五)　秋田縣農事試驗場、玄米貯藏試驗……三三一
(六)　埼玉縣米穀檢查所調査……三三三
(七)　熊本縣、玄米貯藏桝量增減見込……三三四
(八)　熊本縣米穀倉庫調査……三三五
(九)　山形縣山居倉庫調査……三三八
(十)　鳥取縣米穀檢查所調査……三四一

(十一)　玄米貯藏中ニ於ケル桝量增減ニ關スル調査……三五三
第四節　籾貯藏ト籾摺ノ難易及籾摺歩合……三五六
第五節　貯藏ト精白……三六二
第一項　籾貯藏ノ場合……三六二
第二項　玄米貯藏ノ場合……三六六
(一)　貯藏ト搗減ニ關スル調査……三六七
(二)　新潟縣、今摺米秋摺米搗減歩合調……三六九
(三)　新潟縣、貯穀期間ト搗減歩合……三七一
(四)　埼玉縣、貯藏ト精白ノ難易及搗減歩合調……三七一
(五)　石川縣、七尾町船倉精白工場調、貯藏ト搗減歩合……三七二
(六)　鳥取縣、倉庫米二硫化炭素燻蒸試驗（其一冬期、其二夏期）……三七二
第六節　貯藏ト食味及蕃殖……三七九
第一項　籾貯藏ノ場合……三七九
第二項　玄米貯藏ノ場合……三八二
第三項　白米貯藏ノ場合……三八五

第七節　貯藏ト米價……三八六
第一項　籾貯藏ノ場合……三八六
第二項　玄米貯藏ノ場合……三八六
第六章　社倉ニ於ケル貯穀ノ慣行……三九〇
附地方ニ於ケル社倉制度
第七章　貯穀ニ關スル取引慣例……四五六
第一節　籾ノ場合……四五六
第二節　玄米ノ場合……四五七
第三節　白米ノ場合……四五九
第八章　米穀貯藏ニ關スル注意事項……四六二
第一節　籾貯藏ノ場合……四六三
第二節　玄米貯藏ノ場合……四六四
第三節　白米貯藏ノ場合……四六七
第九章　貯穀ニ關シ調査研究ヲ必要ト認ムル事項……四六八

附録

一、大正四年産米搗耗試驗概要　埼玉縣米穀檢査所……一
二、米温ト桝減ノ試驗　新潟縣……六
三、紙袋使用試驗　愛媛縣農事試驗場……七
四、自明治十年至大正五年四拾箇年間籾一俵代價直段　山梨縣……一三
五、米穀搗精試驗　福岡縣三潴郡……一五
六、籾莚乾試驗　新潟縣農事試驗場……二二

米穀貯藏ニ關スル調査

第一章　貯藏ノ慣行

本邦ニ於ケル米穀貯藏慣行トシテハ素ヨリ玄米貯藏ヲ以テ一般慣行ト爲ス、蓋シ米ノ需給關係ニ附隨スヘキ貯藏ハ米穀取引ノ實躰タル玄米ニ支配サルレハナリ、然リト雖籾貯藏及白米貯藏モ亦全然行ハレサルニ非ス、殊ニ籾貯藏ハ地理的事情ノ爲必然的ニ行ハルルモノ多ク全國ヲ通シテハ其數量モ決シテ寡少ニ非ラサルヘシ、素ヨリ玄米貯藏ノ數量ニ比較スレハ微々タルモノナレトモ地方ニ依リテハ米穀需給關係ニ主要ナル位置ヲ占ムルモノ尠カラサルナリ、近時交通機關ノ發達ト栽培並貯藏ニ關スル技術ノ進歩ニ伴ヒ籾貯藏ノ漸次玄米貯藏ニ移ラントスルハ米穀貯藏上一段ノ進歩ト言ヒ得ヘク結局籾貯藏ノ衰微ハ自然ノ順序ナルヘキモ地方ノ地理的事情乃至農村事情ヲ顧ミスシテ急カニ之レヲ助長セントスルカ如キハ考慮ヲ要スヘシ

白米貯藏ハ農家用飯米ノミニ行ハルル慣行ニシテ而モ全國一般ニハ行レサルカ故ニ其ノ數量モ極メテ少ク最近農村ニ於ケル精米業ノ發達ニ伴ヒ著シク減少セリ

第一節　籾貯藏ノ慣行

籾貯藏ノ起原ハ最モ古ク、稻栽培ノ當初ニ始マレルモノト解セラル、蓋シ米ノ形態トシテ第一段ハ收穫物其儘ナル籾ニシテ第二段ハ籾ノ皮穀ヲ脫シタル玄米ナリ、而シテ更ニ進ンテ玄米ノ糠層ヲ脫シ白米トナシ食物ニ供スルニ至リタルハ歷史上比較的近代ニ屬スルカ如シ、以上三段ノ順序ハ素ヨリ人智ノ開發ニ伴ヒタル結果ニシテ之レヲ遡ツテ考察スレハ籾貯藏ハ未開時代乃至經濟上自足時代ニ盛ンニ行ハレシコト察スルニ難カラサルナリ、其後米穀經濟ノ變遷ニ從ヒ玄米取引行ハルルニ及ンテ籾貯藏ハ玄米貯藏ニ移リタルモノナルヘシ、是ヨリ籾貯藏ハ地理的事情乃至農村ノ事情ニ支配セラルル場合ノミニ限ラレ今日ニ至レルナリ、而モ德川時代ニ盛ンニ行ハレシ備荒籾貯藏、兵糧貯蓄、籾貢米制度モ廢藩置縣ト共ニ終局ヲ告ケ、其他交通ノ發達貯藏ニ關スル技術ノ進步ト共ニ益々衰微ノ傾向ナリ、殊ニ最近產米改良事業ノ發達ハ籾貯藏慣行ノ減退ニ關與スル處少カラサルナリ

明治維新以後籾貯藏ノ消長及米穀檢査實施ノ之レニ及ホシタル關係大様左ノ如シ

一、籾貯藏慣行ニ消長ナシトスルモノ

大坂、滋賀、廣島

二、籾貯藏慣行漸減ノ傾向ニアリトナスモノ

京都、兵庫、新潟、埼玉、栃木、奈良、愛知、宮城、岩手、青森、山形、秋田、福井、石川、富山鳥取、島根、岡山、德島、香川、愛媛、福岡、大分、宮崎、鹿兒島、山口、佐賀、茨城、熊本

三、米穀檢査ハ籾貯藏慣行ノ漸減ヲ助ケタルモノト認ムヘキモノ

京都、兵庫、茨城、栃木、福井、石川、富山、岡山、德島、香川、宮崎、鹿兒島、熊本

第一項　籾貯藏ノ由來及變遷

（籾貯藏ノ起原ニ就テハ前節已ニ述ヘタル處ニテ明カナルヘキモ玄米貯藏ヲ以テ一般慣行トナス、現在ニ於テ尙籾貯藏ノ行ハルルハ單ニ舊慣ヲ墨守スルニ止マラス、必スヤ相當ノ理由アルヘク此ノ意味ニ於ケル籾貯藏ノ由來ニ就テ聊カ述ヘントス）

現今籾貯藏ノ行ハルル地方ヲ通覽スルニ全國ニ亘リテ散在スルト雖、概シテ平坦部ヨリハ山間部ニ多ク、秋收期ニ於ケル天候良好ナル處ヨリハ不良ナル處ニ多ク、所謂米作地ニ之ヲ見スシテ飯米ヲ他ヨリノ供給ニ俟ツ處ニ之レヲ見ル、又籾貯藏ヲ行フモノハ地主ニアラスシテ小作者及自作者ナリ、但シ地主ノ納米ハ多ク販賣スヘキ性質ノモノナルタメ玄米制度ヲ一般トスレトモ山梨縣ノミハ之レニ反ス、以上ハ籾貯藏ニ現ハレタル傾向ノ大様ナルモ、以テ籾貯藏ノ由來ノ一端ヲ窺フニ足ルヘク、即チ地理的事情ハ籾貯藏ニ至大ノ影響ヲ與ヘ居ルコト、換言スレハ地理的事情ノタメニ已ムナク籾貯藏ヲ行フモノ尠カラサルヲ觀取セラルヘシ

（今各地ニ籾貯藏ノ行ハルル理由ヲ綜合スレハ左ノ如シ

一、備荒儲蓄

二、自家用飯米

三、秋收期ニ於ケル乾燥困難ナル事情

四、秋收期ニ於ケル勞力ノ不足

五、玄米貯藏ニ適當ナル倉庫ヲ有セサルコト

六、米ノ需給關係カ全ク他ト隔絶セル事情

以上ノ如ク籾貯藏ノ由來種々アリト雖要スルニ特ニ籾ヲ選擇シ或ハ籾タラサルヘカラサル理由ハ籾カ貯藏容易ニシテ能ク長期保存ニ耐ヘ且蟲害ニ罹ルコト少キコトニ依ルモノナリ

今各由來ニ就キ其ノ變遷ト現況ヲ逐次左ニ述フヘシ

一、備荒儲蓄ニ二種アリテ一ツハ藩政時代ニ於ケル社倉ノ意義ヲ繼承シ、村或ハ部落ヲ範圍トシテ籾貸付法ヲ行フモノト他ハ個人的ニ備荒ノ意義ヲ以テ籾ヲ貯フル慣行ナリ、籾貸付法ニ就キテハ後章社倉制度ニ於テ詳述スヘシ

個人的備荒儲蓄ハ全國ニ亘リ主トシテ山間ノ僻地及河川ノ流域ニ行ハル、山間ノ僻地ハ秋冷ノ爲往々部分的凶作ノ襲來ヲ蒙ル虞アリ且山陰ノ爲乾燥不充分ナル場合多キヲ以テ籾ヲ以テ貯藏シ凶作ニ備ヘタリ、然レトモ近時交通發達シテ物資ノ供給容易トナリシヲ以テ貯蓄ノ一理由ヲ失ヒ現在ハ漸減ノ傾向ニアリ、只昔時收穫見込確實トナリタル場合賣却スル舊慣ハ今ニ存續シ臨時ノ費用或ハ租稅ニ充ツル處多シ、例ヘハ山形縣、靜岡縣、高知縣幡多郡、福井縣、岩手縣、其他等ニ於ケル籾貯藏ノ如シ

又河川ノ流域ニ於ケル籾貯藏ハ氾濫ノ爲ニ收穫皆無トナル虞アル地方ニ行ハル、例ヘハ木曾川ノ流域、信濃川沿岸、矢作川流域、利根川流域等ニ於テハ往時盛ニ行ハレシモ河川修理ノ結果氾濫ノ虞ナク之レ又備荒ノ必要ヲ認メサルニ至レルタメ全然其ノ跡ヲ斷チシカ或ハ僅カニ舊慣トシテ存スルノミナリ、現ニ木曾川流域ハ其影響スル處頗ル廣ク岐阜縣ニ於テハ養老郡、安八郡、愛知縣ニ於テハ津島町附近、三重縣ニ於テハ伊曾島地方ニ及ヒシモ現今ハ往時被害ノ最モ甚シカリシト察セラルル木曾川及揖斐川ノ三角洲ナル伊曾島地方ニ僅カニ遺習トシテ毎年籾ヲ若干夏期迄貯藏スルヲ見ルノミニテ他ノ地方ハ岐阜縣ニ於テ僅カニ行ハルルモ愛知縣ニ於テハ已ニ行ハレサルカ如シ、此場合ニモ昔ハ水害ノ虞ナキコトヲ確メテ貯藏籾ヲ賣却セシモ現今ハ夏期迄ハ持越スモ大抵相場ニヨリ今摺米トシテ出スカ如シ、故ニ貯藏期間ハ長クシテ十ケ月迄ニテ普通ニハ毎年交替スル譯ナリ

二、自家用飯米トシテノ籾貯藏ハ現今全國ニ亘リテ相當行ハルルモ素ヨリ倉庫ヲ有セサル程ノ農家カ貯藏簡易ニシテ蟲害ノ虞ナク食味ハ却ッテ秋摺米ニ比シテ良好ナル爲籾ヲ以テ貯フルナリ、滋賀縣ノ一部、大阪府豐能郡能勢地方、鳥取縣ノ一部、高知縣ノ一部其他到ル處ニ行ハル、但シ自家用飯米トシテハ此ノ外ニ玄米及白米ノ貯藏アレトモ貯藏簡易ナル點ニ於テ籾貯藏ハ前二者ニ優ルモノナ

リ

三、秋收ノ際乾燥困難ナル事情ハ山間地方或ハ四圍山ヲ以テ圍マルル地方ニ多ク、地勢ノ關係上秋收期ニ晴天稀ナルカ爲ナリ、斯カル地方ニ於テハ乾燥裝置トシテ數段掛ケノ稻架ヲ用フルモ尙乾燥充分ナラサル爲之ヲ摺リ玄米トシテ貯藏スルトキハ蟲害甚シク或ハ腐敗ノ虞アル爲寧ロ籾ヲ以テ貯藏スル習慣ヲ成セルモノノ如シ、此理由ニ依ル籾貯藏ハ全國ヲ通シテ最多ク埼玉縣入間川町、飯能、茨城縣河北三郡、石川縣鳳至郡、珠洲郡、山形縣、置賜方面及東村山郡、三重縣伊賀地方、岡山縣、廣島縣、山口縣、德島縣、熊本縣球摩郡等ハ其ノ適例ナルモ尙之等ト事情ヲ等フスル地ハ隨所ニ見出サルル處ニシテ、スヘテ山間部ニ於ケル籾貯藏ハ多少共之等ノ事情ニ影響サレサルモノナキ狀況ナリ、尤モ乾燥不良ノ爲已ヲ得ス籾貯藏ヲナスニ至リタルトハ其ノ主タル理由ナルモ又之レヲ助成スル理由他ニ存スルニ非サレハ能ク籾貯藏ヲ永續スルモノニアラス、卽チ其ノ一面ノ理由トハ夏期ニ於ケル米價ノ騰貴ニシテ或地方ノ慣例トシテ每年斯カル時期アリテ其ノ利益ヲ獲ント欲セハ籾ヲ以テスルニ非ラサレハ夏期迄持越シ能ハサルナリ、事實夏期ノ地廻リ相場ハ乾燥不良ナル秋摺米ニ對シテ幾分高價ナリ、愛媛縣東西宇和郡、廣島縣、島根縣、青森縣、北海道等ニ於テハ此邊ノ事情ヲ明カニシ得タルモ其他ト雖恐ラク自然ニ附隨スルモノト認メラル、今廣島縣ノ例ニ就テ之ヲ見ルニ同縣ニ於テ現在籾貯藏ノ慣行アル地方ト雖秋季充分ニ籾乾ヲ行ハハ良質ノ米ヲ得ヘシトハ一般ニ知ル處ナリ、而シテ乾燥ニヨリテ米ノ等級ヲ上クルコトハ容易ニシテ一等級間ニ三十五錢餘ノ格差アルヲ知リ之レカ改良ノ必要ヲ切ニ感スルモ如何セン秋收期日照時間少ク且勞力乏シキヲ以テ秋期充分ニ籾乾ヲ爲ス能ハス、單ニ架乾ヲ爲シテ籾ヲ扱キ落シ其儘之レヲ貯藏シ翌夏五月以後ニ於テ今摺米ト爲ス、蓋シ又已ムヲ得サルモノナリ、而シテ縣內ノ主タル消費地タル廣島市場ニ於テハ乾燥不充分ナル秋摺米ヨリモ却テ今摺米ノ方其ノ食味良好ナル故ヲ以テ貴ハレ從テ高價ナルタメ籾貯藏ヲ絕對ニ不可ナリト斷スルヲ得スト云フ、又愛媛縣東宇和郡ニ於テ籾貯藏ノ行ハルルニ至リタル一理由ハ多年ノ經驗上七月ヨリ九月ニ至ル期間ハ米價高キヲ以テ此ノ候ニ於テ米ヲ賣却センニハ乾燥、俵裝等ニ特別ノ注意ヲ要スルヲ以テ比較的容易ナル籾ノ貯藏ヲ行ヒ夏摺ヲナスニ至レリト云フ、又青森縣津輕地方ニテハ收穫米ノ幾部ヲ翌年夏秋ノ候迄貯ヘ置キ隨時玄米トナシテ販賣ス、是レ籾ハ玄米ニ比シ貯藏容易ニシテ變質スルコト少ク、今摺米ハ秋摺米ニ比シ常ニ幾分高價ナルカ故ナリト云フ、北海道及島根縣モ全ク之レト同シク時勢ノ進運ニ伴ヒ米價昂騰シ農家ニ於テモ可成之ヲ貯藏シテ高價ニ賣却セントスル者多キニ至リシモ玄米ノ儘貯藏スルトキハ穀蟲ノ蝕害ヲ蒙リ到底六七月以後迄貯藏シ能ハサルヲ以テ籾ノ儘貯藏シ夏期ニ至リ籾摺ヲ行ヒ販賣スルニ至レリト云フ

此ノ理由ニ依ル籾貯藏ハ全ク自然的事情ニ職由スルモノナレハ古來ヨリノ變遷少キ筈ナレトモ近年産米改良事業各地ニ行ハレ乾燥、調製其ノ他着々改良セラレタル結果夏越米タリ得ルト二硫化炭素

燻蒸ノ普及ニ依リテ籾貯藏ノ必要ヲ減シ衰退ノ傾ナリ、此事實ヲ認ムル地方ハ第一節ニ於テ已ニ述ヘタリ

四、秋收期ニ於ケル勞力ノ不足ニ原因スル籾貯藏ハ恐ラク僅少ニ止マルヘシ、但シ勞力不足ノ原因トシテハ但馬、丹波地方ニ於ケル酒造出稼ノ如キ特殊ノ例ヲ除キテハ多ク開墾地ノ如キ一人當リノ耕作反別多キカ或ハ氣候ノ關係上跡作ヲ急ク場合等ナリ、愛媛縣西宇和郡ニ於テ籾貯藏ヲ行フ地方ハ主トシテ山間部ニ屬スルヲ以テ、稻收穫後直チニ冬作ノ播種又ハ植付ヲナササレハ冬作物ノ播種、植付ノ期ヲ失スルヲ以テ之等作業ヲ先ニ行ヒ然ル後ニ籾摺ヲ行フヲ順序トスト云フ、大分縣直入郡ノ籾貯藏モ之レト同一事情ヲ有スルタメナリ、尚愛媛縣西宇和郡ノ製紙業、愛知郡碧海郡六美村附近ノ養蠶即チ廣ク副業ヨリ來ル勞力ノ缺乏モ幾分影響スルカ如シ

五、玄米貯藏ノ倉庫ハ敢テ土藏ニ限ルモノニ非サルモ、粗雜ナル板藏或ハ納屋位ヲ有スルニ過サル程ノ農家ハ寧ロ籾ヲ以テ貯藏スルヲ安全トス、況ンヤ格別ノ貯藏所ヲモ有セサルモノハ殆ント籾貯藏ニ限ルカ如シ、如何ントナレハ籾ハ貯藏簡易ニシテ土間ノ一隅或ハ野外ニ於テスラモ貯藏シ得レハナリ、之等ノ事情ハ籾貯藏慣行アル地方ニハ到ル所ニ見出サルヘク、只野外貯藏ハ佐賀縣及福井縣ニ於テ行ハルルノミナリ

六、米ノ需給關係カ全ク他ト隔絶セル事情トハ換言スレハ他トノ交通不便ニシテ且米ノ需給關係カ全ク其ノ地方ニ極限セラレ他トノ交渉ヲ有セサルノ事情ナリ、而シテ交通發達シタル現今ニ於テモ尚昔時ノ慣行存續セルヲ見ル、其ノ適例ハ山梨縣ニシテ一地方ノ籾貯藏慣行トシテハ最モ盛ナルモノナリ、山梨縣ハ四圍山ヲ以テ圍マレ交通不便ノ地ナリ、僅カニ富士川ヲ下ッテ東海道ニ出ツル一路アリト雖元來消費ニ足ラサル産米ハ天領ノ貢米以外ニ津出スル能ハサルナリ、而シテ其不足ヲ補ハントス欲スルモ入津スルニ困難ナル事情アリ、勢ヒ國内ノ需要ハ不足ナル國内ノ産米ヲ以テ按配セサルヘ可カラス、茲ニ於テ米ノ相場ハ主トシテ年ノ豐凶ニヨリ支配セラレ、所謂甲州相場ナル特別ノ値段ヲ現ハシタル次第ナリ、市場ニ在荷ノ輻輳スルハ自カラ米價ヲ低下スル所以ナルヲ以テ供給者ハ年ヲ通シテ適度ニ米ヲ市場ニ送ルヲ良策トス、之レヲ行ハント欲セハ乾燥不良米モ相當期間貯藏セサル可カラス、其ノ必要上山梨縣ニ於テハ特ニ地主迄モ小作米ヲ籾ヲ以テ納メシムルニ非サルカ、尚小作者及自作者ニ於テハ勿論籾貯藏ヲナス之レ一地方ノ籾貯藏慣行トシテハ最モ盛ナル所以ニシテ現今同縣下ニ於テハ北巨摩郡一圓、中巨摩郡及東山梨郡ノ數ケ村ヲ除ク外、全部ニ亘リテ行ハル、隨テ籾ノ賣買モ盛ニシテ精米業者ハ籾ヲ買ヒ集メテ籾摺ト同時ニ精白シ之ヲ需要者ニ分配スルモノトス、而カモ之等ノ組織ハ圓滑ニ行ハレツツアルナリ、其他飛彈國大野郡及吉城郡、天草島及佐渡島等ニ行ハルル籾貯藏ハ之ト事情ヲ同クスルニ非ラサルナキカ

以上六項ノ理由以外ニ貢米制度ノ廢止ト共ニ産米ノ取扱各自自由トナリシタメ籾貯藏盛ニナリシ例ハ

福岡縣及鹿兒島縣ニアリ

要スルニ籾貯藏ノ慣行ハ前述ノ由來ニ基キ殆ント全國ニ亘リテ散在シ居ルモ交通機關ノ普及、産米改良事業ノ發達、栽培並貯藏ニ關スル技術ノ進歩及經濟的自覺等ノ結果漸次衰微ノ傾向ニアリテ今後比較的長ク命脈ヲ保ツヘキハ秋收期ニ於ケル乾燥困難ナル事情アル山間地方、自家用飯米ノ爲及山梨縣ノ如キ特殊事情ノ下ニ行ハルル籾貯藏慣行ナリト推斷シテ誤リナカルヘシ

第二項　籾貯藏ノ慣行アル地方名

北海道　札幌郡、夕張郡、上川郡
東京府　ナシ
埼玉縣　入間川町、飯能町、南埼玉、北足立、北埼玉、比企ノ四郡
千葉縣　房州方面
茨城縣　河北三郡地方
栃木縣　那須、鹽谷、芳賀、河內、上都賀ノ諸郡
群馬縣　山間ノ一小部落
長野縣　縣下一般
山梨縣　北巨摩郡、中巨摩郡及東山梨郡ノ數ケ村ヲ除ク全部
新潟縣　信濃川沿岸地方、佐渡郡
富山縣　山間部
石川縣　鳳至郡、珠洲郡
福井縣　大野郡ヲ中心トセル山間部
福島縣　縣下一般
宮城縣　栗原、加美、玉造、黑川ノ諸郡
山形縣　置賜一市三郡及南村山郡
秋田縣　仙北郡金澤町其他
岩手縣　盛岡、花卷、沼宮內地方
青森縣　舊南部領上北郡三戸郡、津輕地方
神奈川縣　ナシ
靜岡縣　賀茂郡、富士郡及庵原郡
愛知縣　矢作川流域、碧海、額田、幡豆ノ諸郡
三重縣　伊賀、伊會島地方
岐阜縣　羽島郡、海津郡、養老郡、安八郡、飛彈國大野、吉城兩郡

滋賀縣　高島郡、湖畔部落
京都府　丹波、丹後ノ各郡
大阪府　豊能郡ノ一部
奈良縣　山間部
和歌山縣　有田郡八幡村、東牟婁郡七川村、日高郡
兵庫縣　多紀郡、氷上郡、丹波、但馬地方
岡山縣　眞庭郡川上、八束、中和、二川、湯原ノ諸村、苫田郡、齋原、奥津、阿波、羽出富ノ諸村、
　阿哲郡千屋、上刑部、菅生、丹治部、刑部、ノ諸村
廣島縣　縣下一般
山口縣　阿武郡、北部地方
鳥取縣　明治二十年頃ハ縣下全部ニ行ハレシモ今ハ減少セリ
島根縣　出雲國
徳島縣　米穀檢査施行除外地
香川縣　小豆郡
愛媛縣　浮穴郡、東宇和郡、西宇和郡

高知縣　幡多郡
福岡縣　豊前ヲ除ク外全部
佐賀縣　佐賀、神崎、小城、東松浦、三養基各郡
長崎縣　南高來郡及東彼杵郡ノ一部ヲ除ク外
大分縣　直入郡
熊本縣　天草郡、球磨郡
宮崎縣　宮崎、南那珂、兒湯ノ諸郡
鹿兒島縣　縣下一般
備考　右地名中現在籾貯藏ヲ行ハサル處モアルヘシ

第三項　現時ノ籾貯藏慣行ト農家經濟事情

籾貯藏ノ慣行ハ現在相當ノ理由ヲ以テ殆ント全國ニ亘リテ行ハル、モ交通機關ノ普及、產米改良事業ノ發達、栽培並貯藏ニ關スル技術ノ進步及經濟的自覺等ノ結果漸次衰微ノ傾向ニアリトハ、第一項ニ述ヘタル要旨ナリ、此ノ傾向ハ農家經濟事情ニ顧ミテ、其ノ儘ニ放置スヘキモノナルヤ否ヤ、左ニ之ヲ論スヘシ

往時交通不便ナル時代及場所ニアリテハ凶作ノ場合他ヨリノ物資供給困難ナル爲又ハ他トノ取引困難

ナル爲行ハレシ籾貯藏慣行ノ交通機關ノ發達ト伴ヒテ衰微スルハ自然ノ趨勢ニシテ農村經濟事情ヨリ見ルニ一段ノ進歩ト云フヘシ、又栽培ニ關スル技術ノ進歩ノ結果ハ秋冷ニ因ル凶作モ免カル、ニ至リ貯藏ニ關スル技術ノ進歩ハ二硫化炭素燻蒸ノ普及トナリテ籾貯藏ノ理由ヲ失ハシメタリ、之レ又農村經濟事情ニ鑑ミルモ當然歡迎スヘキモノナリ、又産米改良事業ニ於テハ乾燥、調製、俵裝ノ改善ニ努力スル結果米ノ乾燥良好トナリ改良前ハ夏越シ得サルモノモ夏越シ得ルニ至リ自然籾貯藏ノ理由ヲ消滅セシメ現ニ其實績ヲ擧ケツ、アルモノ尠カラス(其府縣名ハ第一節ニ掲ケタリ)、又籾貯藏若クハ今摺米ノ不利益ヲ自覺シテ玄米貯藏ニ移ル結果籾貯藏減少セリト稱スルモノ福井縣、兵庫縣、石川縣其他擧ケテ數フヘカラス、果シテ斯クノ如クンハ、籾貯藏ノ廢滅ハ期シテ俟ツヘク、又農村經濟事情ヨリ見ルモ當然ノ順序ナルカ如キモ、由來農業ハ自然ニ支配サルルコト多ク、地方ニ依リ秋收期ニ於ケル天候ノ不良ハ到底米ノ乾燥不良ヲ免カレサルナリ、而シテ乾燥不良米ハ蝕害ヲ受クルコト甚シク、到底滿足ニ夏越シ得サルナリ、從ツテ市價ノ選擇ヲナス能ハス、若シ市價ノ騰貴ヲ俟ント欲セハ、籾ヲ以テ貯藏スルヨリ道ナキナリ、而シテ此ノ事實ハ現今到處ニ逢着スル處ナリ、現今米穀取引ハ玄米ヲ以テ行ハルルカ故ニ玄米貯藏ヲ以テ便宜トシ、且ツ利益トスルハ勿論ナリト雖、前述ノ如キ事情ノモトニ生産サルル米迄モ貯穀ノ定規ニ引入レントスルハ果シテ農村經濟トシテ利益ナリヤ考慮ヲ要ス、今一般ニ籾貯藏若クハ今摺米ヲ不利益トスル理由ヲ擧レハ左ノ如シ

籾貯藏ナルカ故ニ不利益ナリトスル點

一、夏摺ハ夏期ノ勞力ノ煩累ヲ增スコト

二、賣買上商機ヲ逸スルノ虞アルコト

三、籾賣買行ハルル場合ニハ農家ニ歸スヘキ利益ヲ減少スルコト

四、籾摺歩合秋摺米ニ比シ稍々少キコト

今摺米ナルカ故ニ不利益ナル點

五、搗減歩合秋摺米ニ比シテ稍々多キコト

六、秋摺米ニ比シ變質シ易ク貯藏ニ耐ヘサルコト

七、秋摺米ニ比シテ食味劣ルコト(反對説アリ)

八、以上ノ理由ニ依リ市價低キコト

(右各項ハ後章貯藏ノ籾ニ及ス影響參照)

以上ノ如ク不利益ナル點種々アリト雖、要スルニ生産者ニトリテ最モ利害關係深キハ市價ノ低キコトニシテ當局者ノ玄米貯藏勸告ノ理由並農家ノ經濟的自覺モ右ノ諸點ニ外ナラサルナリ、然ルニ籾貯藏若クハ今摺米モ利益トスル點ナキニ非ス即チ概ネ左ノ如シ

籾貯藏ナルカ故ニ利益ナリトスル點

一、蝕害ニ對シテ抵抗力强キコト
二、貯藏簡易ニ行ハルルコト
今摺米ナルカ故ニ利益ナリトスル點
當用向トシテ食味良好ニシテ蟲付少ク從ツテ搗減少ク秋摺米ニ比シ高價ナリ、但シ米ノ乾燥困難ナル地方及其ノ地方産米ニ支配サルル市場ニ限ルカ如シ

故ニ單ニ市價ノ點ニ就キテハ今摺米必シモ常ニ安値ニ非サルナリ、而シテ其他ノ不利益トスル點ハ多ク乾燥不充分ニ原因スルモノナリ、故ニ秋期乾燥困難ナル場合ハ春期ニ再ヒ乾燥スルカ或ハ今摺ノ際乾燥スル等適當ノ方法ヲ講スレハ今摺米ト雖速カニ變質スルモノニ非ラス、斯ノ如ク品質ノ改良ニ努力スルト同時ニ供給先ヲ選擇スレハ相當ノ米價ヲ維持シ得ラル、ハ明カナリ、要スルニ玄米貯藏カ安全ニ行ハル、地方ニ於テハ素ヨリ玄米貯藏ヲ可トスヘキモ安全ニ行ハレサル地方或ハ場合換言スレハ秋收期ニ於テ乾燥困難ナル地方或ハ適當ノ貯藏所ヲ有セサル場合ニ於テハ籾貯藏必シモ不可ナリト言フヘカラス但シ此場合相當ノ注意ヲ必要トスルハ前述ノ如シ

第四項　各地方別籾貯藏ノ由來及變遷

北　海　道

由來水田耕作者ハ收穫後其幾部ヲ籾ノ儘貯藏スルモノアルモ多クハ玄米トシテ市場ニ販出スルヲ通例トセリ然レトモ收穫當時玄米ノ價格ハ一般ニ低廉ナルヲ以テ或期間之ヲ持越シ價格ノ昇騰ヲ俟チ賣却スルモノ少カラス然ルニ玄米ハ貯藏中害蟲ノ蝕害ヲ受クルコト多ク又米質ヲ損スルヨリ籾ノ儘貯藏スルモノ漸次增加スルニ至リシカ大正二年ノ凶歉ニ際シテハ益貯蓄ノ必要ヲ認メ同廳亦大ニ備荒貯蓄ノ奬勵ヲナシタル結果糧食及種籾トシテ籾ノ儘一ケ年乃至二ケ年ノ貯穀ヲナスモノ著シク增加シ少クモ翌年ノ作況ヲ見テ之レカ處理ヲナスノ現況ニ至レリ

東　京　府

ナシ

埼　玉　縣

本縣ニ於ケル籾ノ貯藏ハ往古交通運輸ノ不便ナリシ時代ニハ備荒貯藏ノ爲其ノ高鮮少ナラサリシモ現今ニアリテハ山間部ノ如キ秋收ノ際籾ヲ充分乾燥スルコト能ハサル地方及ヒ水害ノ虞アル地方ニノミ行ハレ其ノ貯藏石高極メテ僅少ナリ即チ入間郡約五千石、南埼玉郡三百石内外、北足立、北埼玉、比企ノ三郡各五六十石許、而シテ各郡トモ米穀檢査實施ト共ニ漸次減少ノ機運ニ際會シツヽアリ

其一　山陰ノ爲秋收ノ際充分ニ籾ヲ乾燥スルコトヲ得サルモ出來得ル限リ之ヲ進メテ貯藏シ翌年三、四月頃ニ至リ日光ノ直射ヲ避ケ莚乾ヲ行ヒ摺臼ニ掛ケ米トナス

其二　蟲害ヲ避クル爲秋收籾ノ乾燥ヲ充分ニシ貯藏ノ上必要ニ應シ米トナスモノアルモ多クハ夏期

土用後ニ於テ米トスルヲ普通トス

其三　水害ノ虞アル地方ニ於ケル貯藏ニ就テハ特記スヘキモノナシ

千　葉　縣

籾ノ貯藏ハ往古ヨリ行ハレ今日尚此ノ慣行アリ其由來不詳ナリト雖主トシテ備荒、蟲害、變質ノ防止、勞力ノ分配等ノ事項ハ此ノ慣行ヲ馴致セルモノト認メラル、爾來漸次減少シ現今ニ於テハ僅ニ自家用飯米ヲ貯藏スルノ程度ニシテ殊ニ米穀檢査實施後ハ著シク減少セリ

茨　城　縣

管內中舊水戶藩ノ貢米ハ籾ヲ以テ徵收スルヲ法トセラレ、隨テ地方個人間ノ取引モ籾ヲ以テ授與シタリ、當時ニ於ケル籾ハ乾燥、調製其ノ他ノ取扱ニ至ルマテ適當ニアリシト云フ、然ルニ明治維新地租改正ノ結果貢米ノ制ヲ廢シ、金納ニ改マリ米ノ收納ハ農家ノ自由ニ任シタルタメ極メテ粗放ニ陷リタルモ籾取引多年ノ慣行ニ從ヒ農家又ハ地主ニ於テ必要ニ應シ籾ヲ摺リテ販賣セリ、產米檢查施行ヨリ取引ヲ禁止セルモ農家ハ舊慣ヲ墨守シ今尚翌年端境期マテ貯藏スルモノアリト雖慣行トシテハ河北三郡ニ止マリテ著シキモノナシ

栃　木　縣

籾貯藏ノ由來ハ其ノ紀元古クシテ往昔交通不便ナル時代ニ於テ凶作ニ備フル目的ト玄米貯藏ノ方法熟知セサルトヲ以テ此ノ慣行ヲ生シタルモノト思料セラル、其後運輸交通ノ便開ケ以來昔日ノ如ク長期ニ亘リ籾貯藏ノ必要ヲ感セサルト、經濟思想ノ發達ニ伴ヒ、漸次其ノ慣習ヲ減シ、一面產米改良ノ手段トシテ籾取引ヲ禁シ、更ニ今摺米廢止ノ督勵ヲ加ヘタル結果、現今ニ至リテハ大半秋摺ヲ爲スニ至リ唯比較的經濟ノ豐ナル者、及自家ノ食料ニ供スルモノヲ籾ニテ貯藏スルモノアルニ過キス

群　馬　縣

籾ヲ貯藏スルモノナキニアラスト雖產米寡少ナル山村ノ一小部落ニ行ハルルノミナリ

長　野　縣

舊藩政時代ニ於テハ各藩ニ於テ食糧獨立制ヲトリ、又備荒貯蓄ノ爲メ米ノ販出ヲ禁シタルヲ以テ籾貯藏ヲ行フモノ多カリシモ、交通機關ノ發達ニ伴ヒ米ノ取引容易トナリタルヲ以テ大地主ノ外貯藏スルモノ減少シ、各自家用米ノ外ハ收穫後直チニ玄米トシテ賣却スル者增加シ、且貯藏ヲ行フ者ニ在リテモ販賣上ノ便宜ノ爲ニ長期貯藏ヲ除ク外玄米貯藏ヲ行フ者增加セリ而シテ輓近二硫化炭素燻蒸施行ノ結果ハ益々籾貯藏ヲ減退セシメツツアリ

山　梨　縣

本縣ハ槪シテ籾貯藏ナリ、但シ北巨摩郡一圓、中巨摩郡御影、田之岡、百田、源ノ諸村及東山梨郡諏訪、岩手、八幡、ノ諸村ハ小作料ヲ玄米ニテ取立ツルヲ以テ玄米ニテ貯藏スル慣行アリ

本縣ニ於テ一部地方ヲ除キ他ハ悉ク籾ニテ貯藏スルノ慣行アル所以ハ其産米額少ナクシテ自給自足ノ策ヲ取ラサルヘカラサルノ必要アルニ因ルモノトス、則チ往昔交通不便ナル時代ニアリテハ自國ノ産ハ大切ニ之ヲ保存シ置キ以テ自國ノ消費ニ供ヘサルヘカラス、之カ爲ニハ籾ニテ貯藏シ必要ニ應シテ隨時米トナスヲ便ナリトセシモノナリ、現ニ武田氏ノ租税ヲ課スルヤ一反歩三百六十歩ノ三分ノ二即チ二百四十歩ヲ大切トナシ他ノ百二十歩ヲ小切トナシ大切ノ三分ノ一ヲ金納トナシ三分ノ二ヲ籾納トシタルヲ以テモ知ルヘキナリ、然ルニ玄米貯藏ノ慣行アル北巨摩郡及之ニ隣接セル中巨摩郡ノ一小部分ハ縣内ニ於ケル米産地ニシテ販賣ノ餘力アルヲ以テ自然玄米扱ヲ便トセシモノナルヘク、又徳川時代ニハ其一族ナル田安家、一橋家、清水家等各治所ヲ置キテ租税ノ事務ヲ取扱ヒタルトコロアリ、此等治者ノ方針ニヨリテモ亦其慣習ヲ異ニシタルナルヘシ、即シ東山梨郡ノ一部ニ玄米制ノ處アルハ田安家ノ所領ナリシニヨル、現今ニ於テモ本縣産米ハ未タ消費ヲ償フニ足ラスシテ年々十二、三萬石ハ移入ヲ仰カサルヘカラス、故ニ地米ハ之ヲ移出スルコトナク依然舊來ノ如ク縣下ノ需用ニ充テ其不足ヲ越後米秋田米等ニ仰クノ狀況ナルヲ以テ地主ハ今モ尚籾扱ノ慣行ヲ有利ナリトナス即籾ハ貯藏安全ニシテ玄米ニ比シ能ク久シク貯藏ニ堪フルヲ以テ市價ノ昇落ヲ見計ラヒ適宜賣出スコトヲ得ルノ利益アレハナリ

新潟縣

籾貯藏ハ昔時ニ於テ相當ニ行ハレタルモ現今極メテ僅少ニシテ僅カニ山間部又ハ信濃川沿岸地方ニシテ其年ノ災害有無ヲ判定シ得サル地方ニ限リテ行ハレ、二百十日頃ヲ過キ其年ノ豐凶ヲ豫測シ得ルニ及ヒテ始メテ處分スルヲ例トス尤モ籾貯藏カ往時ニ比シ近時非常ニ稀トナリシハ交通ノ便開ケ米購入販賣容易トナリ、今摺米カ一般取引ニ於テ秋摺米ニ比シ安價ナル爲ニヨル特例トシテ佐渡郡ニ於テハ籾貯藏多ク行ハレ自作及小作者ノ飯米並春夏ノ賣米ハ全部籾ヲ以テ貯藏セラレ、玄米貯藏ハ地主ニ於テ之ヲ見ルノミ、斯ノ如ク籾ヲ以テ貯藏セラルルハ主トシテ往古乾燥法進歩セサル爲籾ニ非サレハ夏季ヲ持越スコト能ハサルト航運ノ便不自由ニシテ一朝凶作ニ際シ供給意ノ如クナラサル爲籾ヲ以テ年次持越シタル慣習アリタルニヨル

富山縣

本縣ニ於テハ古來ヨリ籾貯藏アリ、維新前迄農家ハ秋收後ニ於テ貢租ニ充ツル分ト年末ノ家政資金ヲ得ル爲ニ販賣ヲ要スル分ト翌年ノ植付ヲ終ル期間内ニ要スル自家消費トノ分トヲ脫穀シテ玄米トシ、自餘ノ米穀ハ籾ニテ貯藏シ置キ毎年五月以後ニ於テ必要ニ應シ脫殼シ今摺米トシテ販賣又ハ消費用ニ供スルモ其貯藏籾ノ大部分ハ當年ノ作柄ヲ見定メタル上ニテ玄米ト爲シ販賣サレタリ、地主ハ其ノ小作米ヲ玄米ニテ收納スルヲ通例トセシモ中ニハ小作收納米ノ内幾分ヲ籾ニテ藏入セシメ籾ニテ貯藏セシ者モ少カラサリシカ如シ

斯ク米穀カ籾ニテ貯藏セラレシハ要スルニ次ノ理由ニ依ル

(一) 玄米、白米ニテ貯藏スルヨリモ管理容易ニシテ腐敗蟲蝕ノ被害少キコト

(二) 中農以下ニアリテハ玄米貯藏ノ倉庫ヲ有セサリシコト

(三) 舊藩政時代ニ於テハ凶作ニ際シ他藩ヨリ米麥ノ供給ヲ受クル能ハサリシニ依リ可成籾ニテ長期ノ貯藏ニ堪エシメンコトニ注意シタルコト

(四) 持米ヲ他藩ニ自由ニ移出シ能ハサリシ爲米ノ需要緩徐ナリシコト

維新後租税制度ノ改正ト交通運輸ノ便開ケタルヨリシテ籾ノ貯藏ハ年一年ト減少スル傾ナリ舊藩政時代ニアリテハ租税トシテ上納セシ殘リノ米穀ノ約四割迄ハ籾ニテ貯藏セシモ現今ニ於テハ總生産高ノ九割以上ヲ玄米トシテ販賣又ハ貯藏シ籾ニテ貯藏スルモノハ僅ニ一割以内ニ過キス

石　川　縣

籾貯藏ノ由來ハ明カナラサレトモ、往古ヨリ其ノ慣行アリタルモノノ如ク、舊藩時代ニアリテハ備荒ノ意味ニ於テ主トシテ貯藏セリ、然ルニ籾ノ貯藏ハ蟲害ヲ豫防シ、米ノ品質ヲ損セス、且縣下鳳至郡珠洲郡ノ如キ山間部ニアリテハ收穫期ニ降雨頻繁ニシテ乾燥、調製ノ作業ニ困難多キヲ以テ籾貯藏ヲ便トシ、今日ニ至ル迄其ノ慣行ヲ存セリ

貯藏籾ハ概ネ翌年七、八月頃臼摺ヲ爲シ今摺米トシテ市場ニ搬出シ、又ハ自家飯米ニ供用ス、而シテ明治四十四年以降産米檢査制度發布セラレテヨリ米ノ乾燥、調製ハ從來ト一變シ漸次改善セラレ玄米トシテ貯藏ニ堪ユルニ至リタルヲ以テ現今籾ノ貯藏量ハ往時ニ比シ著シク減少セリ

福　井　縣

藩政時代ニ於テ地藩ノ如ク籾納ノ制無ク、隨ツテ藩倉ニ於ケル籾貯藏ノ實歴ナシ、併シ一般農民ハ籾貯藏ノ慣行ヲ有シ、多クハ翌年八九月頃ノ作柄ヲ見タル後籾摺ヲナシ自家消費以外ノモノヲ賣出スヲ例トス、要スルニ備荒ノ用意ニ外ナラス、現今備荒ノ必要少ナキニ至リテモ尙此ノ舊慣カ幾部續行セラレツツアリ然レトモ經濟關係ノ不利益ヨリ漸次減少ノ傾向アリ

福　島　縣

籾貯藏ノ慣行ハ地方ニ依リ異ルモ概シテ一般ニ行ハレツツアリ、而シテ其ノ由來變遷詳カナラサルモ貯藏ハ凶歉ニ備フタメナリ、中流以上ノ自作農家ニシテ販賣ノ餘分アルモノハ籾貯藏ヲナス傾向アルモ連年凶歉ニ遭遇シタル本縣ノ農村ハ漸次土地ノ兼併行ハレ中農減シテ大小農增加スル趨勢ナルヲ以テ小作米等ノ關係ニヨリ籾貯藏比較的少キカ如シ

宮　城　縣

籾貯藏ニ關シテハ舊藩主伊達家ニ於テ凶荒救濟ノ爲メ備荒籾倉ヲ常設シ民間ニモ之カ設立ヲ促シ、且種々便宜ヲ與ヘタルヨリ部落每ニ共同倉庫ヲ準備シ應分ノ籾ヲ貯藏シテ凶荒ニ備ヘタリ、當業者モ亦

自ラ相當ニ貯藏スルノ習慣アリシカ、廢藩置縣ト共ニ備荒籾倉制度廢止セラレ民間ニ於テモ鐵道開通以來運輸ノ便ヲ得タルニヨリ貯藏スルモノ漸次減少シ、栗原、加美、玉造、黒川郡等ノ山間地方ニテ資産ヲ有スルモノノ外殆ント貯藏スルモノナキノ現況ナリ、該地方ニ於テハ特ニ出費アル場合（法事婚禮等）及納稅等ノ爲、不意ニ金錢ヲ要スル際ニ行フモノニシテ慣行トシテ行フモノ殆ントナク、其年生産セル籾ハ之ヲ貯藏シ古キモノヨリ寒摺トナシ其ノ翌年ノ經費ニ充ツルナリ

山形縣

（イ）備荒ヲ目的トスル籾貯藏ハ天保ノ饑饉以來殊ニ其必要ヲ感シタルカ如ク、中流以上ノ農家ハ一部ヲ籾ヲ以テ貯藏シ置キ翌年二百十日前後ニ於テ作柄ヲ見定メタル後調製、販賣シタルカ如シ現今ニ於テハ交通機關ノ發達等ニ依リ凶歉ノ際ト雖必シモ籾ヲ要セサルヲ以テ此目的ノ貯藏ハ殆ントナシ

（ロ）販賣ヲ目的トスル籾貯藏ハ主トシテ稻ノ乾燥不良ノ地方ニ多ク即チ玄米ニテ貯藏スレハ五六月頃ヨリ變質蟲蝕ノ害ヲ受クルヲ以テ之レヲ避ケンカ爲冬春季ニ於テ販賣スルモノノ外籾ヲ以テ貯藏シ夏季相場ノ關係ニ依リ販賣ノ際調製スルモノナリ、此習慣ハ現今ニ於テモ乾燥不良ナル置賜一市三郡及南村山郡等ニ多シ、他ノ村山方面ニアリテモ維新當時ニハ其ノ習慣アリ就中小作料ヲ籾ヲ以テ收納スルモノ少カラサリシモ乾燥法ノ改良ノ結果貯藏困難ナラス且夏摺トスレハ調製後急ニ變質シ却ッテ冬摺ニ劣ルニ至ルヲ以テ籾貯藏ノ習慣漸次減少シ目下ハ僅ニ其ノ跡ヲ留ムルニ過キス、籾年貢等ハ殆ト見ルヘカラサルニ至レリ

秋田縣

往昔備荒貯蓄ノ目的ヲ以テ永年間貯藏セラレタルモ、今ヤ此ノ意義ニ於ケル貯藏ハ漸次減少シ來リ、而シテ小作料事實存在スルモノト雖、其ノ籾ハ永年貯藏セラルルコトナク年々更新スルノ現況ナリ、又ハ歳末歳始ノ資ヲ得ル爲販賣米ハ收穫シタル其ノ年内ニ籾摺ヲ行フト雖其他殘餘ノ大部分ハ調製後籾ノ儘貯藏シ必要ニ應シ時々籾摺ヲ行フモノニシテ此點ハ數十年前ト大差ナキモノト思料セラル、又本縣米穀ノ取引ハ舊藩當時ヨリ一般ニ玄米扱ニシテ小作米ノ如キモ總テ玄米納ノ慣習ナルヲ以テ籾トシテ貯藏セラルルハ僅カニ自作者ノ分ニシテ翌秋新穀ノ收納期迄一部貯藏スルモノアルニ過キス、而シテ其ノ數量ハ固ヨリ明確ナラサルモ、平年生産高（凡ソ二百九十萬石）ニ對シテ約二百分ノ一即チ一萬四千五百石內外ニ止マリシカ、其ノ他町村又ハ部落ニ由リ特ニ凶荒貯穀ノ目的ヲ以テ組合又ハ部落トシテ共同的ニ貯穀スルモノアルモ（例ハ仙北郡金澤町中野）其個所及數量不明ナリ

巖手縣

籾ノ貯藏ハ古來ヨリノ慣行ニシテ交通運輸ノ不便ナリシト、頻々タル凶作ノ襲來ニ對スル策ト、舊藩時代食料國越禁制等ノ理由ニ基キ行ハレタルモノノ如ク、貧富、土藏ノ有無ヲ問ハス多少ニ拘ハラス雜穀ト共ニ之カ貯藏ヲナシタルナリ、而シテ籾トシテ貯藏スルトキハ保存ニ耐フルト蟲害殆ント皆無

ナルトニ因リ最モ尊重セラレタルタメナラン、其後漸次此風習衰ヘ現金ニ換ヘテ利殖スルモノアルニ至レルモ、尚舊慣ヲ守ルモノ尠カラス

青森縣

津輕地方（舊津輕領）ニテハ收穫セル米ノ幾部ヲ翌年夏秋ノ候迄貯ヘ置キ隨時玄米トシテ販賣ス、是レ籾ハ玄米ニ比シ貯藏容易ニシテ變質スルコト少ナク、今摺米ハ常ニ幾分高價ナルカ故ナリ、往時ハ鄕倉ノ制アリ、備荒用トシテ籾ヲ永年間貯藏セシカ、明治維新以後交通運輸ノ便開ケタル結果、鄕倉ノ數著シク減少セリ、南部地方（舊南部領）上北、三戸兩郡ニテハ昔時ヨリ今日ニ至ルマテ籾ノ儘貯藏スルヲ普通トス

神奈川縣

ナシ

靜岡縣

籾貯藏ハ縣下富士郡及庵原郡ノ一部ニ行ハル、富士郡內元吉原村、須津村、吉永村ニ於テハ古來凶作ニ備フル爲一反歩ニ付、自作小作共ニ籾一俵（凡ソ五斗入）位ノ貯藏ヲ行ヒ居タルモ、逐年減少シ元吉原村ノ如キハ殆ント其跡ヲ絕テリ、同郡大淵村ニ於テハ明治三十五年頃迄ハ米ノ產額多カラサリシカ故ニ籾ノ儘藏入スルヲ常トセルモ、現今ニ在リテハ多クハ玄米トセリ、但シ自家食用ノ分ハ籾ノ儘貯藏シ置キ、入用ノ際玄米トシテ使フ、同郡北山村上井出村ハ倉庫ノ完全ナラサルタメ害蟲發生ノ虞アリ、其被害ハ直チニ米質ニ及ホスヲ以テ籾貯藏ノ慣行アリ、庵原郡ノ富士川町、蒲原町、及袖師村ノ一部ニ於テハ籾ヲ年貢米トシテ上納セル時代ノ習慣ヲ傳ヘ來リ、尚籾ノ儘貯藏スルモノアリタルモ僅少ニシテ現今ニ於テハ殆ントナシ

愛知縣

籾貯藏ニ關シテハ昔時備荒貯蓄行ハレ、殊ニ三河郡矢作川沿岸ノ各部落及尾張南部地方ニ盛ナリシモ、交通機關ノ發達ト堤防ノ修理、水路開鑿、排水ノ工等成リテ水害ノ憂ヲ免カルルニ至レルト共ニ籾ノ貯藏モ漸次減少シ、現今ニ於テハ如斯貯藏ハ殆ントナキニ至レリ、尤モ現況ニ於テハ農家秋收ノ季節ニ於ケル勞力ノ關係上又ハ夏越米トシ、蟲蝕ヲ慮リ貯藏スルモノナキニアラサルモ、今ヤ一般ニ二硫化炭素燻蒸ノ實行セラルルニ至リ、且今摺米ノ比較的米質ノ劣レルヲ以テ之等ノ慣例モ漸次減少スルニ至リ、只米價ノ關係上籾ニテ貯藏スルモノアルモ其ノ期間短カク、且ツ僅少ニシテ何レモ收穫後直チニ玄米トセラル、從ツテ籾貯藏トシテハ特種ノ慣行殆ントナシ

三重縣

伊賀ノ山間部、揖斐川及木曾川ニ圍マルル伊曾島地方及南部ノ交通不便ナル地方ニハ今尚籾貯藏ノ習慣ヲ存ス、但シ米穀檢查開始以來當局ノ勸誘ニヨリ漸次減退ノ傾向ニアリ、伊賀ノ山間部ハ高燥ノ地

ニシテ米作技術ノ幼稚ナル時代ニアリテハ往々秋冷ノタメ不作ノコトアリテ收穫米ヲ全部秋摺トシテ手放スコト甚タ危險ナリ、旁々籾ヲ以テ貯藏セハ蟲害ノ虞ナキヲ以テ籾貯藏起リ、翌年ノ作柄ヲ見タル後賣却スルコトトセリ、又伊會島地方一帶ハ揖斐川及木曾川ニ圍マルル三角州ニシテ往々水害ヲ被リタリ、故ニ備荒ノ必要上籾貯藏起リタルナリ、然レトモ現今ハ河川ノ修理成リテ氾濫ノ被害ナキモ尚遺習トシテ行ハルルナリ、之等ノ貯藏籾モ大抵八月ヨリ十月迄ニハ今摺米トシテ賣出サル、其數約一萬俵(一俵四斗入)ナリト云フ、但シ農家自家用米ハ全部籾トシテ貯ヘ必要ニ應シ臼摺シテ飯米ニ供スルナリ

岐阜縣

縣下羽島、海津、養老、安八諸郡ノ低地ハ從來屢水害ヲ蒙リ且米ノ乾燥不良ナル爲穀虫ノ發生夥シキヲ以テ備荒貯蓄トシテ相當ノ籾ヲ貯藏スル慣行アリ、長キハ三ケ年ニ亘ルモノアリシカ三川分流以來水害少ク或ハ耕地整理事業ノ完成ト相俟テ灌漑排水ノ便ヲ得又ハ排水機ノ設置等ノ結果連年相當ノ收穫アルニ至リシヲ以テ貯穀ノ觀念薄ラキ現今ニ至リテハ漸次減少シ一部ニ於テ行ハル、其他秋期繁忙ノ結果餘儀ナク籾ノ儘貯藏スルニ過キス、加茂、可兒、土岐、惠那、益田諸郡ニ於テハ往古ヨリ自家用ハ多ク蟲害ヲ防クト又秋期多忙ノタメ籾ノ儘貯藏シ翌年八九月頃玄米トナス慣例アリシカ、近來ハ二硫化炭素燻蒸ニヨリ漸減セリ、飛彈國大野、吉城兩郡ハ掟米ノ外全部籾ニテ貯藏ス、其由來等ニ付テハ特記スヘキモノナキモ蟲害ヲ被ラサル爲品質ヲ損セサルニ依ルモノ、如シ

滋賀縣

各郡共湖畔ノ部落ニ於テハ一般ニ盛夏ノ頃迄籾貯藏ノ慣習アリ、其理由ハ本縣ハ中央ニ琵琶湖ヲ控ヘ植付前後即チ梅雨期ニ霖雨アルトキハ忽チ琵琶湖氾濫シテ沿湖ノ田面ニ浸水シ、數日若クハ數十日間減水スルコトナク、一旦植付タル稻苗ノ腐敗セシコト從來屢々ナリシヲ以テ其場合ニ處スル爲豫備ノ種子トシテ貯藏スルモノナリ、但淀川改良工事施行後數年間殆ント其ノ害ナカリシヲ以テ此意義ニ於ケル籾ノ貯藏ハ漸次減少シツツアリ、又穀蟲ノ害ヲ豫防スル爲、籾ニテ貯藏シ置キ梅雨期ヲ過キテ玄米トナシ、自家ノ糧食ニ供スルモノアリ、又凶荒豫備ノ目的ヲ以テ舊來ノ慣行ニ依リ、籾ノ貯藏ヲナスモノアリ、其ノ地方左ノ如シ

(イ) 蟲害豫防ノ爲貯藏スルモノ

高島郡ノ一部、滋賀郡小松村ノ一部、蒲生郡ノ一部、神崎郡ノ一部、東淺井郡ノ一部

(ロ) 凶荒豫備ノ爲貯藏スルモノ

甲賀郡多羅尾村(小學校基本財産トシテ籾六百俵ヲ有シ毎年更新ス)

甲賀郡石部町太字東寺(甲賀郡多羅尾村及石部町大字東寺ハ舊幕時代ハ代官多羅尾氏ノ領地タリ)

京都府

丹波、丹後地方ハ古來籾ヲ貯藏スルノ慣行アリシモ經濟狀態ノ變遷ニヨリ、漸次其額ヲ減少シ、現今ニ於テハ殆ント昔日ノ比ニアラス、創始ノ時代ハ確タル記錄ナキ爲メ判明セサルモ、藩政時代ニ藩ニ於テ籾ノ備荒貯蓄ヲナシ、三年目ニ至リ新籾ト交換シ、明治九年迄引續キ行ハレタル地方モアリタリ

大　阪　府

籾貯藏ニ關シテハ府下豐能郡（郡內山間部ノ能勢地方）ニ於テ古來穀蟲ノ蝕害防止ノ目的ヲ以テ貯藏スル者アルモ單ニ自家食料米ノミニシテ其量僅少ナリ

奈　良　縣

籾ノ貯藏ハ不利ト知リツ、自家用米ノミヲ貯藏スルモノアレトモ單ニ一小部分ニ止マリ山間部ニテ之レヲ行フ

和　歌　山　縣

籾貯藏ハ有田、日高、西牟婁郡ノ一部及東牟婁郡ニ於テ行ハレツツアリ、其ノ由來ハ記錄ノ徵スヘキモノナシト雖、今挽ト稱シ蟲氣ナシトテ重寶シ、味亦美ナリトノ事由ニ依リ、百年前ヨリ之ヲ行ヒツ、アリタルモノノ如ク、古老ノ言ニ依レハ七、八十年以前ト現代ノ法ト異ナル所ナシト云フ、而シテ近時此種ノ貯藏法ハ漸ク減少ノ傾向ヲ示シツツアリ

兵　庫　縣

往古貯穀ノ方法トシテ秋收期ニ於テ其ノ當時賣却ノ必要アル分ニ限リ玄米トナシ、其他ハ籾ノ儘貯藏スル方法行ハレタリ、其ノ理由種々アリシト雖其後交通ノ便開ケ金融機關備ハルニ從ヒ備荒的貯穀ノ必要ナキニ至リタルト米穀檢查開始以來、產米改良ノ結果、玄米ノ貯藏力增加シ、籾貯藏ノ必要ナキニ至レリ、又近來ハ今摺米カ秋摺米ニ比シ食味惡シク、且色澤不良ニシテ價格低廉ナルカ故ニ其ノ不利益ヲ自覺シ、現今ハ丹波、但馬ノ一部ニ僅カニ行ハル

岡　山　縣

籾貯藏ハ縣下直庭郡川上、八束、中和、二川、湯原ノ諸村及苫田郡上齋、原、奧津、阿波、羽出富ノ諸村、阿哲郡千屋、上刑部、菅生、丹治部、刑部村地方ニ行ハレ多クハ秋季收穫期ニ於テ日射時間尠ク乾燥困難ナル爲籾ノ儘貯藏シ置キ翌年ノ夏季ニ於テ脫穀スルノ慣行ナリトス

廣　島　縣

貯穀慣行ノ由來及變遷ヲ繹ヌルモ記錄ノ徵スヘキモノナク口碑傳フル所ナキニヨリ、茫トシテ明ナラス、惟フニ藩政時代ノ農民ハ貢租トシテ生產額ノ殆ト全部ヲ秋挽米ト爲シテ津出シ、藏納ヲ行ヒ、僅ニ殘留スル一部分ノミヲ籾圍ト爲シ、萬一ノ凶饉ニ備ヘ又ハ春期ヨリ夏期ニ至リ漸次必要ニ應シ少許宛ノ籾摺ヲ行ヒ、日常生計ノ料ニ供シタルカ如シ、現ニ山縣郡八重村、壬生町地方ニ於テモ籾貯藏ニ用フル容器即チ籾重（一名井籠）及仕附ナルモノニ記サレタル容器調製年號ニ寛政（元年ハ今ヨリ百二十

八年以前）文化（百十三年以前）弘化（七十三年以前）等ノモノ存在セルヲ見レハ其ノ當時既ニ已ニ盛ニ行ハレタルヤ疑ヲ容レス

亞テ明治維新ノ改革行ハレ、六年七月地租改正ノ令アリテ貢米ノ制度徹廢セラレ、金納ト爲リタルモ貯穀ニ關スル慣習ニ著シキ變遷ヲ見ルニ到ラス、只地理的關係ニヨリ

一、秋期ノ天候不良ニシテ籾實ノ乾燥困難ナル地方ニ於テハ依然トシテ籾貯藏行ハレ

二、之ニ反シ比較的温暖ニシテ運搬ノ便宜シキ地方ニ於テハ一戸當ノ耕作面積モ比較的僅少然カモ乾燥ノ行ヒ易キ爲ニ秋期一時ニ調製スルモ不便ナキニヨリ米貯藏ノ慣習行ハル

殊ニ籾貯藏ヲ行ヒ必要ニ應シ籾摺ヲ爲シ、世俗ノ所謂今摺米ト稱スルモノハ食味ノ良好ナル一事ハ偶々籾ニテ貯藏スル慣習ヲ今日ニ持續スル一因ナルヘシ、而シテ籾貯藏ハ縣ノ大部分ニ屬スル地方ノ自作農カ主トシテ行フ處ニシテ縣下ノ生産額ノ約二割四分ヲ翌年四月以後ニ於テ玄米トナスモノト推定サル、次ニ現在ニ於ケル慣行狀態ヲ調査シ其ノ一斑ヲ表示スレハ左ノ如シ

郡名	同上町村數	籾貯藏ノ慣習アル町村數
安藝	二八	二八
佐伯	四一	二七
安佐	二八	二八
山縣	二〇	二〇
高田	二六	二六
賀茂	三九	三九
豐田	四六	二六
御調	三四	—
世羅	一三	一三
沼隈	三〇	—
深安	三二	—
蘆品	二〇	—
神石	二三	九
甲奴	九	—
雙三	一八	一八
比婆	二二	二二
合計	四二九	二三八

而シテ廣島藩ニ於テ饑饉備トシテ寶暦三年同十年安永三年領内各郡ニ籾圍ノコト仰出サレ高一石ニ付三斗五升入千俵宛即チ御高四十二萬六千五百石ニ對シ一萬四千九百二十七石五斗此俵數四萬二千六百十五俵ヲ蓄積セシメラレタル記錄ヲ存シ、其ノ藏所ノ所在地ハ左ノ如シ

沼田郡　八木、長束村

安藝郡　府中、矢野村

佐伯郡　大原、高田、佐方、玖島村

山縣郡　有田、大利原、加計、都志見村

高田郡　上根、三田、横田村

高宮郡　上中野、下深川村

賀茂郡　別府、十文字、大多田、下野、川尻村

豐田郡　忠海、河戸、本郷、椋梨村

御調郡　後地、市村

世羅郡　加茂村

三谿郡　三良坂村

奴可郡　西城、小奴可、戸宇村

三上郡　庄原、本村

三次郡　上川立、畑敷、上作木、上布野村

惠蘇郡　上、永田村

現時籾貯藏ノ慣行アル農家ト雖秋季充分ニ籾乾ヲ爲サハ良質ノ米穀ヲ得ヘシトハ一般ニ自覺セル處ナリ殊ニ明治四十三年米穀檢査開始以來主トシテ乾燥度ニ依リ等位ヲ上下スルヲ以テ價格ニ於テ一等級三十五錢餘ノ格差アルヲ目擊シ之カ改良ヲ痛切ニ感スルモ如何セン秋冬ノ候日照時間少ク且ツ勞力乏シキヲ以テ秋充分ナル籾乾ヲ爲ス能ハス單ニ架乾ヲ爲シテ扱キ落シ籾ノ儘之ヲ貯藏シ翌夏五月以後ニ於テ今挽ト爲ス、蓋シ又止ムヲ得サルモノアレハナリ、而シテ縣內主タル消費地タル廣島市場ニ於テハ乾燥不充分ナル秋挽ノ米ヨリモ却テ今摺米ノ方其ノ食味良好ナリトテ貴ハレ、從テ價モ亦高シ、故ニ籾貯藏ノ慣習ハ絕對ニ不可ナリト斷スルヲ得ス

然リト雖現ニ米貯藏ノ慣習アル方面ヲモ籾貯藏ニ更革セシムルノ要ナキヤ論ヲ俟タス

山口縣

本縣ニ於テ籾貯藏ノ慣行ヲ有スルハ阿武郡北部地方ニ限ラレ、其量二萬四五千石ニ達ス、何レノ時代ヨリ創始シタルヤハ之ヲ知ルニ由ナキモ、古キ歷史ヲ有スルモノノ如シ、維新前迄ハ各農家實行シ又小數地主ニテモ小作料トシテ籾米收受ノ慣行アリタルモ、漸次廢絕シ現今ニテハ中流以上ノ農家ニ於テ自作ノ幾分ヲ限リ貯藏シ翌年端境前籾摺ヲ行フ、尤モ上流農家ノ小部分ニテハ三四年前貯藏ノモノヨリ順次摺立食料トスルモノアリ

鳥取縣

多量ニ籾貯藏スルモノ少ク、自作農ニシテ米穀ノ賣却ニ急ヲ要セサルモノハ籾ノ儘翌年マテ貯藏シ必要ノ時ニ之ヲ籾摺トナシ賣却又ハ自家用トシ、小作農ハ其大部分ヲ小作米トナシ地主ニ納付シ籾ノ儘

貯藏スルモノハ翌年夏期以降ニ於テ自家用トシ、若クハ多少賣米トスヘキ少額ノモノナリトス、往々凶荒貯蓄トシテ少額ヲ數年貯藏スルモノアリ、明治二十年頃殆ント縣下全部ニ行ハレタリシモ現今ハ減少セリ

島根縣

古來籾ヲ貯藏スルノ慣行アリシカ當時ハ只飢饉ニ備フルノミヲ目的トセシモ其ノ後時勢ノ進運ニ伴ヒ米價昂騰シ農家ニ於テモ可成之ヲ貯藏シテ高價ニ賣却セントスル者多キニ至リシモ玄米ノ儘貯藏スルトキハ穀蟲ノ蝕害ヲ蒙リ到底六七月以後マテ貯藏シ能ハサルヲ以テ籾ノ儘貯藏シ夏期ニ至リ籾摺ヲ行ヒ販賣スルニ至レリ、尤モ籾ノ貯藏ハ中農ニ多ク地主及小作農等ニ於テハ之ヲ行フモノ少シ

德島縣

籾貯藏ハ米ノ蟲害及腐敗ヲ防止スルヲ以テ主眼トシ、從來海部、名西、阿波、麻植、美馬、三好各郡ノ山地添ノ箇所及板野郡沿海部ニ於テ翌年端境期迄貯藏スル慣行アリシモ、產米檢查開始以來漸次減少シ、目下ニ至テハ檢查除外地ニ於テ少數ノ貯藏アルモノノ外殆ント之レヲ見ス、但シ除外地ハ山間部二十八ケ村ニシテ米產額僅カニ三萬石內外ニシテ需要ニ滿タス、飯料ノ大部分ハ他ニ仰クノ狀態ナリ、此地方ハ秋收ノ際降雪ヲ恐レ麥蒔ヲ急クト冷氣加ハリ乾燥ノ仕上ケヲナス能ハサル等ノ爲春期ニ入リテ今摺米トナスナリ

香川縣

(イ) 籾貯藏ノ由來

縣下小豆郡ニ於ケル籾貯藏ノ由來ヲ尋ヌルニ其緒ヲ遠ク天正十三年ノ昔ニ發ス、時ノ豐太閤四國分配ノ際本郡ヲ天領ト稱シ、何レノ藩ニモ屬セシメス、將軍家ニ於テ之ヲ直轄シ代官所ヲ設ケ、諸藩ノ動靜ヲ監視セシメタリ、然ルニ本郡ハ瀨戶內海中ノ一孤島ニシテ、往古ヨリ灌漑水乏シク且田面狹ク、隨テ米ヲ產スルコト少ク、島民常食米ノ大部分ハ備前讃岐等ノ各地ヨリ廻航セルモノニ仰ケリ、而シテ當時ハ今日ノ如ク水運ノ利發達シ居ラス、暴風霖雨等ノ爲糧途ヲ絕タルルコト時々アリ、加フルニ敵藩ノ包圍ニ備フル爲常ニ糧食ノ豐ナランコトヲ希ヘリ、然レトモ平時平穩ノ期ニ於テ多量ノ米ヲ圍ヒ置クハ不經濟タルノミナラス、蟲蝕腐敗等ノ害ヲ生スルカ故ニ長期ノ貯藏ニ堪ヘス、玆ニ於テ元和八年小堀遠江守(伏見奉行ニシテ小豆島ヲ支配セシ人)ノ硏究ニ依リ、籾ハ蟲蝕腐敗等ノ害ヲ被ラス良ク長期ノ貯藏ニ堪ユルコトヲ發見シ島民ニ令シ本島產米ヲ籾ニテ貯藏セシメ新穀收穫マテヲ一期トシテ其間ノ糧食ヲ支ヘシメ、以上ノ不便ヲ救ヒタリト、南海治亂記及小豆島風土記ニ見ヘタリ、亦其故ナキニアラス

(ロ) 同上ノ變遷

本島籾貯藏ノ由來ハ前述ノ如ニシテ、廢藩置縣後ハ各藩攻守ノ事實ハ全ク消散セルノミナラス、汽

車汽船等水陸交通運輸機關ノ完備ト共ニ物貨速達ノ便備ハリ、長期貯穀ノ必要全ク去リタルモ、籾貯藏ノ慣行ハ地主小作者間ニ於ケル籾年貢受渡ノ習慣ヲ馴致シ、之カ爲相變ラス籾ノ貯藏行ハレシカ、降テ明治四十年米穀檢査制度ヲ布キ、産米ノ改良ヲ奬勵シタル結果、島民ハ貯籾ノ食味ヲ削減スル理由ヲ自覺シ、漸次之カ衰退ノ狀況ヲ呈シツツ今日ニ至レリ

（ハ）　同上ノ現況

本島籾貯藏上ノ變遷ハ上記ノ如クニシテ、根本的理由ハ既ニ消失セルニ拘ハラス、今尚本島總産額一萬石内外ニ對シテ約四割弱ノ貯籾事實ヲ示セリ、之レ他ナシ、本島民ハ概ネ商工漁等ノ兼業者ニシテ農專業者乏シク、爲ニ調米器具一般ニ不完全ニシテ、産米改良ノ手數ヲ厭フト、地主ニ於ケル籾年貢ノ慣行ハ籾二石ヲ以テ玄米一石ニ換算スルモノニシテ、品種ニ依リテハ玄米五分以上ヲ收穫シ得ルヲ以テ籾ヲ好ム等ノ理由ニ基クモノノ如シ

愛　媛　縣

本縣ニ於テハ籾貯藏ノ慣行著シカラスト雖、一部地方ニ行ハルルモノニ就キ調査スルニ、米價ハ特種ノ變動ヲ生セサル限リ、毎年七八月頃ニ至レハ高價トナルヲ常例トス、故ニ富裕ナル農家ハ此季ニ於テ賣却センコトヲ望ム、然ルニ此慣行アル地方ハ概シテ山間部ニ屬シ、冬作ノ播種植付等ノ作業ヲ急クカ或ハ地勢上乾燥ニ不適當ノ地ニシテ、一般ニ米ノ乾燥不良ナルヲ以テ之ヲ貯藏セントセハ乾燥、俵裝等ニ特別ノ注意ヲ施ササレハ變質若クハ穀蟲ノ蝕害多キヲ免カレス、却テ不利ヲ來ス爲此被害ヲ免ルル目的ヲ以テ比較的簡易ナル籾ノ貯藏ヲ爲シ夏摺ト爲スノ慣行ヲ誘致シ、今日ニ至リタルモノナルカ如シ

高　知　縣

籾貯藏ニ關スル由來ハ詳カナラサレトモ、古ク交通不便ナリシ時代ニアリテハ、地方ニヨリ社倉又ハ備荒貯蓄等ノ設ケアリ、若干年間乾燥籾ヲ貯藏シテ天災ニ備ヘタリシカ、尚之等ノ設ケナキ地方ニアリテモ、個人トシテ翌年收穫確實ナル時期迄籾ヲ貯藏スルノ習慣アリキ、然ルニ交通ノ便利開ケタル今日ニ於テハ農家經濟上籾ヲ長期間貯藏ノ必要ヲ認メス其習慣漸減ナリ、斯カル有樣ナルヲ以テ中農階級ニアリテハ食糧以外ノモノハ、翌春迄ノ間ニ玄米トナシ各自ニ機ヲ見テ賣却シ自家食料用籾ハ隨時摺リテ食用ニ供ス、中農以上ノモノニシテ籾ヲ貯藏スルモノ尠シ、然レトモ西部幡多郡ハ交通尚不便ニシテ往時ヨリ籾貯藏ノ習慣アリテ今日ニ至ル迄之レヲ繼續セリ

福　岡　縣

本縣ニ於ケル貯穀ノ方法ハ維新前ハ大小數藩ニ分レ、貢米ノ制度區々ニシテ容量俵裝共ニ一定セサリシモ、嚴密ナル檢査行ハレタルヲ以テ籾トシテ貯藏スルモノハ至ツテ僅少ナリキ、就中豐前地方ノ如キ當時ヨリ全ク籾トシテ貯藏スルノ慣例ナカリシモ、廢藩置縣後ハ金納制ニ改正セラレ、爲ニ乾燥、

調製共農家ノ自由トナリシ結果、籾ノ儘各郡トモ貯藏スルコトトナレリ、貯藏籾ハ必要ニ應シ籾摺スル現況ニテ、籾貯藏ノ不利益ナルヲ認メ、檢査施行地ハ勿論未施行地ニ於テモ冬摺ヲ奬勵シツツアリ

佐賀縣

籾ノ貯藏ニ付テハ從來種々慣行アリ、佐賀郡ニテハ主トシテ叺俵ヲ用ヒ一部ノ地方ニハ籾倉ヲ用フルモノアリ、神埼郡ニテハ叺俵、叺籠、籾倉ヲ用ユ、三養基郡ニテハ籾室、桶、箱等ヲ用フ、東松浦郡ニテハ明治二十年頃迄ハ容量六斗位ノ俵ヲ用ヒ屋内ノ土間ニ枕木ヲ置キ其ノ上ニ積ミ重ネテ貯藏セシカ、近來籾セコヲ用フルニ至リ、以前ノ籾俵ヲ用フルモノ至ッテ尠ナシ、杵島郡ニテハ籾トヤヲ設ケテ貯藏ス、此ノ他小城、西松浦郡地方ニ於テモ籾貯藏ノ慣行アリ、其ノ方法ハ前記ノ方法ト大差ナシ、藤津郡ニテハ籾貯藏ノ慣行ナシ

長崎縣

南高來郡及東彼杵郡ノ一部ヲ除キ其他ニ於テハ小作米又ハ必要ニ應シ秋期直チニ脫稃スヘキモノ、外ハ多クハ籾ノ儘ニテ貯藏シ、自家用若クハ賣却用トシテ其ノ都度籾摺ヲ爲スノ慣行アリ、其ノ起原ハ極メテ古ク由來變遷等詳ナラサルモ、玄米貯藏ニ適スル倉庫ヲ有セサルニ依リ、蟲害ヲ減少シ米ノ品質ヲ保持シ、且秋期ニ於ケル勞力ヲ省カンカ爲ニ基因セルモノノ如シ

大分縣

籾貯藏トシテハ只管下直入郡方面ニ於テ翌春一二月頃迄貯フル習慣アルノミ、同郡ハ縣下ノ山中部ニ位シ、氣温早ク低下シ、麥作付作業上不便多キヲ以テ、一應籾ヲ取入レタル儘貯ヘ、麥植付及其外野外ノ業務ヲ終リタル後漸次籾摺ヲナスノ有樣ニテ、一ノ慣習トナリ居レリ、或ハ一説ニハ同郡ノ西東方ニ阿蘇山アリテ噴火ノタメ作物ヲ害スルコトアルカタメ備荒ノ目的ヲ以テ籾貯藏ノ慣行起レリト云フ但現在此ノ説ハ籾貯藏ノ原因トシテ有力ナラサルカ如シ、而シテ此ノ傾向ハ漸次減少スル氣運ニアリ

熊本縣

慣行ノ由來ハ小作制度ノ關係、乾燥不良ノタメ玄米ヲ以テ長期保存ニ堪ヘサル關係、藩制ノ際移出入ヲ禁スル場合ニ於ケル保存ノ關係備荒貯蓄ノ關係等トニ依リ、天草、球磨ノ二郡ハ今尙籾ノ貯藏行ハル、慣行ノ變遷ハ球磨郡ニアリテハ米劵倉庫ノ發達ニ依リ小作米ハ過半玄米貯藏ノ氣運ヲ迎ヘツツアルモ、一般農民ハ由來製俵ノ作業ヲ知ラサルモノ多クタメニ籾貯藏シ、販賣ノ時機ニ籾摺ヲ行ヒ叺入ヲ以テ受渡ヲナス狀態ナリ、然ルニ天草郡ニアリテハ地主、小作者共ニ籾貯藏ニシテ從ッテ籾賣買行ハル、本島ノミハ米穀檢查施行除外地トス

宮崎縣

籾貯藏ノ慣行ハ古來ヨリ行ハレ、遠ク藩政以前ニ始マリタルガ如キモ、其ノ由來詳ナラス、近年ニ至

リ寒摺米ノ實行ヲ奬勵シタルノ結果漸次籾貯藏ノ量ヲ減シツツアリテ、地方ニ依リテハ殆ント籾ノ儘貯藏スルモノナキノ狀況ニ至レリト雖、未タ全ク其跡ヲ絕ツニ至ラス

鹿兒島縣

本縣ハ明治六年貢米制度廢止以來小作米ヲ除クノ外出來秋ニ於テ籾摺ヲナスモノ殆ントナク、一般ニ籾貯藏ノ慣行トナリ、各目消費及販賣ノ場合、隨時ニ籾摺ヲ實行シツツアリシカ、明治四十二年米穀檢查實施以來秋摺奬勵ノ結果、年次之ヲ實行スルモノ增加シ、現在總生產額ニ對シ秋摺ハ六割五分ニ達シ、籾ニテ持越シ、今摺トナスモノハ三割五分ニ過キサルモノノ如シ、籾ノ貯藏ハ概シテ出來秋ニ於テ乾燥不充分ナル籾ヲ貯藏スル慣行アルヲ以テ後日籾摺步合惡シク、且ツ米質惡變シ、從テ價格秋摺米ニ比シ低廉ニシテ、殊ニ市價向上ノ好時期ニ販賣スルノ機ヲ失シ、不利益尠カラサルヲ以テ、近來秋摺ヲ實行スルニ至レリ、然ルニ玄米ヲ貯藏スル時ハ、往々金錢ヲ徒費スルノ傾向アルハ却テ各自ニ不經濟ナリト唱道スルモノアルモ、之等ハ單ニ人情ノ弱點ニ過サル口實ニシテ、若シ其玄米ノ貯藏、取引法及金融機關ノ設備等卽チ現在本縣ニ於テ奬勵中ニ係ル地方ニ於ケル農業倉庫等ノ設置普及スルニ至ラハ敢テ憂フルニ足ラサルヘシ

尙特ニ籾貯藏ノ慣行アル地方ニ於ケル籾貯藏ノ變遷ヲ調查セルニ左ノ如シ

栃木縣

今摺米又ハ籾貯藏慣行ノアリシハ、那須、河內、鹽谷ノ各郡及芳賀、上都賀兩郡ノ一部地方ナリシカ、鐵道開通以來長期ニ亘ル貯藏ハ漸次減少シ、收穫米ノ半數ハ次年ノ出穗ヲ見テ後賣却スルモノ多キニ至レリ、而シテ米穀檢查實施以來大正元年九月ヨリ籾取引ヲ禁止シ、次テ同四年一月以來今摺米廢止ノ督勵ヲ爲シタルヲ以テ、爾來頓ニ其數ヲ減シタリ、今大正三年度及四年度ニ於ケル今摺米ノ檢查成績ヲ見ルニ左ノ如シ

年次	生產檢查總數	今摺米數	總數ニ對スル步合
大正三年度	二、四七九、六二〇俵	三八八、二八八俵	一割五六
大正四年度	二、六六五、八一八	二二五、五三六	、八五
增減	增 一八六、一九八	減 一六二、七五二	減 、七一

島根縣

藩政時代ニ於テハ主トシテ備荒ノ目的ヲ以テ籾ヲ貯藏スルモノ多カリシモ、明治維新以後交通機關ノ發達及經濟狀態ノ變遷ニ伴ヒ其ノ數漸次減少スルニ至レリ

現今ニ於テハ自作農及比較的大面積ノ土地ヲ耕作スル小作農ニ於テ籾ヲ貯藏シ今摺米ト爲シ、自家ノ食料及地方飯米用ニ供給セリ、之レ當地方產米ハ乾燥良好ナラサルタメ梅雨季以後玄米ニテハ貯藏ニ

耐ヘ難ク、從ッテ食味モ不良ナルニヨリ今摺米ヲ用ユルモノ多シ、地主ニヨリ籾ヲ小作料トシテ收納スルモノアリシモ近時二硫化炭素燻蒸法ノ普及等ニヨリ籾ヲ收納スルモノ漸ク減少スルニ至レリ

福岡縣

豐前地方ヲ除ク外、筑前筑後地方トモ、維新後ハ冬摺ノ習慣頽廢シ、籾ノ儘籾倉ト稱スル小形ノ倉庫ニ貯藏ス、之レニ投入サレタル籾ハ密閉シ置クヲ以テ醱酵シ、色澤不良、往々暗黝色ヲ呈シ、搗精純白ナラス、搗減多ク、且ツ飯糧トシテハ一種ノ臭氣ヲ帶ヒ、品位ヲ損スルモノナシトセス

山口縣

今搗米又ハ籾貯藏ノ慣行ハ明治維新前迄、阿武郡一圓ヲ最トシ、佐波、都濃、玖珂郡ノ北部ニ渉リテ之レヲ存シ、殊ニ阿武郡北部ノ小數地主ニテハ小作料トシテ籾米收受ノ慣行ヲモ有シタリシカ、漸次廢絶シ、現今ニテハ慣行區域阿武郡北部數ヶ村ニ縮少シ、其ノ實行者モ中流以上ノ農家ニ限ラレ、且自作ノ幾分ヲ貯藏スルニ止マリ、其量約二萬四五千石ト推算セラル、該地方ニアリテハ山間部ノ爲ニ日照時間少ク、且早ク冷氣ヲ催ス等ノ關係上、從來籾ノ乾燥甚タ不完全ナリシヲ以テ之ヲ秋季ニ於テ玄米トシ、貯藏スルトキハ夏米トナリテ著シク蟲害ヲ被ムルカ故ニ籾トシテ貯藏スル方利益ナル爲依然舊慣ヲ守リ來リシモ、同業組合ニ於テ秋季ニ於ケル籾ノ乾燥ヲ奬勵シタル結果、乾燥良好ナルモノハ秋摺トスルモ從來ノ如キ蟲蝕ヲ蒙ルコトナキヲ自覺シタル爲メ漸次其ノ數ヲ減少シタルモノノ如シ

佐賀縣

籾ノ貯藏ハ勞力分配上多少有利ナルノミナラス、今摺米ハ當用ロノ精米原料トシテハ搗減リ少ク、炊キテ釜殖多キヲ以テ、縣内需用向トシテハ反テ高價(約一割)ニ賣買セラルルコト在リト雖、變質速カニシテ輸出用、若シクハ定期受渡米等ノ如キ、久シク貯藏スルモノニ不適、且ツ籾摺歩合少ク精搗ニ際シ比較的長時間ヲ要シ、而シテ之ニ對シ縣及輸出同業組合ニ於テ直接秋摺米ヲ勸勵シ、又米劵倉庫其他倉庫ノ普及改善ヲ奬勵シ、以テ玄米ノ貯藏ヲ安全ナラシメ、同業組合ニ於テハ今摺米ノ檢査等級ヲ引下クル等間接ニ今摺米ノ慣行ヲ阻止スルノ方法ヲ採レリ

富山縣

籾貯藏ハ玄米貯藏ヨリモ貯藏簡易ニシテ、夏季醱酵腐蝕スルコトナク、蟲害、鼠害ニ罹ルコト少ク、貯藏久シキニ耐ユルヲ以テ、古來農家ハ籾ニテ貯藏シ、五月以後必要ニ應シ、今摺米トシテ消費用、販賣用ニ充テ來リタリ

維新前ニ於ケル農家ノ特米ハ地方ノ需要ニ應スルノミナリシヲ以テ籾ニテ貯藏スルヲ安全トシ、且得策トセシモ、維新後運般、交通ノ便開ケ、各地ヘ移出セラルルニ至リ、且農家經濟モ貢米制度ノ當時トハ大變化ヲ來シタルヲ以テ自然秋摺トシテ販賣スル者多數ニ上レルノミナラス、前記ノ如ク籾ハ貯

藏久キニ耐ユルモ夏季温度ノ高キ時ニ今摺米トナストキハ、二週間ヲ經過スレハ忽チニ醱酵シ、米質食味ノ著シク惡變スルノ缺點アリ、之レカ爲ニ今摺米ハ地方ニテ消費スルニハ適當スルモ、移出米トナスニハ不適當ナリ、殊ニ維新後貢米制度ノ廢止ニ伴ヒ年次稻籾ノ乾燥粗惡トナリ、其ノ乾燥不良ノ籾ヲ貯藏シ、概ネ夏季ニ籾摺スルヲ以テ、米穀檢査ニハ不合格トナルモノ多キヲ常トス、右等ノ事情ノ爲、籾貯藏ハ漸次減少ヲ見ルニ至レリ

之ヲ要スルニ籾ハ乾燥ヲ能フ限リ完全ニシタル上、貯藏ニ注意シ、六、七、八ノ三ケ月ノ高温ナル時季ヲ終リ、今摺米ト爲スヲ以テ最モ適當トス

石川縣

近來耕種方法ノ施設改良ト共ニ交通機關ノ進展發達トハ彼ノ凶歉、飢饉ニ對スル備荒ノ觀念ヲ薄ラケ敢テ昔日ノ如ク意ニ介スルコト深カラス、爲ニ籾ノ貯藏ヲ重ンセサルト共ニ、三等格以上ノ合格玄米ハ夏越ノ貯藏安全ニ至レルコト、金融ノ關係上玄米ハ隨時賣却ニ便ナルコト、合格米ハ食味ヲ減褪スルコトナク却テ桝殖釜殖ノ利得アルコト、賣買價格ハ今摺米ヨリ高キコト、秋摺ハ今摺ニ比シ其ノ作業ノ煩累少ナク、且比較的碎米ヲ生セサル等利益ノ大ナルモノアリ、自然農家ハ經濟上其ノ他ノ關係上籾ノ貯藏ヲ不利益トナシ、概ネ秋摺ヲ行フニ至レルナルヘシ、尚從來籾貯藏ニ付注意スヘキ事項トシテ重セラレシ點ハ乾燥ヲ充分ナラシムルコト及不乾燥籾ヲ貯藏セシ場合ハ春暖ニ於テ莚乾ヲナスコト等トス

熊本縣球磨郡

球磨郡ハ古來早冷、濃霧等自然ノ不利ヲ蒙リ、籾ノ乾燥不便ニシテ籾貯藏法ノ如キモ之ヲ農家ニ云ハシムレハ保存上ノ必要已ムヲ得サルニアリト云フモ、要スルニ努力ノ足ラサル結果ニ外ナラサルカ如シ、尚籾ノ貯藏ハ適々去ル明治三十九年仲買籾摺業ナルモノ、始ルヤ、農家ハ漸ク利害ヲ識ルニ至リ、籾十八貫對玄米三斗、其ノ値鞘五、六十錢迄ハ今摺米トシテ販賣シ、仲買人等籾買付競爭ノ結果八十錢乃至一圓ノ鞘開キニ至レハ農家ハ籾ノ儘賣却シ之レカ習慣性トナリテ今日ニ及ヘリ

愛媛縣東、西宇和郡

東宇和郡ニ於テ籾貯藏ノ習慣行ハル、ニ至リタル理由、及籾貯藏ノ利得左ノ如シ

一、交通不便ノ爲隨時米ノ販賣ヲ行フ能ハサリシヲ以テ裕富ナル者カ、米收穫ノ翌年七、八月以後ニ賣却セントスル場合、貯藏中蟲害ヲ被ラス、且比較的米質ヲ損セサル爲籾ノ貯藏ヲ行フニ至レルナリ

二、多年ノ經驗上、七月ヨリ九月ニ至ル期間ハ米價高位ニアルヲ以テ此ノ候ニ於テ米ヲ賣却センニハ乾燥俵裝等ニ特別ノ注意ヲ要スルヲ以テ比較的容易ナル籾貯藏ヲナシ、夏摺ヲナスニ至レリ

三、本郡ニ於テ籾ノ貯藏ヲ行フ地方ハ主トシテ山間部ニ屬スルヲ以テ、稻收穫後直チニ冬作ノ播

種、又ハ植付ヲナササレハ其ノ適期ヲ失スルヲ以テ之等作業ヲ先ニ行ヒ、然ル後チ籾摺ヲ行フ順序ナリ、特ニ山間部ハ製紙業ヲ以テ主ナル副業トナシ居ル故ニ冬季ハ製紙業ヲ行ヒ、比較的農閑ナル夏季ニ於テ必要ニ應シ隨時籾摺ヲ行フ、勞力ノ分配上、並ニ作業上ノ便ナルコトモ亦一因タルヲ認ム

西宇和郡ニ於ケル籾貯藏ノ習慣起リシ理由左ノ如シ

籾ノ貯藏ハ極メテ古クヨリ行ハル、ニ依リ、之レカ理由モ詳カナラスト雖、當地ハ收穫當時ハ常ニ米價廉ク、夏季ハ高價ナルヲ常トス、故ニ金ノ融通ノ付クモノハ貯藏シテ夏季（俗ニ盆米ト云フ）ニ販賣スル者多シ、然ルニ玄米貯藏ハ往々蟲害多クシテ價格ノ騰貴ト害蟲ノ被害ト差引計算スルトキハ反ツテ直賣ノ方利益トナルニヨリ、害蟲防除法種々研究中結局籾貯藏ヲ可トセルモノナラン、籾貯藏ノ利益トスル處ハ害蟲ノ被害ナキ事、及米質優良ナルコトニアリ

三重縣阿山郡

本郡ニ於ケル籾ノ貯藏ハ山田村ヲ最多トシ、次ニ阿波、友生、中瀨ノ各村トス、其量ハ山田村ハ收穫ニ對スル約四分ノ一、其他ハ約五分ノ一ナリトス、農家トシテ翌年迄籾ヲ持越スハ相當資力アル者ニ非サレハ出來難キニ付、貯藏者ハ何レモ中農以上ノモノニ多シ、之等ハ翌春ヨリ必要ノ都度摺リテ米ト爲ス者モアレトモ、多クハ十月頃ニ至リ、其ノ年ノ作柄ヲ見テ米ヲ摺ルヲ例トス、ヨツテ惟フニ此地方ニ於ケル籾ノ貯藏ハ個人的備荒貯蓄ニ始マリ、今日其必要ヲ認メサルモ、尙慣習トシテ行ハルモノノ如シ

籾ニテ貯藏スルトキハ、蟲害ノ虞レナキト、米ニ比シ長ク貯藏ニ耐ヘ、且作柄ノ平均ヲ保ツノ効果アルモノノ如シ

夏摺米ハ風味劣等ナルト、精白ニ際シ搗減多ク、白面モ優良ナラサルニ付、秋摺米ニ比シ、一石ニ付約二十五錢低價ニ取引サレツツアリ

夏摺米ハ九月、十月ニ最モ多ク賣却セラル

（一） 累年檢査數量對夏摺米數量比較

	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
檢査總數	二一三、〇三八俵	二〇四、四〇一俵	二四四、〇八七俵	二一四、一二五俵
今摺米檢査數	一七、六四二	一二、一九九	一二、八八〇	一一、一三五

（二） 大正四年度月別夏摺米檢査數量

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
一、五〇四俵	六四六俵	八一俵	二三六俵	九六六俵	二、〇八〇俵	五、七二二俵	一一、二三五俵

第五項　地方別籾貯藏若クハ今摺米ノ可否ニ對スル意見

籾貯藏、若クハ今摺米ヲ利益ト認ムルカハ或ハ不利益ト認ムルカハ地方ノ事情或ハ觀察如何ニヨリテ異リ、夫々理由アルモノニシテ今後籾貯藏ノ消長ニ至大ノ關係ヲ有スルタメ、主要ナル地方ニ就キ調査セルニ左ノ如シ

(一) 籾貯藏、若クハ今摺米ヲ不利益ト認ムル地方及其ノ理由

京　都　府

一、搗減歩合秋摺米ニ比シ稍々多キコト

二、鼠害ニ罹リ易キコト

三、夏期勞力ニ困難ヲ來スコト

新　潟　縣

農家經濟其他ノ關係上今摺米若クハ籾貯藏シタル事少キモ農家ハ左ノ事由ヲ自覺シ漸次今摺ヲ減少セリ

イ、籾貯藏スル者ノ多クハ小農ニシテ、近來農家經濟ニ餘裕少キ爲、歳末販賣ノ必要アルニヨルコト

ロ、氣候及勞力分配ノ關係上、冬期ノ農閑ニ反シ、夏期ハ特ニ繁忙ナル爲、今摺困難ナルコト

ハ、今摺米ハ秋摺米ニ比シ變質シ易ク、貯藏久シキニ堪ヘサルコト

ニ、今摺米ハ秋摺米ニ比シ精米ノ搗減多ク、食味變シ易キコト

ホ、前二項ノ關係上市價比較的安價ナルコト

ヘ、米販賣上商機ヲ失スルノ虞アルコト

茨　城　縣

一、今摺米ハ需要市場ニ於テ一石ニ付五十錢乃至七十錢格安ニ取引スルヲ例トス、其ノ原因ハ幾分品質劣下シ搗耗歩合多ク、又貯藏ニ堪ヘサル等ノ不利益アルコト

二、籾ノ貯藏ハ今摺米トナリ、又此ノ貯藏ハ賣買取引ノ機ヲ逸スルニ依リ、遂ニ籾ノ儘取引シ農家ノ資本トモ云フヘキ勞力ヨリノ所得ハ延テ商人ノ手ニ移リ、農家ノ手ニ依ルヨリ以上勞金ヲ貪リ當然農家ニ歸スヘキ所得ヲ商人カ壟斷スル等ノ弊ニ陷ル不利益アルコト

三、商人ノ手ニ多數ノ籾ヲ纏ムルモノトセハ商機ヲ逸スルコトナキニアラス、又一部籾貯藏シテ今摺米ト爲シ、秋冬摺米ト共ニ取引センカ、之レカ區分ニ繁ヲ加ヘ、取引上甚シク圓滿ヲ缺ク等ノ不利益アルコト

奈　良　縣

イ、臼摺ノ歩合約一歩ヲ減ス(?)

ロ、米質ヲ脆弱ナラシメ、年ヲ經ルニ從ヒ其度ヲ遞加ス、從テ搗耗多ク、價格モ廉ナリ

八、臼摺後米質ノ變化速カナルヲ以テ檢査等級ヲ維持スルコト難シ

三　重　縣

一、今摺米ハ食味粗惡ナリトハ一般ノ評ナリ

二、取引直段ハ秋冬摺ニ比シ低廉ナリ

蓋シ米ノ取引ハ容積ヲ標的トナスモノナルヲ以テ同一容積ニシテ其ノ目方輕キ今摺米ハ之ニ相當スルタケ呼値ノ低キハ素ヨリ怪ムニ足ラサルモ、尚此ノ外惡變シ易シトノ見越シニ依リ、取引當時ノ實質以外ニ其價ヲ低カラシムル傾アリ、現ニ取引所受渡米ニアリテモ、今摺米ハ特別ノ扱ヲ爲シ普通格ノ昇降外ニ一石一圓以內ノ天引格下ケヲ行フヲ例トス、(東京取引所ハ五十錢ノ特別格下ヲナス規定アリ)從テ一般ノ普通取引モ亦之ニ倣フノ風アリ

愛　知　縣

今摺米ハ摺上後變色シ易キノミナラス食味等ニ於テモ市場ニテ兎角ノ批評ヲ免カレサルノ傾アリ

岐　阜　縣

籾ノ乾燥不良ナルカ、又ハ貯藏ノ方法不完全ナル時ハ左ノ缺點アリ

一、籾摺歩合ヲ減少スルコト

二、米質ヲ損傷シ食味不良ナルコト

三、籾摺ニ先立チ、夏季更ニ乾燥スルトキハ日光ノ直射甚シキタメ胴割多クナルコト

四、前二項ニヨリ今摺米ハ秋摺米ニ比シ價格ニ於テ一等級位ノ格下トナルコト

岡　山　縣

一、今摺米ハ不味ナルト精白ノ際搗減リノ多キトニ依リ秋摺米ニ比シ價格ニ於テ不利ナルコトヲ自覺スルニ至リ、從來籾貯藏ノ慣行アル縣下北部ノ山間地ト雖自家用食料米ノ外ハ籾ヲ以テ貯藏スルモノ殆ントナキニ至レリ

廣　島　縣

各地ノ定期取引所ニ於ケル格付表中今摺米ハ常ニ格下ノ規定アリ、經濟上不利益ナリ

德　島　縣

一、今摺米ハ秋摺米ニ比シ價格ニ於テ一石ニ付五十錢乃至一圓ノ低價ニアルヲ常トス

二、貯藏ニ多クノ場所ヲ要ス

三、俵裝ニ二重ノ手數ヲ要ス

香　川　縣

產米改良事業ノ齊セル効果ノ一タル乾燥ノ如キ玄米ヲシテ優ニ一兩年ノ貯藏ニ堪ヘ、而モ變色腐敗ナキノ事實ヲ示セリ、之ニ反シ今摺米ハ大ニ食味ヲ損シ、爲ニ價格ヲ低落シ販賣ニ於ケル農家經濟ノ不

利益ハ勿論、自家用米トシテモ食味ノ減退ヲ來シ利益少キコトヲ悟リ、年々舊慣ヲ放レ、秋摺ニ移リツツアリ

大分縣

今摺米ノ大部分ハ乾燥セサル儘貯フルヲ以テ籾摺ノ際ハ既ニ醱酵、或ハ變色シ、又光力强キ時間ニ急速ノ乾燥ヲナス爲胴割米ヲ生スル等ノ不利益アリ、尤モ籾收穫當時充分乾燥ノ上貯フル時ハ前段ノ不利ヲ來タス事ナカランモ、本縣ニ於ケル籾貯藏ノ理由ハ跡作ヲ急クカ故ニ乾燥困難ナリト云フニアルヲ以テ寧ロ今摺ヲ禁シ、秋摺奬勵ニ利アリト認ム

宮崎縣

今摺米ノ不利益ナルヘキ理由

一、今摺米ノ時期ハ比較的農繁ナルコト

二、夏期ハ日光烈シキモ、空氣濕潤ニシテ日光直射ノ部分ハ急激ナル乾燥ヲ受クルカ故ニ一般ニ色澤不良ニシテ品質ヲ損スルノミナラス、胴割米ヲ生シ、精白ニ當リ搗減多ク從テ需要ヲ減少スル等ノ結果秋摺米ニ比シ一石ニ付約一圓內外ノ低價ナルヲ普通トス

三、今摺米ハ秋摺米ニ比シ貯藏ニ堪ヘス

鹿兒島縣

籾ハ貯藏中、特ニ翌年四月以後ニ至レハ氣温ノ上昇ニ從ヒ、外氣ノ作用ヲ受ケ、濕氣ヲ吸收シテ、自然ニ膨脹シ、容量、重量共ニ增加スルヲ以テ、籾摺ノ場合ニ於テ碎米多ク、籾摺步合惡シキノミナラス、米質惡變スルヲ常トス、殊ニ本縣ニテハ出來秋ニ於テ乾燥不充分ナル籾ヲ貯藏スルノ慣行アリシヲ以テ一層今摺米ハ米質不良ニシテ秋摺米ニ比シ貯藏中變質蟲害ヲ被ムルコト甚シク、從テ價格ニ於テ秋摺米ニ比シ常ニ低廉(市場平均一石ニ付二、三十錢―五、六十錢安)ナルト、又市價向上時期ニ販賣スルノ機ヲ失スル等ノ不利益ナル點尠カラサルヲ以テ明治四十二年以來秋摺奬勵ニ伴ヒ、其効果ヲ自覺シ、漸次秋摺ヲ實行スルモノ增加スルニ至レリ

熊本縣

今摺米ト秋摺米トノ得失ハ乾燥ノ如何ニ關係スルコト多大ニシテ二者共ニ不乾燥ノモノトスレハ籾ノ儘貯藏シ今摺スルヲ却テ利益トシ、乾燥良好ノモノハ秋摺トシテ大市場ニ販賣スルヲ利益トスルハ勿論ナルモ、從來今摺米ノ行ハルル地方產米ノ需要地ハ附近ニ限定セラレ、地方ノ市價ト大市場ノ市價ト對照スルモノナキヲ以テ自然生產者ハ今摺米ニ甘ンシ、從ツテ穀物ノ生命タル乾燥ノ良否ニ深キ注意ヲ拂ハサルニ至レリ、米穀ノ改良ヲ妨クルコト少カラス

一、寒摺米ト今摺米トノ價値 (球磨郡調査)

今摺米中農家ノ今摺ニシテ郡內消費若シクハ郡內ニ於テ精白シ、近縣需用ニ充ツルモノト寒摺米トノ

價格ハ差別ナシ、六、七月ノ候普通米ノ蟲付變質等ノ虞アルニ比シ、今摺米ハ桝量確實搗上歩合良キ爲此時季ニ於テハ三斗ニ付十錢内外寒摺米ヨリ高キコトアリト雖、商家ノ今摺米ハ價値最モ劣レリ（商人ニ賣渡ス籾ハ未乾燥ニシテ農家ノ所持セルモノハ乾燥稍々可ナリ）更ニ今摺米ト寒摺米ニシテ米券米トナリ共同販賣ニヨリ取引セラレタル場合其ノ價格ヲ對照スルトキハ大正元年米ニ於テ六十五錢大正二年米ニ於テ五十錢ノ格差ヲアラハセリ

二、籾賣買ノ不利益ナル理由

籾賣買ハ農家ノ當然所得トスヘキ勞力ノ報酬及自家生産物ノ價ヲ減殺スルモノト認メラル、即チ商人側ヨリ摺賃、俵裝料其他雜費ヲ差引カレテ買ハルル譯ナリ、今之レヲ大略評價スレハ玄米一俵仕上クルニ俵代（二重）八錢、繩代四錢、荷造賃六錢、引出二錢、檢査手數料二錢、摺賃八錢、諸費三錢、計三十三錢也

（二）籾貯藏若クハ今摺米ヲ以テ場合ニヨリ有利ト認ムルモノ及其ノ理由

岐　阜　縣

米穀貯藏法トシテ、籾貯藏ヲ以テ最良ノ方法ナリト認ムヘシト雖、其ノ貯藏セントスル籾ノ乾燥不良ナルカ、又ハ貯藏ノ方法不完全ナル時ハ種々ノ不利アリ、然レトモ充分ニ乾燥シタル籾ヲ通當ナル俵裝ヲ施シ、完全ナル倉庫ニ於テ貯藏セハ、假令幾分籾摺歩合ヲ減シ又ハ玄米トシテ幾分米質ヲ損傷スルコトアリトスルモ、同一ノモノヲ玄米トシテ今摺時期迄貯藏シタルモノニ比セハ却ツテ有利ナラン

福　井　縣

今摺米若クハ籾貯藏ハ農家經濟上利益ナリヤ、否ヤハ、其ノ地方ノ氣候ト栽培種類ノ如何ニヨリテ決定スヘキモノトス

北陸ノ天候ハ十一月頃ニ至レハ降雨多ク、爲メニ十月中ニ收穫スヘキ早稻、中稻ニ於テハ相當ノ乾燥ヲ爲スコトヲ得ヘキモ、晩稻ニ至リテハ不乾燥ノモノ多シ、此不乾燥ナルモノニ對シテハ秋摺ヲ奬勵スルコトヲ得ス、何トナレハ若シ不乾燥ナル籾ヲ秋摺スルトキハ改良ノ主旨ニ反スレハナリ、（價格ノ下落、碎米ノ多量）故ニ此ノ不乾燥米ノ善後策トシテハ翌年二、三月ノ頃右不乾燥籾ノ春乾ヲ爲サシムルニ在リ、（本縣ハ晩稻ノ栽培多クシテ此方法ニ依リ好成績ヲ收メツツアリ）

（三）籾貯藏ヲ有利ト認ムルモノ及其ノ理由

秋　田　縣

本縣現下ノ實情ヨリ見ルトキハ、寧ロ今摺トスルヲ利益トス、是今摺ハ市價多少低廉ナリト雖、一般ヨリ云フトキハ本縣ノ米ハ乾燥未タ不充分ナルヲ免レサルト、一面倉庫ノ完備セサル等ノ結果、永ク玄米トシテ貯藏スルトキハ忽チ穀蟲ノ害ヲ被ルノミナラス、變質ヲ招致シ、爲メニ多大ノ損耗ヲ蒙ルヲ以テナリ

第二節　玄米貯藏慣行

現今單ニ米ト云ヘハ、玄米ヲ意味スル程ニ玄米ハアラユル場合ヲ通シテ米ノ最モ一般的形態トセラル、之レ米穀取引關係ハ玄米ヲ以テ行ハルルカ爲ニ外ナラス、同樣ノ意味ニ於テ玄米貯藏ハ今日最モ廣ク行ハルル貯藏慣行ナリ

玄米貯藏ノ由來ハ依ルヘキ根據ヲ見出サルルモ、惟フニ米穀經濟ノ變遷ニ從ヒ籾貯藏ヨリ移リタルモノナルヘシ、蓋シ貯藏ハ取引ニ附隨シテ起ル場合多ク、而シテ取引ハ籾ヲ以テスルヨリモ玄米ヲ以テスル方便宜ナル理由アレハナリ、即チ容重量ヲ要スルコト少ク、運搬ニ便ナルコト、貯藏ニ容積ヲ要スルコト少キコト、精細ナル評價ヲナシ得ラルルコト等ニ就キテハ玄米ノ方優レルナリ

玄米貯藏ノ消長トシテハ特ニ記スヘキ程ノモノモナシ、只藩政時代ノ納米ハ嚴格ナル檢査ヲ經ル爲乾燥、品質等ニ特別ノ注意ヲ拂ヒタルモ、維新後貢米制度廢止ト共ニ產米ノ取扱ヒハ全ク各自ノ自由トナリタル結果、一時籾貯藏行ハレシ地方モアリシモ、現今ハ各地トモ產米改良事業盛ニ起リ、乾燥ヲ良クシ米ノ貯藏力ヲ增進スル爲、籾貯藏ハ自カラ玄米貯藏ニ移リツツアルカ如シ

第三節　白米貯藏慣行

白米貯藏ハ農家ノ自家用飯米ニノミ限ラレ未タ商品トシテノ貯藏ハ行ハレス、只白米ノ取引盛ナル地方ニ於テハ米價ノ變動、取引上ノ差障等偶然ノ機會ノ爲一時貯藏サルル事ナキニアラス、例ヘハ青森市ノ米商人ハ津輕米ノ大部分ヲ白米トシテ北海道ニ送ル慣行アルカ故ニ時トシテ前述ノ理由ニヨリ白米ヲ貯藏スル事アリト云フ

白米貯藏ノ廣ク行ハレサル理由ノ一ハ白米ハ貯藏ニ適セスト認メラルル爲ナルカ如シ、然リト雖モ從來ノ白米ニハ尚多量ノ糠分ヲ附着シ居ル爲貯藏ニ適セサルニ非サルカ、其ノ反證トシテハ二割五分減程度ノ摩擦白米ハ遠洋航海ノ食糧トシテ搭載セラレ熱帶地方ヲ通過シ一ケ年ヲ經ルモ何等ノ變化ナカリシ例アリ

第一項　白米貯藏ノ由來及變遷

白米貯藏ノ由來ハ全然勞力ノ繁閑ヲ調節スルニ在ルカ如シ、冬季間ニ於ケル勞力ヲ利用シ、一ケ年間或ハ田植時迄ノ自家用飯米ヲ搗精シ、之ヲ寒搗米ト稱シ、貯藏シテ農繁期ニ於ケル勞力ヲ省ク慣習ハ往時全國ヲ通シテ廣ク行ハレシモ現今ハ僅カニ山間ノ僻地及特ニ冬季尙ホ勞力ニ餘裕アル東北地方又ハ階級ヨリ言ハハ中農以上ノ農家ニ行ハルルニ過キス、之カ衰微ノ原因種々アルヘシト雖、近時農村ニ特ニ發達シタル電氣ヲ動力トスル摩擦精米機ノ普及ハ其ノ主因ヲ爲ス如シ、蓋シ常時容易ニ而モ些少ノ搗賃ヲ以テ搗精シ得ラルレハナリ

其他所謂農村疲弊ノ爲小農ニ於テハ飯米スラ貯藏スルノ餘裕ナキニ至レル事モ衰微ノ一因ヲナスカ如シ

現在白米藏貯慣行ノ有無ニ依リテ地方ヲ分類スレハ大様左ノ如シ

一、白米貯藏慣行全ク無キカ、或ハ殆ト無シトスルモノ

東京、埼玉、千葉、栃木、茨城、群馬、長野、山梨、神奈川、靜岡、愛知、三重、大阪、和歌山、岡山、山口、德島、香川、愛媛、高知、長崎、大分、熊本、宮崎

二、白米貯藏慣行今尚存在スルモノ、及近時著シク減シタレトモ尚存在スルモノ

新潟、富山、石川、福井、福島、宮城、山形、秋田、巖手、青森、岐阜、滋賀、京都、奈良、兵庫、廣島、鳥取、島根、福岡、佐賀、鹿兒島

第二項　地方別白米貯藏ノ由來及變遷

北海道

白米ノ貯藏ハ精米場、其他特殊ノ事情アルモノノ外ハ一般ニ行ハレス

東京府

白米ハ品質上長期貯藏ニ堪ヘス、自然變質シ易キヲ以テ現今ニ於テハ長期間倉庫ニ貯藏スルモノナシ

千葉縣

從來中產以上ノ農家ノ一部ニ於テ自家用ノ飯米ヲ白米ニテ貯藏セシ慣行アリ、之レ勞力分配ヨリ來レルモ、近次精米機ノ使用盛ナルニ從ヒ殆ト此ノ慣行ハ消滅セリ

栃木縣

從來水車ノ少キ地方、夏季ニ至リ灌漑水ノ爲水力ノ不足スル地方等ニ於テハ冬季間ニ一ケ年所要ノ飯米ヲ精搗シ、又人力ヲ以テ搗精スル地方ニ於テハ勞力ノ分配上冬季間ニ多量ノ搗精ヲナシ、貯藏スルモノアリシモ、方今水力、電力等ニヨル精米業者普及シ搗精ニ支障ナキニ至リシト、白米貯藏ノ結果ハ品質ヲ惡變スルトニ依リ、現今ニ至リテハ之レカ貯藏ヲナスモノナク必要ニ應シ其ノ都度搗精ヲ爲スニ至レリ

新潟縣

農家ノ自家用食料トナスモノハ冬季農閑ヲ利用シテ自ラ之ヲ精白シ、白米トシテ貯藏スルモノ多シ、近時農村疲弊ノ結果貯穀ヲナス程ノ餘裕アルモノ漸次減少シ、特ニ小農ニアリテハ收穫後直チニ賣却シテ金錢ニ代ヘ、肥料代、其他ノ負債償却ノ資トナシ、其後ノ飯米ハ勞働、又ハ副業ニヨリテ得タル賃金ヲ以テ小賣商人ヨリ購入スルカ、又ハ地主ヨリ借リ入ルルヲ常トス、故ニ一ケ年間ノ飯米ヲ白米トシテ貯藏シ得ヘキモノハ可ナリ餘裕アルモノニ於テノミ見ル處ナリトス

富山縣

本縣ニ於テハ古來ヨリ白米貯藏ノ慣行アリ、白米貯藏ハ自家消費米ニ限ラレタルモノニシテ普通ハ翌年ノ植付ヲ終レル時期迄ノ所要量ヲ白米ニテ貯藏セシモ、中ニハ其ノ年內ノ分迄モ貯藏スル者アリ、本

縣ニ於ケル農家ハ此ノ貯藏白米ノ俵數ノ多キヲ以テ一ツノ誇ト爲シタル習慣アリタリ、自家用米ヲ白米ニテ貯藏セシハ要スルニ勞力ノ調節上農閑ヲ利用シテ精白セシト、一ハ前記ノ如ク農家自身ノ財産並ニ家政ノ程度ヲ他ニ示サンカ爲、精白米ヲ俵ニ入レ之ヲ屋内ノ梁ニ吊シ置クナリ、貯藏白米ハ其ノ食味ヲ損スルヲ以テ現在ハ多少舊來ノ習慣ヲ襲フモノアルモ、極メテ僅カニシテ數フニ足ラサル狀況ニアリ

石　川　縣

飯米ヲ農閑期即チ冬季間ニ手搗トナシ、翌年梅雨期迄ノ飯米ヲ貯藏ス之ヲ稱シテ寒搗米ト云フ、然ルニ近時水力、又ハ電氣動力ニ依ル精米業發達シ、白米トシテ貯藏スルノ必要ヲ認メサルニ至レルヲ以テ貯藏ヲナスモノ極メテ稀ナリトス

福　井　縣

藩政時代ニハ、農家ハ一般ニ年末ニ於テ食糧米ノ大部分（翌年七、八月頃今摺米ニ喰繼ク迄）ヲ寒搗ト稱シ、精米トシテ貯藏シ置ク慣行アリ、此ノ慣行ハ自家用ノモノニ限リ、閑散ナル時期ヲ利用シ、農繁時期ノ勞力ヲ節減スルニアリ、此ノ慣行ハ今尙續行スル地方尠ナカラサルモ、米穀檢査事業ノ開始ト共ニ精米器具ノ普及ニヨリ年次減少ノ傾向ナリ

福　島　縣

白米貯藏ノ最モ盛ニ行ハルル地方ハ冬季降雪多キ會津地方ナルモ、單ニ飯米ニ止マリ、販賣米ニハ行フモノ殆トナシ

宮　城　縣

從來一ケ年間ノ食料ヲ冬期間調製ノ上白米トシテ乾燥セル場所ニ貯藏スルヲ例トス、今猶行ハル

山　形　縣

自家用飯米ニ限リ、寒中飯米全部ヲ精白シ、嚴重ニ俵裝シ、或ハ保米袋等ニ入レ、之ヲ勝手ノ梁ニ繩ニテ一俵宛吊シ置キ、漸次之ヲ飯米トナス、此慣行ハ古來變遷少キカ如シ

秋　田　縣

寒搗ト稱シ、寒中即チ一、二月ノ候ニ於テ約一ケ年分ノ飯米ヲ精白貯藏スルモノアルモ、是ハ極メテ僅少ニシテ、大部分ハ籾貯藏ナリ、白米貯藏ハ旣往ニ比シ減少スルモ增加セサルカ如シ

巖　手　縣

白米トシテ貯藏スルハ自家用飯米ニ過キスシテ、半ケ年乃至一ケ年分ヲ農閑期ニ於テ精白シ、貯藏スルモ、僅少ナリ

青　森　縣

自家用飯米ニ供スルモノノ外殆ントナシ

岐阜縣

縣下西濃地方ニ於テハ寒搗ト稱シ、寒中ヨリ初春ノ農閑期ニ於テ農繁期（土用前迄）ニ用フルモノヲ精白シ、貯藏セシ慣行アリシモ、近時水車、電力、石油發動機等ヲ動力トスル精米機各所ニ起リ精白ニ便ナルヲ以テ現今ニ於テハ漸次減少シツツアリ

滋賀縣

農家カ一ケ年間ニ消費スル處ノ食糧米ヲ冬季間ニ精白（冬搗ト稱ス）シテ各自之ヲ貯藏スル慣習アリ、其ノ理由ハ冬季農閑ヲ利用シテ勞力ノ分配ヲ計ルト、一面玄米ノ儘貯藏スル時ハ害蟲ノ爲減耗多キ等ノ關係アルニ依ル、然レトモ近時電氣事業ノ發達ニ伴ヒ、精白業各地ニ勃興シ、安價ニシテ且ツ容易ニ精白シ得ラルルヲ以テ前記白米貯藏ノ慣習アル地方ニ於テモ漸次之カ減少ノ傾向アリ

京都府

丹波、丹後地方ノ農家ハ冬季閑散ナル時期ニ於テ寒搗ヲ行ヒ、農繁期ノ食料トシテ貯藏スルノ習慣アリ、相當ノ農家ニハ今尙行ハル

奈良縣

白米ハ農繁期ニ使用センカ爲農閑期ニ精白スルノ慣行アリタルモ精米機ノ進歩ニ伴ヒ逐次減少シツツアリ

兵庫縣

俗ニ寒搗米ト稱シ、翌年五、六月ノ農繁期及夏期ノ食料トシテ冬期精白シ貯藏スルノ慣習主トシテ中産以上ノ農家ニ行ハレタリシモ、漸次這ノ慣行廢レ現今殆ント其ノ跡ヲ絕ツニ至レリ、其ノ由來變遷ニ就テハ詳カナラサルモ往時ニアリテハ現今ノ如ク輕便ナル精白機ナク、總テ自己ノ勞力ニ俟チシヲ以テ農繁期ノ準備及ヒ夏季ノ勞苦ヲ避クル爲此ノ慣行ヲ馴致シ來リタルモノナルモ、漸次水力、又ハ電力ニ依ル精米機ノ普及及精米所其他商取引機關ノ設備ニヨリテ精白上ニモ將又之ヲ他ヨリ求ムルニモサマテ困難ヲ感セサルニ至リシト、近時農家カ寒搗米ノ食味惡シク、且變質、蟲害ノ爲到底長期ノ貯藏ニ堪ヘサルヲ自覺シ、現今ニアリテハ白米ヲ貯藏スルヨリモ、寧ロ秋收期家得米ノ全部ヲ賣却シ隨時値頃ヲ見計ヒ、食料米ヲ購入スル方經濟上得策ナリトシ、此ノ方法ヲ採ルモノスラアルニ至レリ

廣島縣

單ニ農家カ自家用飯料トシテ短期貯フルニ過キスシテ從來ノ變遷トシテ認ムヘキモノナシ

山口縣

古來寒搗ト稱シ、春夏農繁時ノ飯料ニ供スヘキモノヲ寒中ニ精白シ、貯藏スルノ習慣アリタルモ、現今ニテハ之ヲ行フモノナシ

鳥取縣

農家ノ自家用米ヲ冬期ノ農閑時ニ寒搗ト稱シ、精搗シ、農繁期ノ食用ニ充ツヘク貯藏セシモ、近時電氣動力ノ精米業ノ發達ト共ニ減退ノ傾向ナリ

島根縣

白米貯藏ハ地方ニ依リ行ハサルモノアリト雖、概シテ地主、小作ヲ通シテ行ハルル方法ニシテ、寒搗白米ヲ俵ニ收メ（保米袋ニ入ルルモアリ）テ內梁ニ吊シ或ハ石油空鑵ニ入レテ密閉シ必要ニ應シ、取出スモ、年次減少ノ方ナリ

高知縣

殆ントナシ

福岡縣

從來食糧米トシテ冬季精白シタルモノヲ俵、又ハ叺入トシテ貯藏セルモノ二三郡アリシモ、近時精米業ノ增加ト、食味減退ノ爲隨時必要ニ應シ、精白ナスニ至リ、古來ノ習慣ヲ一變セントシツツアリ

佐賀縣

神崎郡ニテハ凡ソ十年前迄ハ自家用トシテ每年六月頃迄ノ消費見込額ヲ貯藏スルノ慣行アリシカ、近來到ル所ニ機械精搗業起ルニ至リ、白米ノ貯藏全ク其ノ跡ヲ絕ツニ至レリ、杵島、小城郡ニテハ主トシテ農繁期ノ手數ヲ省ク爲每年一、二月頃寒搗又ハ節搗ト稱シ、約一ヶ年分ヲ精白貯藏スルノ慣行アリタルモ、今日ニテハ中農以上ノ農家ニ稀ニ見ルノミナリ、西松浦郡ニ於テモ行ハルルモ其數量少シ、其他ノ郡ニハ此慣行ナシ

宮崎縣

白米貯藏慣行ハ殆ントナク、只僅カニ農繁期ニ於ケル自家用飯米又ハ販賣ノ目的ヲ以テ僅カナル期間少量貯藏スルモノアルニ過キス

鹿兒島縣

全般ニ亘リテ白米貯藏ノ慣行ナシト雖、一部地方（薩摩郡宮之城村及日置郡田布施村方面）ニ於テ田植時期迄ノ分ヲ叺、又ハ甕ニ入レテ貯藏ス

備考

右以外ノ各府縣ニハ白米貯藏ナシト認ム

第二章　貯藏ト品種、土質、肥料、收穫期、乾燥及調製等トノ關係

米ノ貯藏力ハ米質ト至大ノ關係ヲ有シ米質良好ナルモノハ不良ナルモノニ比シ能ク貯藏ニ耐ユルハ經驗家ノ等シク認ムル所ナリ

米質ハ品種、土質、肥料、收穫期、乾燥乃至年ノ出來榮ニ因ルコト勿論ナリト雖從來品種、土質、肥料、收穫期等ハ主トシテ生産增收ノ目的ヲ以テ取捨選擇セラレ未タ貯藏トノ關係ニ迄注意ヲ及シタルモノ少カリシヲ以テ其ノ間ニ關係ナシト云フ可カラサルモ之レヲ明カニスルヲ得ス、然ルニ獨リ乾燥ハ米ノ貯藏力ト最モ密接ナル關係アルコトハ諸說ノ一致スル所ニシテ、曩ニ米質トノ關係ヲ云爲セシモ、畢竟乾燥トノ關係ニ外ナラサルナリ、如何トナレハ米質ニ影響スル因子ハ前述ノ如ク多々アリト雖、貯藏力トノ關係ニ於テハ乾燥程度カ就中著シキ影響ヲ現ハセハナリ、今前記各項目ニ就キ從來ノ斷片的經驗ヲ基礎トシテ概說シ且ツ乾燥ト穀蟲繁殖並ニ米質ニ關スル試驗成績ヲ掲ケン

一、品　種

關西地方ニ於ケル小粒種ハ一般ニ大粒種ニ比シ乾燥容易ナルタメ貯藏シ易スク、又硬度高キ品種ハ低キモノニ比シテ穀蟲ニ蝕サレ難キタメ能ク貯藏サルト云フ、何レモ間接ノ關係ナリ

山口縣ノ都種、及熊本縣ノ肥後米ノ如キハ梅雨期ヲ過クルモ他品種ノ如ク光澤ヲ失スルコトナク益々眞價ヲ發揮スルト云フ、然レトモ之レ品種ノミノ關係ニアラサルハ明カナリ、富山縣ノ二本三、和太郎東京府等ハ梅雨頃ニハ變質スルモノアルモ、愛國ノ如キハ却ツテ檢査等級ヲ上クルモノアリト云フ

新潟縣ニ於テモ庄內、愛國、大場、早稻坊主、石白ノ如キハ貯藏力ニ富ムモ二本三、小田珍光ハ長期ノ貯藏ニ耐ヘスト云フ

山梨縣ノ愛國、美濃撰ノ如キハ籾穀脆ク、破裂シ易クタメニ蟲害ニ罹リ易ク籾貯藏ノ場合ニ於テハ良品種ト云フヘカラスト云フ

二、肥　料

概シテ多量ノ肥料ヲ用ヒタル米質ハ軟弱ニシテ害蟲ニ蝕サレ易ク貯藏ニ耐ヘス、又石灰ヲ多量ニ用ヒタルモノハ米質脆弱ニシテ碎米ヲ生シ易ク腹白多ク同シク貯藏ニ耐ヘスト云フ

廣島縣ニ於ケル調査ニ依レハ山草、綠肥、堆肥等ヲ用ヒタルモノハ金肥ヲ用ヒタルモノヨリ米質、色澤良ク貯藏ニ耐ユト云フ

石川縣ニ於ケル調査ニ依レハ窒素ノ過量ヲ用ヒタルモノ即チ草出來ノ盛ナルモノハ米質脆弱ニシテ腹白多ク貯藏力ニ乏シト云フ

三、土　質

土地高燥ニシテ排水好良ナル地方ニ產シタル米ハ排水不良ナル平坦地方ニ產シタル米ニ比シ貯藏狀態良好ナリト云フ

又砂土ヨリ粘土ニ產シタル米ノ方概シテ重量多ク硬度高ク貯藏ニ適スト云フ、但シ新潟縣ニ於ケル調査ハ此點ニツキ反對ナリ、又概シテ瘠薄ノ地ニ產セシモノハ肥沃ノ地ニ產セシモノヨリ貯藏中變化少キ傾アリト云フ

四、收穫期

收穫期ハ熟期ニヨリテ已ニ早中晚ノ差アリ、早生種ハ米質惡シト云フニ非ラサルモ一般ニ乾燥不良ナリ、之レ當時日光ノ力强ク乾燥ヲ完全ニ行ヒ得サルタメナリ、然レトモ早生種ハ實際ハ貯藏サルヘキモノニアラスシテ、直チニ消費サルヘキモノナリ、九州、四國ノ如キ乾燥良好ナル地方ニ於テハ晚生種ニテモ乾燥上何等支障ナカランモ、北陸道、東北地方ニ於テハ晚生種ノ乾燥ハ日光ノ力鈍クシテ困難ナリト云フ、故ニ昔時藩ニヨリテハ晚生種ノ栽培ヲ禁止セル處アリ、斯カル地方ニ於テハ中生種ヲヨシトス、又熟度ヨリ見レハ早刈ハ概シテ青米、不熟米ヲ含ムコト多ク其ノ質軟弱ニシテ穀蟲ニ蝕サレ易キカ、腐敗シ易ク貯藏ニ適セス、又晚刈モ良シカラス、但シ乾燥日數少キ地方ニ於テハ寧ロ早刈シテ充分乾燥スルヲ良シトスト云フ

只適期即チ完熟期前後ニ刈取リ其質健實ナルモノハ又貯藏ニ耐ユル力モ强シト云フ

五、乾　燥

乾燥ハ米ノ貯藏力ト至大ノ關係ヲ有スルハ更ニ言ヲ俟タス、乾燥不良ナルモノハ梅雨期前ニ變質シ、其甚シキハ腐敗シ、然ラサルモ蝕害甚シクシテ到底安全ニ夏越スル能ハス、之レニ反シ乾燥良好ナルモノハ一、二年ヲ經ルモ蟲害スラ受ケサルモノアリ、尙蟲害及米質トノ關係ニ就キ試驗セル成績左ノ如シ

（イ）乾燥ト穀蟲繁殖試驗　鳥取縣米穀檢查所

明治四十五年四月十六日乾燥米（東伯郡產福山一升重量三百八十匁）及不乾燥米（鳥取市附產近福山、一升重量三百六十匁）各一合中ニ穀象十頭宛ヲ放養シ繁殖ノ狀況ヲ試驗シタルニ左ノ如キ結果ヲ得タリ

調査月日	乾燥米 第一區	乾燥米 第二區	乾燥米 第三區	乾燥米 平均	不乾燥米 第一區	不乾燥米 第二區	不乾燥米 第三區	不乾燥米 平均
五月三日	四	五	六	五	九	一〇	一〇	一〇
六月三日	三	三	三	三	八	九	九	九
六月二十日 古	三	〇	一	一	八	七	四	六
六月二十日 新	|	一	一	一	三二	三〇	|	二一
七月六日	二	九七	五一	五〇	二八一	四八四	一〇〇	二八八
七月二十日	二	一三六	六七	六七	四〇一	五三五	三一七	四一七

右ノ結果ニ依レハ乾燥米ニハ穀象繁殖少キノミナラス産卵期前概ニ過半數ノ死滅スルモノアルヲ知レリ更ニ穀象一番ハ幾疋ニ繁殖スルヤヲ知ランカタメ別ニ不乾燥米ニ放養セルモノヲ七月二十日ニ調査セルニ母蟲ヲ加ヘ實ニ七十四頭ヲ數フルニ至レリ

（ロ）乾燥法ト米質　　鹿兒島縣米穀檢査所

農事試驗場ニテ栽培セル神力種ヲ各區五合位ヲ壜ニ入レ貯藏シ其ノ結果ヲ調査セシニ左ノ如シ

區別	貯藏後ノ狀況
稻直扱米	翌年五月ニ至リ變質蟲害ヲ認メ、九月ニ至リ腐敗セリ
同　地乾三日米	同七月ニ至リ蟲害ヲ認メ、九月ニ至リ腐敗ニ傾ケリ
同　五日米	同八月ニ至リ蟲害ヲ認メ、九月ニ至リ著シク色澤惡變セリ
同　七日米	同九月ニ至リ稍々變色ヲ認メタルモ未タ蟲害ナシ
同　架乾三日米	同上
同　地乾十日米	翌年中ハ異狀ヲ認メス、翌々年夏季ニ至ルモ蟲害ヲ認メサルナリ
同　架乾五日米	同上
同　七日米	同上
同　十日米	同上

（ハ）乾燥ト穀蟲繁殖試驗　　西ヶ原農事試驗場

八月下旬竹成種ノ乾燥米（一升重量三百八十匁）不乾燥米（同上三百七十三匁）各一升ニ穀象五十頭宛ヲ入レ置キ十二月一日ニ至リテ之レヲ檢シタルニ左ノ如キ差ヲ生シタリ

種別	増加セル蟲數	穀物ノ減少セル重量	同上一石ニ改算
乾燥米	一九三〇	八・八匁	八八〇匁
不乾燥米	四〇〇五	一八・五	一、八五〇

右表ニヨレハ僅々三ヶ月間ニシテ乾燥米一石ノ減量八百八十匁ニ對シテ不乾燥米ニアリテハ一貫八百五十匁即二倍以上ニ達シ全米量ノ約五分ヲ損セリ、此損害ハ玄米ニ對スル割合ナレハ米ヲ精白スルモノトセハ搗減リノ差著シキヲ以テ其減量更ニ多大ナルヘシ

六、調製

青米、不熟米、碎米、其他夾雜物混入スレハ變質及蟲害ニ罹リ易ク他ノ完全ナル米迄モ被害ヲ蒙ルモノモノナレハ之等ハ極力除クヘキナリ

第一節　稻乾燥法

乾燥ハ米ノ品質及貯藏力ノ生命トモ稱スヘキモノナレハ從ツテ乾燥法ハ米ノ品位ヲ高メ延イテハ市價ヲ高ムル上ニ至大ノ關係ヲ有ス、從來當業者ハ風土ニ鑑ミ多年ノ經驗ト研究ヲ積ミ各々工夫ヲ致シ乾

燥法ノ改良ニ努力スル所アリシモ未タ舊慣ニ泥ミ、依然トシテ舊法ヲ繰返スモノ多キ狀態ナリシヲ以テ近時地方ニ產米改良事業起ルヤ根本的改良法ノ第一着トシテ乾燥法ノ改良ヲ開始セリ、其ノ結果最近長足ノ進步ヲナシ米質上ニモ著シキ改良ノ跡ヲ示セリトハ市場側ノ言明スル處ナレトモ、乾燥ハ特ニ天候ノ支配ヲ受クルコト著シキタメ、秋收期天候不良ナル地方ニ於テハ當事者ノ努力モ畢竟地方的品質ヲ高ムルニ過スシテ市場ニ於テハ依然軟質米及硬質米ノ區別ヲ設ケラルルハ蓋シ已ムヲ得サルナリ、故ニ今後乾燥法ノ改良ハ軟質米ヲ產スル東北地方及北陸地方ニ於テ特ニ其必要ヲ認ムルモノナリ、

現在九州、四國、山陽道ノ諸地方ニ於テハ架乾ヲナスモノハ僅カニ濕田或ハ山間部ノ一部ニ過キスシテ多クハ地乾及莚乾ヲ各二、三日間行ヒタルノミニテ乾燥優良ナル米ヲ得ルニ反シ山陰道、北陸道、東北地方等ニ於テハ、特ニ數段掛ノ稻架ヲ用ヒ十數日間乾燥スルニ拘ハラス產米ノ大部分ハ夏越困難ナル有樣ナリ、且之等地方ニ於テハ米ノ乾燥ニ大切ナル莚乾ヲ行ハサルハ努力ノ足ラサルニ因ルヨリハムシロ秋收期ノ天候不良ナルニ因リ行ヒ得サルニアルカ如シ、尤モ石川、福井、富山ノ諸縣ニ於テハ指導者並ニ當業者ノ努力ニヨリ幾分莚乾ヲ行フカ如シ

今各地方ニ行ハルル乾燥法ヲ總括シテ述フヘシ

乾燥法ヲ乾燥ノ順序ヨリ二段ニ分チテ第一段ヲ稻束ノ乾燥法トシ第二段ヲ籾ノ乾燥法トス

稻束ノ乾燥法ヲ乾燥ノ方法ヨリ二ツニ分類シテ架乾法及地乾法トス、而シテ籾ノ乾燥法ハ莚ヲ用フルヲ以テ莚乾法ト稱ス

一、架　乾　法

架乾法ハ秋收期ニ於ケル天候不良ナル地方、濕田地方及乾燥ニ特殊ノ注意ヲ拂フモノニ行ハル秋收期ニ於ケル天候不良ナル地方トハ一般ニ山陰道、北陸道、東北地方、北海道ヲ稱ス、但以上ノ地方ト雖地勢ニヨリテハ地乾法モ行ハレサルニ非ラス、其他各地方ニ於ケル山間部ヲ云フ、濕田地方ハ秋收期ノ天候良好ナル地方ト雖地乾法ヲ行ハレサルカ故ニ已ムヲ得スシテ行ハル、又乾燥ニ特別ノ注意ヲ拂フモノハ地乾法ヲ一般慣行トスル地方ニアリテモ架乾法ヲ行ヒ常ニ優良ナル米ヲ作ルナリ

稻架ノ樣式ハ一段掛及數段掛ノ別アリテ乾燥不良ナル地方ニアリテハ十段掛位ノモノ行ハル、但作業ノ便利ヨリ云ヘハ三段掛位ヲ良シトス、又直立式ヲ普通トスルモ傾斜式モ行ハル

構造ハ一段掛ニアリテハ兩端ノ三脚（高サ五、六尺ヲ普通トス）ヲ基礎トシ之レニ丸太ヲ横ヘ六、七尺位隔テニ二本ヨリ成ル支ヲ置ク又數段掛ニアリテハ其ノ段數ニヨリ丸太ヲ選ヒ之レヲ地中ニ深ク埋メ、四、五尺隔テ丸太ヲ立テ之レニ最下段ヲ高サ五、六尺トシ二段目ヨリ上方ニ一尺乃至一尺五寸隔ニ横木ヲ置ク、而シテ支柱ハ兩端ヲ除ク外ハ一柱ニ一本宛順次反對ノ側ニ設ク、材料ハ松ノ丸太ヲ普通トスルモ横木ニハ時トシテ竹或ハ縄ヲ用ユルモノアリ、就中竹ハ取外滑ニ行ハレ便ナリト云フ

新潟縣ニ於テハ畦畔ノ立木ヲ利用シテ之レニ直接横木ヲ結ヒツケ特ニ天然稻架ト稱セリ

稲架ノ大サハ稲束ニヨリテ異ナレトモ一反歩約延六十間（新潟）乃至九段掛九間（富山）ヲ要スト云フ

乾燥日數ハ一週間乃至二週間ヲ普通トスレトモ秋收期ノ天候不良ナル地方ニ於テハ二週間以上ノモノモアリ

使用回數ハ大抵秋收期中三回位更新スルト云フ

倘秋田縣、山形縣、新潟縣其他ニ於テ行ハルル杭掛法モ架乾法ニ屬スヘキモノナリ

二、地乾法

地乾法ハ秋收期ノ天候良好ナル地方殊ニ排水良好ナル田地、及乾燥ニ特別ノ注意ヲ拂ハサル地方ニ行ハル

前者ハ九州一帶、四國及山陽道ノ一部ニシテ、該地方ニ於ケル架乾法ハ山間部カ或ハ濕田ノミニ行ハルルノミナリ、後者ハ架乾法ニ改ムレハ容易ニ一段ノ進歩ヲ得ルモ依然トシテ舊慣ニ依リ地乾ヲ行フ地方ニシテ今後ノ改良ヲ要スヘキモノナリ

地乾法ハ地方ニヨリ種々雜多ナリト雖要スルニ稲ヲ刈殖シタル儘田面、畦畔或ハ附近ノ草地等ニ横タフルカ或ハ小束ト爲シ種々ナル組合セ及配列ニ依リ田面ニ横ヘ或ハ樹立セシムルスヘテノ形式ヲ云フ、其ノ二、三ノ例ヲ示セハ次ノ如シ

イ、平乾（福岡、鹿兒島）田乾（千葉）刈乾（千葉、香川、愛媛）並乾、伏乾（香川）等ハ何レモ刈殖シタル儘田面ニ横フル方法ナリ、甚タ簡易ナル方法ナレトモ良好ト云フヘカラス

ロ、羽重乾（鳥取、宮崎、鹿兒島、大分）穗重乾（德島）翅重乾（愛媛）等ハ皆同一ニシテ稲ノ小束ヲ斜十字鱗形ニ田面ニ一列ト爲ス方法ニシテ廣ク行ハル、地乾法トシテハ良好ナルヘシ

ハ、島立、東立（北海道、巖手、青森、鳥取）稲ヲ六把乃至十二把ヲ一組トナシ穗先ヲ上ニシ圓形ニ相助立セシメ數線ニ併立ス、晴天四、五日ニシテ穗ノ乾燥スルヲ待チ更ニ株ヲ乾燥セシムル爲十八把内外ノ小隈ヲ作リテ二週間位放置ス

ニ、逆乾（愛知、鳥取、新瀉、富山）ハ大把ニ作リ穗先ヲ地面ニ擴ケ株ヲ上方ニ逆立セシムルナリ、此ノ法ハ乾燥上良好ナラサルヘシ

ホ、棚乾（群馬、岡山）棚掛、棚刈（茨城、群馬、栃木）等ハ皆同一ニシテ三畝宛ヲ殘シテ四畝ヲ刈取リ其殘存セル稲莖ノ上ニ平列セシムルナリ

乾燥日數ハ方法ニ依リテ異ナルモ九州、四國地方ハ晴天二、三日、關東地方ハ三、四日其他ノ地方モ略同樣ナリ

三、莚乾法

莚乾法ハ秋收期ノ天候良好ナル關東地方、關西地方、山陽道、四國、九州等ニ行ハレ山陰道、北陸道東北地方、北海道等ニハ一般ニ行ハレス、但石川縣、福井縣等ニ較々行ハルルハ努力ノ結果ニシテ一

般ハ天候上困難ナルニ依ルモノナルヘシ

莚乾ノ際ニハ莚ヲ二重ニ用フルカ下敷ヲ要ス之レ地面ノ濕氣ト土砂ノ混入ヲ防クカ爲ナリ、之レカ爲熊本、佐賀地方ニハ猫伏（チコボク）ト稱スル特ニ厚キ穀物乾燥用莚ヲ用意ス

籾ハ普通莚一枚ニ付六升乃至八升ヲ分配シ晴天二日間乃至三日間乾燥シ一日ニ二、三回反展シ日沒前ニ取込ムコトヲ要ス

以上ノ如ク乾燥法ハ大體三種ニ分ツト雖實際ニハ架乾法ノミ、架乾法ト莚乾法、地乾法ノミ、地乾法ト莚乾、莚乾ノミノ五ツノ場合アリテ架乾法或ハ地乾法ノミハ主トシテ乾燥不良ナル地方ニ行ハレ、地乾法ト莚乾ハ多ク九州、四國、山陽道ノ一部ニ行ハレ架乾法ト莚乾ハ概シテ關西地方關東地方山陽道ニ行ハレ莚乾ノミハ即チ直扱キハ多ク行ハレサルカ如シ、又巖手、山形、新潟、石川、宮城ノ諸地方ニ於テハ稻架ニ掛クル前ニ畦畔又ハ田面ニ稻束ヲ逆立セシメ藁ヲ乾ス習慣アリテ濕田ニ於テモ尚之レヲ行フハ惡習慣ト云フヘシ、又同地方ニ於テ一通リノ乾燥終リタル後稻束ヲ鳰（饒、堅〆扒、乳穗、稻塚等皆同一ナラン、穗ヲ内部ニ向ケ切株ヲ外ニ向ケテ同筒形ニ積上ケ上部ニ藁屋根ヲ設ケ雨ヲ凌ク）ニ積ミ貯藏ト同時ニ藁ヲ乾燥セシム、但此場合乾燥不充分ナレハ堆積ヲ攤ケテ乾直ヲ行フ

斯ノ如ク稻ノ乾燥法ハ各地方ノ氣候、地勢、習慣等ニヨリテ種々雜多ナリト雖乾燥ノ要旨ハ徐々ニ米粒ノ中心迄乾燥スルニアリ、早生種ハ中途ニテ俗ニ乾燥カ戻ルト稱スルハ早生種收穫時期ハ尙日光强烈ニシテ完全ニ乾燥スレハ胴割ノ虞レアルタメ表面ノ乾燥ニ止マルカタメナルヘシ、又北陸道、東北地方ニ於テ晩生種ノ乾燥不可トスルハ日光ノ力鈍クシテ米粒ヲ完全ニ乾燥スル能ハサルナリ、故ニ日光ノ力歓カクシテ而モ乾燥力ニ富ム時期ヲ乾燥ノ適期トナス

又乾燥法ニ於テモ地乾法殊ニ平乾法ハ地面ノ濕氣ヲ呼フト一方乾燥急劇ノ爲胴割ノ虞アリ、故ニ乾燥法トシテハ架乾法ヲ行ヒテ後莚乾法ヲ行フヲ上乘トス

一、乾燥法試驗

福島縣農事試驗場

本試驗ノ目的ハ、乾燥ノ方法ニヨリ、品質並ニ貯藏ニ及ホス、關係ヲ知ラントスルニアリ、供試品種ハ、中稻金子ニシテ、其設計及成績ハ左記ノ如シ

供試量一貫二、三百匁木綿袋箱入、板藏ニ貯藏ス

（甲）乾燥ト容量トノ關係

項目	直扱後直チニ玄米トセルモノ	直扱後莚乾ヲ行ヒテ玄米トセルモノ
籾米總量	一、〇〇〇・〇匁	一、〇〇〇・〇匁
玄米總量	七九四・〇	八一八・三
籾米一升重量	三〇二・〇	二九七・二
玄米一升重量	三六六・四	三八一・二
籾米水分量	一三、九二五%	七、七九五%

玄米水分量	一四、八六〇%	八、四三〇%
籾米比重	一、二〇九	一、一八九%
玄米比重	一、三八一	一、四一三
碎米	一、七〇〇%	〇、三九二%
剛性	四基瓩三	七基瓩四
籾摺步合	六五、四四九%	六三、七八七%
乾燥ニヨル容量減少步合(籾米)	―	四、九二三%
同(玄米)	―	七、三三七%

(乙) 乾燥ト貯藏トノ關係

(一) 籾米

貯藏期間	稻架乾燥 貯藏當時	稻架乾燥 四月下旬	稻架乾燥 八月下旬	田乾燥 貯藏當時	田乾燥 四月下旬	田乾燥 八月下旬	不乾燥 貯藏當時	不乾燥 四月下旬	不乾燥 八月下旬
總重量(匁)	一,〇〇〇	一,〇〇〇	九九七	一,〇〇〇	九九九・三	九九一・五	一,〇〇〇	九八七・八	九七四・八
一升重量(匁)	三〇一・一	三〇五・九	三〇一・六	二九八・二	三〇四・九	三〇一・六	二九七・二	三〇四・九	二九六・七
千粒重量(瓦)	二五・二〇二三	二五・四一〇三	二五・〇四九四	二五・二七三七	二五・二八二九	二三・九三八〇	二五・七六八八	二五・六七〇八	二四・九三四
水分(%)	八・〇五	八・八一	九・六五	七・二一	九・五四	九・六七	九・一九	九・七一	八・七八
比重	一・二〇九三	一・二〇二〇	一・二〇七三	一・二一一六	一・一九〇〇	一・二〇七八	一・二一七	一・二〇八〇	一・一九八
籾摺步合(%)	六四・五四	六四・一六八	六一・七六	六三・九二	六四・三五	六二・二八	六三・四六	六三・八〇	六〇・八二

備考 乾燥期間ハ稻架乾燥ハ十日以上二週間、田乾燥ハ十日以上ニシテ不乾燥ハ直扱ナリ

(二) 玄米

貯藏期間	稻架乾燥 貯藏當時	稻架乾燥 四月下旬	稻架乾燥 八月下旬	田乾燥 貯藏當時	田乾燥 四月下旬	田乾燥 八月下旬	不乾燥 貯藏當時	不乾燥 四月下旬	不乾燥 八日下旬
總重量(匁)	一,〇〇〇・〇	九九八・五	九五一・五	一,〇〇〇・〇	九九八・五	九一〇・〇	一,〇〇〇・〇	九九〇・〇	九八〇・五
一升ノ重量(匁)	三七九・八	三九五・二	三八三・四	三七六・五	三九三・七	三七六・〇	三七二・一	三七六・五	三七〇・〇
千粒重量(瓦)	二〇・九七七六	二〇・六三七一	二〇・二一一六	二一・〇九六五	二〇・六六〇六	一九・九〇一七	二一・五五四〇	二〇・六七七四	一九・六七三八
水分(%)	九・四二	四・七〇	九・五六	一〇・〇四	六・六四	九・二三	一三・一八	六・〇七	一〇・二七
比重	一・四〇一五	一・四〇五〇	一・四一二三	一・三九三七	一・三九九	一・四二三四	一・三八四八	一・三九七〇	一・四〇七四
剛性(基瓦)	五・八	六・〇	四・七	五・五	五・六	四・一	四・六	五・〇	四・五
穀象穀盜被害程度(%)	―	ナシ	四・七	―	ナシ	八・九	―	ナシ	一八・七

(三) 今摺米ト玄米貯藏トノ關係

調査時期	稻架乾燥 四月下旬	稻架乾燥 八月下旬	田乾燥 四月下旬	田乾燥 八月下旬	不乾燥 四月下旬	不乾燥 八月下旬
一升重量 今摺米(匁)	三八二・七	三八四・九	三八一・二	三八六・三	三七九・八	三八四・一
一升重量 玄米貯藏(匁)	三九五・二	三八三・四	三九三・七	三七六・〇	三七六・七	三七〇・〇
千粒重量 今摺米(瓦)	二〇・五八六	二〇・三〇六	二〇・五九五	二〇・二八七	二〇・六五一	二〇・三五七
千粒重量 玄米貯藏(瓦)	二〇・六三七	二〇・一一七	二〇・六六二	一九・九〇二	二〇・六七七	一九・六七四

水分 今摺米 (%)	六·〇六	七·三二	八·一九	九·六八	九·五六	九·八八
水分 玄米貯藏 (%)	四·七〇	九·五六	六·六四	九·二三	六·〇七	一〇·二七
比重 今摺米	一·四〇〇	一·四〇八	一·三九九	一·四一〇	一·三九九	一·四〇四
比重 玄米貯藏	一·四〇五	一·四一二	一·三九九	一·四一二	一·三九七	一·四〇七
剛性 今摺米 (基瓦)	六·〇	四·六	五·八	四·三	五·〇	四·三
剛性 玄米貯藏 (基瓦)	六·〇	四·七	五·六	四·一	五·〇	四·五

二、米穀乾燥法試驗

岐阜縣農事試驗場

本試驗ノ目的ハ米穀乾燥法ノ良否カ玄米ノ收量並ニ品質ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラン爲メ、去ル四十一、四十二ノ兩年早生神力ヲ用ヒテ施行セリ、試驗ノ方法ヲ示セハ次ノ如シ

區名		試驗別
第一	甲	地乾三日間ノミニテ莚乾セサルモノ
	乙	地乾三日間後莚乾ヲ三日間爲シタルモノ
第二	甲	葉重乾三日間ノミニテ莚乾セサルモノ
	乙	葉重乾三日間後莚乾ヲ三日間爲シタルモノ
第三	甲	稻架乾五日間後莚乾ヲ行ハサルモノ
	乙	稻架乾五日間後莚乾ヲ三日間爲シタルモノ

備考　地乾トハ穗ヲ地面ニ攤ケ株ヲ上ニシテ乾燥シタルモノ、葉重乾ハ始メノ穗ノ處ハ藁ヲ敷キ夫レヨリ順次重ネ乾シタルモノ

而シテ之レカ試驗ノ成績ハ次ノ如シ

試驗區別			段當收量	段當全重量	屑米其他ノ量	玄米一升重量	剛度	翌年十月マテ貯ヘタル一年中ノ害蟲ノ頭數
第一	甲	地乾三日間ノミニテ莚乾ヲサセルモノ	石 二·二七四	貫 八七·三二二	貫 一·八二〇	匁 三八四	貫 一·五三二	六六〇
	乙	地乾三日間後莚乾ヲ三日間爲シタルモノ	二·二三一	八七·四六三	一·一六〇	三九二	一·八四七	七六〇
		兩者ノ差	〇·〇四三	〇·一四一	〇·六六〇	八	〇·三一六	一〇〇
第二	甲	葉重乾三日間ノミニテ莚乾セサルモノ	二·二四六	八七·一五三	一·五二〇	三八八	一·六七六	七八〇
	乙	葉重乾三日間後莚乾ヲ三日間爲シタルモノ	二·二四〇	八八·二五二	一·一二〇	三九四	一·八四九	五〇〇
		兩者ノ差	〇·〇〇六	一·〇九九	〇·四〇〇	六	〇·一七三	二八〇
第三	甲	稻架乾五日間後莚乾セサルモノ	二·二二三	八六·四三六	一·四六〇	三八九	一·八六二	四六〇
	乙	稻架乾五日間後莚乾ヲ三日間爲シタルモノ	二·一九一	八六·七六八	〇·八六〇	三九六	一·九七八	一八〇
		兩者ノ差	〇·〇三二	〇·三三二	〇·六〇〇	七	〇·一一六	二八〇

右ノ成績ニ依レハ、收穫ノ容量ハ乾燥スルニ順ツテ減少スルモ、一段歩ノ米ノ全重量ハ却テ增加シ屑米ハ減少シテ一升ノ重量モ增加シ、剛度モ著シク增加シ翌年十月マテ貯ヘタル場合ニ之レニ發生スル穀象、穀賊及綴蟲等ノ尠ナキ事實ヲ示シ、乾燥ノ極メテ必要ナルコトヲ立證セルモノナリ、加之白米

トシテ食用ニ供スル場合ニ於テ之レヲ調査シタル結果ハ次ノ如シ

試験区別		玄米ノ量	白米ノ量	搗減量	搗減歩合	碎米及糠量
第一 甲	地乾三日間後莚干セサルモノ	一斗	0·八二七斗	0·一七三斗	一·七三割	四九〇匁
第一 乙	地乾三日間後莚乾ヲ三日間ナシタルモノ	同	0·八七八	0·一二二	一·二二	三八八
	両者ノ差		0·0五一	0·0五一	0·五一	一〇二
第二 甲	葉重乾三日間後莚乾ヲナサヽルモノ	一斗	0·七八八	0·二一二	二·一二	六八四
第二 乙	葉重乾三日間後三日間莚乾ヲ爲シタルモノ	同	0·八六四	0·一三七	一·三七	四〇〇
	両者ノ差		0·0七六	0·0七五	0·七五	二八四
第三 甲	稻架乾五日間後莚乾ヲセサルモノ	一斗	0·八二一	0·一七九	一·七九	四四二
第三 乙	稻架乾五日間後莚乾ヲ三日間爲シタルモノ	同	0·八七八	0·一二二	一·二二	三七四
	両者ノ差		0·0五七	0·0五七	0·五七	六八

右ノ試驗ノ成績ニ依レハ、莚乾ヲ爲シタモノハ何レモ乾燥カ良好ニシテ搗減少ク、又碎米及糠ノ量尠キカ故ニ實行スヘキモノナリ

第二節　地方別稻乾燥法慣行

北海道

刈取期ハ地方ニヨリ同一ナラス、札幌、空知地方ニアリテハ十月初旬ヨリ中旬迄ニ上川地方ハ九月下旬渡島地方ハ十月下旬刈取ヲ了スヘシ、乾燥ノ方法モ亦地方ニヨリ其操作ヲ異ニス

(イ)　渡島地方、刈取リタル稻ヲ小把トシ更ニ五六把ヲ一括シテ其穗下ヲ結束シ穗先ヲ上ニ向ケ畦畔及乾田内ニ束立(島立)トナシテ乾燥セシメ稻架ニ懸ケ乾燥スルモノ甚タ稀ナリ

(ロ)　後志地方、刈取リタル稻束ヲ畦畔及田面ニ穗先ヲ下ニシテ一把ツヽ立テ懸ケ陽乾スルコト二三日ニシテ之レヲ稻架ニカケ乾燥ス

(ハ)　札幌、膽振地方、刈取リタル稻ハ小束トナシ直チニ稻架ニ掛ケテ乾燥スルヲ常トスレトモ中ニハ刈取リテ小束トシタル稻ヲ畦畔又ハ田面ニ穗先ヲ下ニ立テカケテ乾燥スルノミナリ

(ニ)　空知、上川、浦河、留萌地方、小束ニ束ネ直ニ稻架ニカケテ乾燥スルヲ普通トスルモ刈取後半日位陽乾ヲナシテ結束シ、稻架ニ懸ケルモノ亦少カラス

斯クテ乾燥シタル稻ハ直ニ扱キ落スカ或ハ居宅ノ附近ニ運ヒテ穗ヲ内部ニ向ケ藁稈ノ切口ヲ外ニシテ圓錐形ニ積ミ雨覆ヲナシ置クカ又ハ納屋ニ運搬シ置キ冬期農閑ヲ利用シ脱穀ス

東　京　府

稻刈取後數日間耕地又ハ宅地ノ附近ニ於テ稻架ニ掛ケ五六日間乾燥シ然ル後籾トナシ尚二三日間莚上

ニ於テ陽乾シ籾篩ニテ通シタルモノヲ一時俵若クハ井籠ニ入レ置キ十二月、一月、二月頃農閑時期ニ入リテ取出シ籾摺ス

埼玉縣

一、稲架ニ懸ケ乾燥スルコト
二、稲架ハ南北ニ通シテ設クルコト
三、稲架ハ高サハ地面ヨリ五寸乃至一尺穂先ノ離ルル位トスルコト
四、乾燥日數ハ稲ノ種類及氣候等ニヨリ一定シ難キモ七日内外トス
五、扱落シタル籾ハ更ニ晴天二三日間莚干ヲ行フコト(但シ以上ハ乾燥法注意事項)

千葉縣

刈取後直ニ稲架ニ掛ケテ乾燥スルモノ小把ニ束ネテ畦畔芝地ニ立掛ケ若クハ穂ヲ外ニシテ莖ヲ組ミ重ネ乾燥スルモノ及刈乾シ又ハ田乾シト稱シテ田ニ廣ケ乾燥スルモノ等數種アリ、何レモ乾燥日數三日乃至十日ヲ普通トス、此ノ乾燥ヲ終リタルモノハ扱落シテ莚乾ヲナス、莚乾シハ莚一枚ニ籾約六七升ヲ盛リ一日一回或ハ二回反轉シツツ二日乃至三日間陽乾ス

茨城縣

乾燥ノ慣行ハ從來地乾ト稱シ稲ヲ刈取リタル儘稲穂ヲ地面ニ三四日間打廣ケ置クモノ多ク、一部ニハ棚掛ト稱シ畔形ニ六分通リヲ刈取リ殘四分通ノ立毛ノ上ニ四五日間掛廣ケ置クモノアリ、又管内ノ南部ニ於ケル一部分ハ濕田ノタメ稲架ヲ用フル者アリシモ近年產米改良ノ必要ヲ唱導シタル結果作付面積ノ五割マテ稲架ヲ實行スルニ至レリ其稲架ノ方法ハ簡便ヲ旨トシ粗雜ナル一段架法ヲ採レリ

栃木縣

稲ノ刈取ハ普通晴天ニ之ヲ行フモ那須郡鹽谷郡ノ如キ比較的多クノ面積ヲ耕作スル地方ニアリテハ往々夜間刈取ヲナスモノアリ刈取リタル稲ノ乾燥ハ左ノ方法ヲ以テス

(イ) 地乾、乾田ニ於テ多ク行フ方法ニシテ刈取タル稲ヲ薄ク田面ニ擴ケ二三日間陽乾ス
(ロ) 棚刈乾、濕田ニ多ク行ハレ三四尺毎ニ二三列ノ稲ヲ刈リ取ラスシテ殘シ置キ其上ニ刈取リタル稲ヲ薄ク擴ケテ一二日間陽乾ス
(ハ) 架乾、刈取後稲架ニ懸ケテ五日乃至十日間乾燥ス

右ノ内、地乾ハ乾田多キ上、下都賀、安蘇、足利地方ニ多ク行ハレ架乾ハ那須郡東北部地方ニ於テ古クヨリ行ハレ稲ノ乾燥トシテ最モ適當ナル方法ナルヲ以テ之カ奬勵ヲ爲シタル結果縣下普ク實行ノ機運ニ向ヒタリ、前述ノ如ク刈取タル稲ハ何レノ方法ニ依リテカ乾燥スルヲ通例トスルモ鹽谷、那須兩郡ノ一部ニハ刈取リタル稲ヲ直ニ結束シ畦畔等ニ穂ヲ南ニシテ六把ツ、積重ネ二三日穂ヲ乾燥シテ後扱落ス慣習アリ

乾燥シタル稻ハ直ニ金扱ニテ扱落ス（安蘇、足利兩郡地方ニハ稻ノ品種ニヨリ打落ヲナスモノアリ）ヲ例トスルモ宇都宮市近傍及鹽谷郡氏家町那須郡西那須野村等ニアリテハ乾燥シタル稻ヲ穗ヲ內ニシ圓筒形ニ高ク積重ネ置キ晩秋ヨリ初冬ニ亘リ農閑ヲ利用シテ扱落ヲナスモアリ

扱落シタル籾ハ連枷又ハ「ルラー」ニテ芒打ヲナシ篩選、唐箕選ノ上莚ニ薄ク擴ケテ晴天二三日間乾燥シ五斗乃至六斗ノ俵ニ入レ或ハ穀櫃中ニ格納スルヲ常トス、鹽谷郡、那須郡地方ニハ八斗入位ノ手提穀櫃ヲ使用スルモノアリ

群　馬　縣

乾燥地ニ在リテハ刈取リタル儘本田ニ於テ三四日間日光乾燥ヲナシ濕地ニ在リテハ棚掛ケトナシ二日乃至三日間乾燥シタル後乾地ニ於テハ間々野扱ヲナスモノアルモ概ネ自家ニ搬入シ來リ稻扱器ニ掛ケ扱落シタル籾ヲ二日乃至三日間莚ニテ乾燥ス

長　野　縣

稻ヲ刈取リタルトキハ普通二三日間地乾トナシ又ハ約二週間稻架掛トシ乾燥スルニ及ヒ農舍ニ收納シテ扱落又ハ打落ヲ行ヒ篩、唐箕等ニテ選別ヲ行ヒ二日間陽乾シ籾仕上ヲ行ヒ、玄米取引ノ慣行アル伊那地方ニ於テハ直チニ籾摺ヲナシ玄米トシ普通一俵ノ容量三斗五升乃至四斗五升トス

山　梨　縣

刈取リタル稻ハ其儘其地上ニ薄ク擴ケテ二三日間乾燥ス之ヲ平乾ト稱ス、本縣ハ秋期ノ氣候頗ル乾燥スルヲ以テ稻架ニ據ラサルモ能ク乾シ上クルコトヲ得ルナリ、軈テ平乾終リタレハ之レヲ束ネテ畦畔ニ積ミ又ハ饒ト稱シテ丸ク積ミ上クルヲ普通トス畦畔ニ横積トスル場合ハ穗ハ成ルヘク南ニ向ケ饒ノ場合ハ穗ヲ內方ニス

新　潟　縣

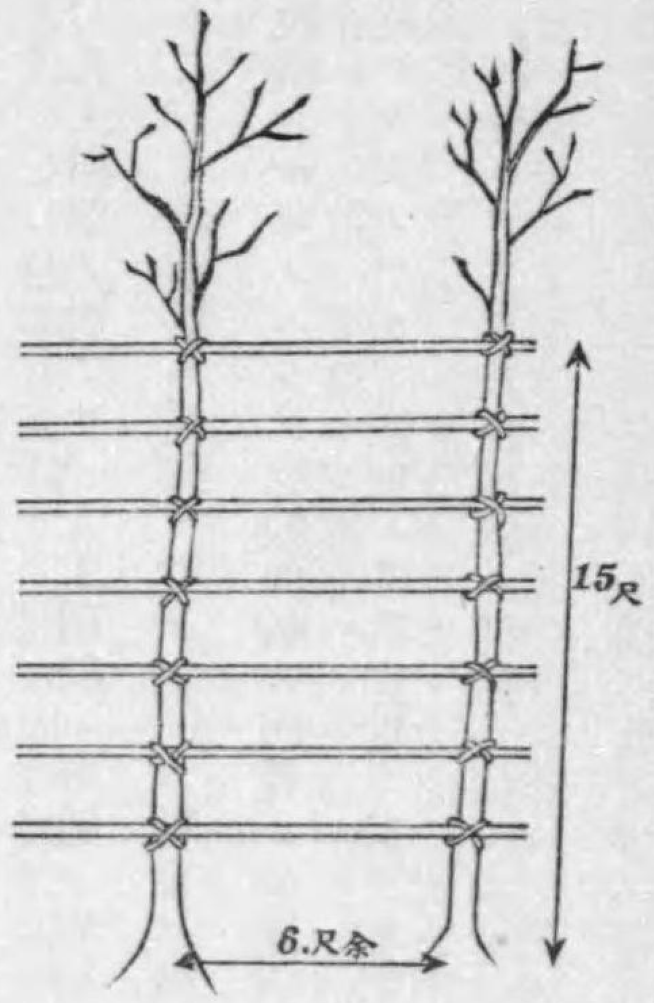
乾燥ハ主トシテ稻架ノミニ依ルモノナリ、籾ノ莚干乾燥ハ其期節ニ於テ驟雨ノ多キト宅地比較的狹隘ナル上其周圍ニ樹木多キトニヨリ從來是ヲ實行スルモノ無ク目下試驗的ニ若干之カ實行ヲ試ミツアルニ過キス

稻架ニハ天然稻架、人工稻架ノ別アリ、人工稻架ハ普通ノ稻架ト異ル處ナシ、天然稻架トハ畦畔ニアルはんのき、とねりこ、くぬぎ等ニ横架ヲ設ケ之レニ稻束ヲ架スルモノヲ云フ、共ニ十日乃至二週間放置シ乾燥セル後脫穀スルモノニシテ脫穀後特ニ何等ノ乾燥方法ヲ取ルコトナシ、此他ニ從來ノ惡習慣トシテ逆乾、杭乾ナルモノアリ、逆乾ハ畦畔堤塘ニ於テ稻束ヲ穗ヲ下ニシテ並立セルモノニシテ主ナル目的ハ刈口部ノ乾燥ニアリテ重量輕減シ運搬ニ便センカタメナリ

一、天然稻架

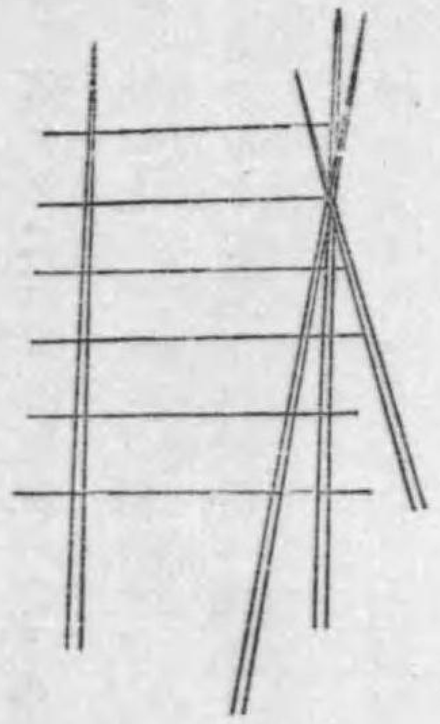
立木ハ前逃ノ如キ畦畔木ヲ利用シ横架トシテハ細丸太、竹又ハ繩ヲ用ユ繩ヲ用ユル時ハ更ニ樹間ニ一

本ノ竹ヲ立テ縄ノ垂下ヲ防ク、段數ハ低キハ六、七段ニシテ各段ノ間隔一尺五寸位、大様左ノ如シ

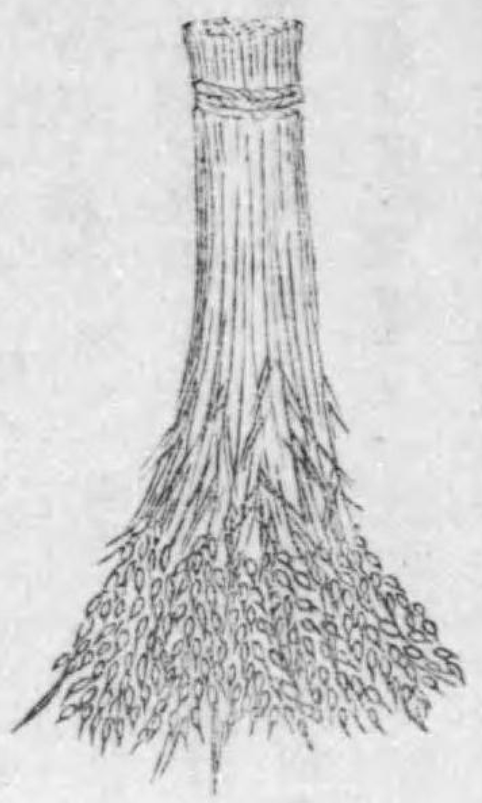


二、人工稲架

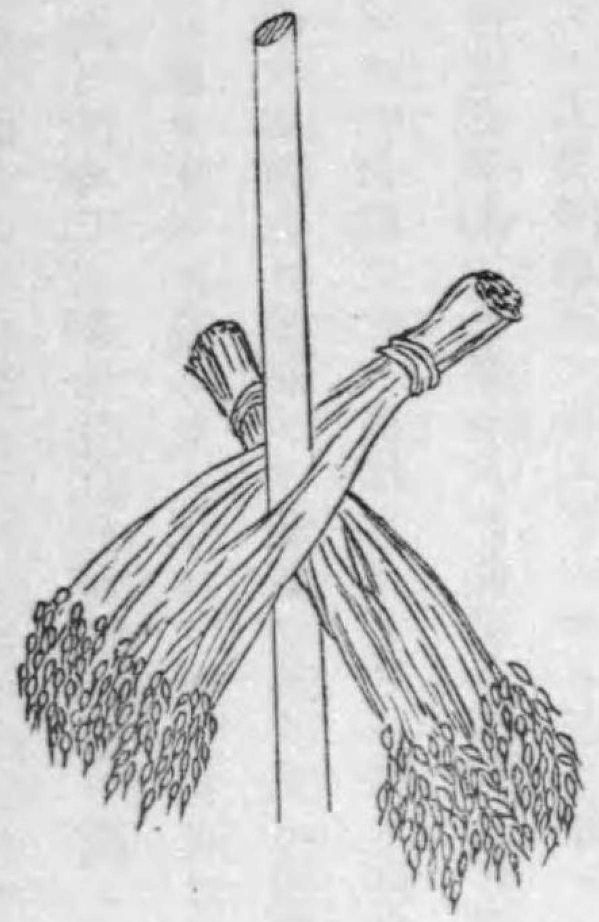
畦畔堤塘ニ長丸太又ハ竹ヲ以テ天然稲架ニ類スルモノヲ作ル、横段ニハ幾部分縄ヲ混用セルモノアリ、一反歩ニツキ延間數六十間ヲ標準トス



三、逆　乾（ナトリ）



四、杭　乾



富山縣

乾燥ニ就テハ明治三十六年二月縣令第二號趣旨ニ基キ稻ノ乾燥ハ七日以上架乾トナス、但シ土地ノ狀況ニ依リ架乾ヲ爲シ難キトキハ郡市長ノ承認ヲ得テ地乾ヲ爲ス場合アリト雖地乾ハ晴天三日以上トシ稻ハ日ノ出前ニ取擴ケ日沒前ニ集積シテ覆蓋ヲ施シ又ハ屋內ニ搬入シテ雨露ニ逢ハシメサルコト、地乾ノ場所ハ乾燥地タルハ勿論ナルモ田地ニ在リテハ豫メ排水ノ設備ヲ爲シ地盤ヲ充分乾燥セシメタル上之ヲ實行ス、而シテ地乾稻ハ扱落シタル後更ニ晴天二日以上莚乾ヲ爲スモノトス

縣令ハ以上ノ如クナレ共實際農家ノ行ヒ居ルモノ左ノ如シ

(1) 架乾、刈取タル稻株六株乃至九株ヲ以テ一把ニ括リ之ヲ稻架ニ吊シ晴天一週間乾燥シ後穗先ヲ中央ニシ株ヲ外ニシテ高サ五六尺徑五六尺ノ圓形ニ積重ネ藁ヲ以テ上部ヲ覆ヒ置クモノニシテ地方ニ於テ此ノ作業ヲ堅(カタ)メ圦(ニュ)ト稱ス

(2) 地乾、刈取リタル稻ヲ其田ニテ一把每ニ穗先ヲ下ニシテ取擴ケ地乾ヲナシ日沒前ニ取纏メ小形ノ圦トナシ藁ニテ雨覆ヒヲ施シ置キ翌日又其稻ヲ取擴ケ乾燥ス、斯ク繰返スコト三日又ハ四日間ノ後前記ト同一ノ堅メ圦トナシ置クナリ

斯クシテ農家ハ其耕作全部ノ稻ノ刈取乾燥ヲ終リタル後徐々ニ其圦ノ附近ニテ扱落シタル上調製シ俵又ハ叺ニ入レ屋內ニ搬入シテ更ニ莚乾ヲ施シタル後藏入スルヲ普通トスレトモ地方ニヨリテ其方法ヲ異ニセリ、卽チ稻扱ニテ扱落シタル儘莚建ニ入レ置キ晴天ノ日ニ取出シ莚乾ヲ爲シタル上調製シテ藏入スルモノト、又扱落シタル儘叺又ハ俵ニ入レ邸宅內ニ搬入精選ノ作業ヲ爲シ藏入スルモノトアリ、或ハ架乾地乾ヲ終リ直ニ屋內ニ搬入シテ稻扱精選ヲ爲ス向モアリテ區々一定セス

石川縣

乾田地方ニアリテハ概ネ刈取後田面ニ晴天一日乃至二日間刈稻ヲ四把宛組立陽乾ノ後三組(十二把)ヲ一束トシ鳰ヲ造ル、鳰ハ二三回取擴ケテ陽乾シ後晴天ヲ見計ヒ圃場ニ於テ稻扱ヲナス、扱落シタル籾ハ篩ニテ籾ト「ヤタ」トニ別チ屋內ニ搬入シ籾ハ唐箕ニテ塵埃及粃ヲ除却シ「ヤタ」ハ梶棒又ハ杵ニテ打落シ籾トナス、濕田地方ニアリテハ概ネ刈取後直ニ架乾トナシ一週間乃至二週間乾燥シ前記ノ方法ニ依リ籾トナシ後莚乾ヲナス、カクシテ得タル籾ハ一時「タテ」ト稱シ莚ニテ包圍セル中ニ貯藏シ置キ雨天又ハ野外作業ノ閑散ナル日ヲ選ヒ籾摺ヲ行フ

尙架乾法及地乾法ヲ說明スレハ左ノ如シ

地乾ハ刈取リタルママ田面ニ逆立セシメ晴天二日間乾燥シ更ニ大束ニシテ蛸魚乾又ハ畝干トナスコト二三日ニシテ晴天ノ日ニ於テ扱落シ籾トナス、架乾ハ刈取ノ後直ニ稻架ニ掛ケ十日間乾燥ノ後扱落シ又ハ自宅ニ持運ヒ或ハ鳰トナシ置キ農閑ヲ利用シテ扱落シ籾トナス

稻架ノ構造ハ一反步ニ對シ長サ九間十三本立テ九段掛トス

以上二法ニヨリテ扱落シタル籾ハ乾燥不良ナルカ故ニ更ニ莚一枚ニ六升乃至八升ノ籾ヲ分配シ晴天二日以上乾燥セシム、而シテ九月ヨリ十一月中旬マテニ之レヲ行フ

今摺用貯藏籾ハ乾燥不良ノモノニ對シ翌春四五月ノ交ニ於テ莚乾ヲ行ヒ貯藏シ置キ隨時臼摺ヲ行フ

福井縣

乾燥方法ハ三通アリ、即チ稻架乾、生籾莚乾、架乾並籾莚乾ノ併行之ナリ、此ノ内最モ廣ク行ハルルモノハ稻架乾ニシテ架乾、莚乾ノ併行ハ之ニ亞キ生籾莚乾ニ至リテハ一小部分ニ過キス

(1) 稻架乾、丸太ヲ立テ又ハ立樹ヲ利用シ横架木ニハ多ク竹ヲ用ユ、晴天一週間以上架乾ト爲シ置キ相當ニ乾燥シタル後之レヲ家內ニ取入レ然ル後扱キ落シ籾トナス、此方法ハ縣下全體ノ約六割ヲ占ム

(2) 架乾莚乾、普通一週間許架乾ヲナシタルモノヲ更ニ籾トナシ莚乾ヲナスモノニシテ莚一枚ニツキ籾五、六升一日三、四回攪拌シ、又莚ノ下ニハ下敷ト稱シ濕氣ヲ受ケサル樣竹莚又ハ藁莚ヲ敷ク、此ノ方法ハ最モ完全ナルモノニシテ足羽郡吉田郡ノ一部ニ古クヨリ行ハレタルノミナリシカ米穀檢査事業開始ト共ニ奬勵ノ結果縣下各郡ニ亘リテ幾部ノ實行ヲ見ルニ至レリ

(3) 生籾莚乾、稻刈取後直ニ扱キ落シ籾トナシ前記莚乾ヲ行フモノナリ、之レハ吉田郡ヲ主トシテ其他ノ各郡ニ僅カニ行ハルルモノニシテ稻ハ早熟種ニ限ル、其ノ缺點ハ直接生籾ヲ莚乾ヲスル爲胴割ヲ生スル嫌アリ

備考　前記ノ莚乾ニ就ハテ何レモ莚乾後相當ノ日時(五六日以上)ヲ經過シタル後ニ非サレハ籾摺ヲ爲サス、之レハ直ニ籾摺ヲ行フトキハ碎米ヲ多ク生スルノ弊アリ、次ニ前記三方法ニ依リ籾トナリタルモノハ貯藏用ト又直ニ玄米ト爲スモノトノ二樣ニ區別セラル直ニ玄米ト爲スモノハ多ク屋內ニ於ケル適當ノ場所ニ莚建ヲ爲シ其內ニ入レ或ハ床上ノ一隅ニ適當ナル板圍(俗ニ籾風呂又ハ籾重ト稱ス)ヲ施シテ貯ヘ籾摺ヲ爲スヲ普通トス

福島縣

刈取リタル稻ハ乾田又ハ畦畔ニ擴ケルモノト籾ヲ扱キ落シタル後更ニ莚ニ擴ケテ乾燥スルモノトアリ、稻架乾燥ハ縣ノ必行事項トシテ奬勵シツツアルモ未タ總作付反別ノ五割四分內外ニ過キス、尙莚乾ヲナスコト極メテ必要ナルモ本縣ハ概シテ之ヲ行フモノ少ナシ

宮城縣

イ、刈取後二三日間畦畔ニ穗ヲ下ニシテ立テ後稻架ニテ二三週間乾燥シ後鳰トナシ置クモノ亘理、伊具、刈田、柴田ノ諸郡ノ大部分

ロ、刈取後小束トナシ藁ノ中央部ヲ束ネ畦畔上ニ穗ヲ上ニシテ立テ二週間內外經過シタル後十五把ヲ一盛リトシ十文字形ニ積重ネテ二週間內外乾燥シ後宅地附近ニ運ヒ稻鳰トナシ乾燥スルモノ名取、

宮城南郡ノ大部分

ハ、刈取後直ニ一週間乃至二週間畦畔ニ穂ヲ上ニシテ乾燥シ後架乾又ハ棒掛トシ二十日乃至四十日間乾燥シタル後鳰トナスモノ桃生郡ノ大部分

ニ、刈取後一週間又ハ棒掛トナシ二三週間乾燥ノ後鳰トナスモノ本縣ノ山間地方ニシテ乾田多キ所及平原地方ニシテ架木等不足ノ個所即チ黒川、加美、志田、遠田、栗原、登米諸郡ノ大部分

備考　乾燥方法中穂ハ下ニ向ケ地乾シヲナスノ方法ハ之レカ改正ノ必要ヲ認メ架乾及棒掛ヲ奬勵シタルヨリ漸次該法ハ減少シツツアリ

山形縣

刈取ヲ終レハ直ニ乾燥ス其ノ方法種々アリ次ノ如シ

架掛乾燥、主トシテ山地附近ノ材料廉價ナル地方ニ行ハル、而シテ多クハ一度畦畔等ニ逆ニ立テ四五日間藁ノ根元ヲ乾燥シ後架掛ト爲ス者多シ

杭掛、七尺五寸位ノ杭ヲ畦畔ニ立テ之ニ稲ヲ掛ケ一二回掛ケ返シヲ爲シ收納ス、多クハ杭掛前ニ畦畔ニ立テテ根元ヲ四五日間乾シ後杭掛ト爲スモノニシテ一本ニ掛クル把數多クシテ杭ノ全長ニ及ヒ甚シキハ一丈位ニ掛ケ重ヌルモノアリ莊内及村山方面ニ多シ

生掛杭掛、杭掛法ヲ改良セルモノナリ其ノ方法ハ杭掛前畦立ヲ爲サス又杭ノ下端ニ稲把ヲ立テテ掛ケタル稲把ノ地面ニ接スルヲ防キ一本ノ杭ニ掛クル數ハ四十八把乃至五十把ト爲シ其ノ中間一二ケ所ニ空隙ヲ置クモノナリ此ノ方法ニ依レルモノハ米ノ乾燥著シク佳良ナルヲ以テ莊内方面ニ普及シ村山方面ノ熱心ナル地方ニモ稍實行ヲ見ルニ至レリ

地乾、唯畦畔等ニ倒ニ立テテ數日間乾燥シ稲子ト稱シテ之ヲ四十把位ツツ一山トシテ積ミ收納スルモノナリ、舊來村山方面ニ最モ多ク行ハレタル方法ナリ、置賜方面ニテハ稲子ニ積ミタル後一二回晴天ヲ見日中一把ツツ穂ヲ上ニシテ立テ乾燥ス、之ヲ「ザンギリ乾シ」ト稱ス、乾燥ヲ終レハ農舍ニ收納シ又ハ鳰積ト爲ス、鳰積ハ莊内及置賜方面ニ多シ、之ヲ晩秋野外勞働不可能ノ節ニ至レハ調製ス其ノ方法特異ノモノナシ莊内方面ニテハ一日中稲扱、籾摺ヲ行ヒ玄米ト爲ス勞働者一人ノ功程普通五斗俵一俵ナリ

秋田縣

縣南三郡並ニ由利郡ニ於テハ刈取後直ニ改良穂鳰（一本杭ニ稲穂ヲ内側ニ向ケ數十把ヲ掛ケルモノトス）ニ掛ケ五日乃至一週間ヲ經テ返シテ爲シ爾後三、四日乃至一週間ヲ經テ掛ケ返シヲ爲シ爾後三四日乃至一週間ニシテ收納スルカ或ハ又刈取タルモノヲ直ニ稲架ニ掛ケ一週間乃至二週間ノ後收納スルモノトス、但納屋ノ狹小ナルモノハ家屋ノ附近ニ鳰積ト稱シ五、六百束ヨリ一千束内外（一束トハ普通刈取ノ際二握リ又ハ三握リヲ一把トセハ八把又ハ十把ヲ縛リシモノヲ云フ）ヲ稲穂ヲ内方ニシ圓筒形ニ積ミ重ネ露ヲ防クタメ其ノ上部ヲ稲藁ニテ幾重ニモ包ミ冬季農閑ノ期ニ至リ積下シ特ニ乾燥スル

コトナク直ニ稲扱ニテ脱穀シ更ニ打チテ芒ヲ除去シ唐箕ニテ撰別ス

縣北三郡及中央部二郡ハ刈取後畦畔ニ稲穂ヲ下方ニ向ケ二、三日間放置シタル後前記ノ方法ヲ採ル、稲架又ハ改良穂鳰ニ依ルトキハ乾燥ヲ充分ニスルヲ得ルモ此ノ方法ハ往昔ヨリ一般ニ行ハレタル方法ニアラスシテ最近二十ケ年前後ヨリ漸次當業者ニ認メラレ現在ニアリテハ其ノ實行八割以上ニ普及セリ

巖手縣

刈取後地方ニ依リテ異ナレトモ二日乃至十日間可成乾ケル田面、畦畔、草生地等ニ束立トナシテ水氣ヲ去リ後登架スルモノ、又ハ刈取後直ニ稲架ニカケ或ハ本鳰法ニヨリ七日乃至二十日間乾燥シ然ル後屋内ニ取入レ稲扱ニ掛ケ扱キ落シ槤枷又ハ木槌ニテ打チ若クハ杵搗トナシ唐箕ヲ用キテ能ク芒、塵芥等ヲ除却シ精選ノ上藏入ス、稀レニハ藁付ノママ冬期マテ収納小屋ニ集積シ置ク地方モアリ

青森縣

津輕地方ニテハ刈取リタル稲十把又ハ十二把ヲ以テ一組トシ田面又ハ畦畔ニ穂ヲ上シテ互ニ寄セ掛ケ二三週間乾燥ス、此ノ一組ヲ「島立」ト稱ス適度ニ乾ケハ四、五十島ヲ積ミ重ネテ小サキ稲乳穂トシ穂ヲ内ニシ稈ノ根部ヲ乾カス、乾燥後宅地附近ニ運搬シテ大乳穂トシ晩秋ヨリ冬季ノ間ニ調製ス、南部地方ニテハ刈取リタル稲六把ヲ以テ一組トシ穂ヲ下ニシテ寄掛ケ先ツ稈ヲ乾カシ二三週間ノ後三十五島(組)位ヲ積ミ重ネ西方ニ口ヲ開キタル小ナル稲乳穂トシ穂ヲ内ニシテ穂ト稈トヲ乾カシ充分乾燥シタル後宅地附近ニ運搬シ大乳穂トシテ積ミ置キ秋冬ノ候扱キ落ス、而シテ縣下ヲ通シテ掛乾トスルモノ未タ甚タ少シ

神奈川縣

刈取ハ普通稲刈鎌又ハ鋸鎌ヲ使用シ概シテ地乾ノミヲ行フ、濕田ノ多キ郡部(鎌倉、高座、中)ニハ肢脚ノ沒入ヲ防キ刈穂ノ運搬上板下駄、田船等ヲ使用スル地方アリ、脱粒ニハ稲扱及唐竿(クルリ)ヲ専用シ籾ノ調製ニハ大團扇又ハ唐箕ヲ用ユ籾ノ乾燥ハ概シテ莚乾二日間位ナリ

靜岡縣

刈取リノ上稲架ニ掛ケ又ハ地上ニ於テ二三日間日光ニ乾シ充分乾燥ノ上稲扱ニテ扱落シ莚ニ擴ケテ二三日間陽乾ス

愛知縣

乾田ニアリテハ刈取リテ小束トナシ株ヲ上方ニ穂先ヲ地上ニ擴ケテ乾燥スルコト四五日ニシテ扱落シ更ニ二三日間莚乾ヲ行フ、濕田ニテハ稲架乾燥ヲナスコト、五日乃至十日間ニシテ扱落セルモノヲ更ニ一兩日間莚乾ヲナス、然レトモ稲架乾燥奬勵ノ結果乾田ニアリテモ之レヲ實行スルモノ漸次増加セリ

三重縣

刈取後直ニ畦畔ノ樹木或ハ稲架ニ掛ケ五日乃至一週間乾燥スルヲ普通トスルモ間々二十日間モ放置ス

ルモノアリ、或ハ刈取後傘乾ト稱シテ稻束ヲ下ニ向ケ二三日間穗ヲ乾シ再ビ上向ケニシテ藁ヲ乾ス處アリ、又南部ニ於ケル早稻ハ暑中ナレハ乾燥良好ナラス、之レ日光强キタメ胴割スルカタメナリ、圃場ヨリ運ヒ扱落シ之レヲ二日乃至三日莚乾トナス、一枚凡ソ六、七升又晩生種ハ五升ヲ置キ一日三四回位反轉ス、乾上リタルモノハ一時莚圍トシテ土間或ハ納屋ノ一隅ニ置キ雨天或ハ農閑ヲ利用シ籾摺ス

岐阜縣

刈取リタル稻ハ不破、揖斐、本巣ノ諸郡ノ乾田地ヲ除ク外多クハ稻架ニ五日乃至十五日間懸ケ置キ扱キ落シタル後晴天ニ一日乃至三日莚乾ヲナス、不破、揖斐、本巣諸郡ノ乾田地ハ刈取後束トナシ田面ニ攤ケ晴天二日間位乾燥シ扱落シ後二日乃至四日間莚乾ヲナス、莚乾ノ場合ハ莚一枚ニ籾五升乃至七升トシ一日一二回反覆攪拌ス

滋賀縣

(イ)稻架乾、刈取後約二週間稻架ニテ乾燥シ籾ヲ扱落ス、稻架乾燥ハ濕田ノ地方ニ多シ

(ロ)莚乾、刈取直チニ籾ヲ扱落シ莚一枚ニ約六升ヲ限度トシ晴天ニ二日乃至三日間曝シテ充分ニ乾燥ス莚乾ハ乾田ノ地方ニ多シ

(ハ)稻架乾及莚乾、七日以上稻架乾ヲナシタル後一日乃至二日間莚乾ヲナスモノトス

籾ノ扱落シハ栗太郡ノ大部分甲賀、野洲兩郡ノ小部分ニテハ打チ臺ニテ打チ落シ其他ノ各郡(栗太郡ノ小部分甲賀、洲野兩郡ノ大部分ヲ含ム)ニ於テハ何レモ稻扱器ヲ使用ス

京都府

山城ノ各郡及丹波ノ南桑田、船井ノ兩郡ノ平坦部ニ於テハ一段掛稻架ニヨリテ十數日間乾燥ノ後扱落シヲナシ籾篩ヲ以テ之ヲ篩ヒ(或ハ唐箕撰ヲ行フ)其後晴天二日位莚一枚ニ付六、七升ノ容量ニテ午前九時頃ヨリ午後四時頃迄ニ莚ノ下敷ヲ行ヒテ乾燥ス

丹波ノ北桑田、何鹿、天田及丹後ノ各郡ニ於テハ六段乃至九段掛稻架ヲ用ヒ十日乃至三十日間乾燥後稻架ニテ扱落シ唐箕撰ヲ行フノミニテ莚乾ヲ行ハサルヲ普通トスルモ、特例トシテ天田郡ノ東部及加佐郡ノ一部ニ於テハ莚乾ノ慣行アリ

大阪府

(イ)刈取リタル稻ヲ晴天一週間以上架乾ヲ爲ス

(ロ)二枚莚若クハ一枚莚ニ下敷ヲ用ヒテ晴天二日以上乾燥ス

奈良縣

刈取後直ニ架乾ヲ爲ス、其日數ハ一週間内外ニシテ扱落シ二日乃至三日間莚乾ヲ爲ス、一枚ノ莚ニハ六七升ヲ入レ下敷ヲ用フ

和歌山縣

刈取後小束トナシ稲架ニ掛ケ又ハ地乾ト稱シテ其ノ儘田圃、畦畔等ニ擴ケテ四、五日乃至一週間乾燥シ後稲扱ニテ扱キ落シ唐箕ニ掛ケテ粃及塵芥等ヲ除去シ更ニ之ヲ莚一枚ニ付七、八升ノ割合ニテ晴天一日又ハ二日間莚乾ヲ行フ

兵　庫　縣

刈取リタル稲ハ五株乃至十五株ヲ一束トシ之レヲ五六日乃至十日間稲架ニ掛ケ乾燥シタル後稲扱ニテ扱落シ篩又ハ唐箕ニ掛ケテ塵芥ヲ除キ一日乃至三日間莚乾ヲナス、尤モ莚ハ地上ノ濕潤ヲ避クル爲ニ重敷トスルカ或ハ下敷トシテ藁(稈)莚ノ類ヲ用フ、而シテ莚一枚ニ擴クル籾量ハ普通六七升トス、但前記稲架乾及莚乾ハ天候、作業ノ都合上伸縮アルヲ免レス

岡　山　縣

本縣ノ南部(備前一圓ト備中南部五郡トニシテ全縣下米總産額ノ約七割ヲ占ム)ハ秋收ノ候ニ至レハ田面多クハ乾燥スルヲ以テ刈取リタル稲ヲ野乾トス其方法種々アルモ大凡ソ左ノ如シ

地乾、稲ヲ田面ニ排列スルモノ、乾燥地ニ行ハル

羽重ネ乾、稲ノ穂先ヲ前列ノ稲藁ノ上ニ重ネルモノ、(二三日乾ス)

棚乾　稲ノ幾部ヲ刈リ殘シ其上ニ乘セルモノ、棚乾及掛ケ乾ハ濕地ニ行ハレ二日乃至七日間乾燥ス、莚乾ヲ一日乃至三日行フ

掛ケ乾、徑約一寸餘リノ竹又ハ細木長サ約七八尺ノモノ三本ヲ以テ三叉形ニ立テ之ヲ柱トシ横ニ竿ヲ架シテ稲架トス

乾燥地ハ多ク地乾ヲナシ又ハ羽重ネ乾ヲ(二三日間)行ヒ濕地ニ於テハ棚乾又ハ架乾ヲ(二日乃至七日間)行ヒ次ニ籾ヲ扱キ落ス又刈リ取リ後直ニ稲扱ヲ爲ス者アリ扱キ落シタル籾ハ野乾ノ乾燥程度ニ依リ晴天一日乃至三日間莚乾ヲ行フ莚乾ハ一枚ノ莚ニ籾約八升ヲ盛リ日光ニテ乾燥ス其莚ニハ小麥藁莚又ハ稲藁莚若クハ竹簀等ヲ以テ下敷ヲ爲シ一日三回以上籾ヲ攪拌シ乾度ノ不同ナカラシム、而シテ乾燥ノ適度ヲ待テ籾摺ヲ行フ

又縣下上北部(備中ノ内北三郡ト美作一圓ニシテ全縣下米總産額ノ約三割ヲ占ム)ハ概シテ山間ニシテ比較的日射力微弱ナリ此ノ地區内ト雖モ約半數(米收量ヲ標準トス)平垣ナル村落隨所ニアリ、此平坦部ノ乾燥方法ハ南部ト殆ント同一ナリ其餘ノ半數ハ多クハ高山溪谷等ニ介在セル村落ニシテ日射時間モ短ク概シテ乾燥困難ナリ、此村落ノ乾燥方法ハ刈取後一週間又ハ二週間架乾ヲ爲シ次ニ籾ヲ扱キ落シ晴天一日又ハ二日間莚乾ヲ行ヒ後籾摺ヲナス、此地區内ニ行ハルル掛ケ乾ノ方法ハ南部ト異リ田ノ畦畔又ハ近傍ノ樹木ニ横木ヲ結付ケ之ヲ稲架トス

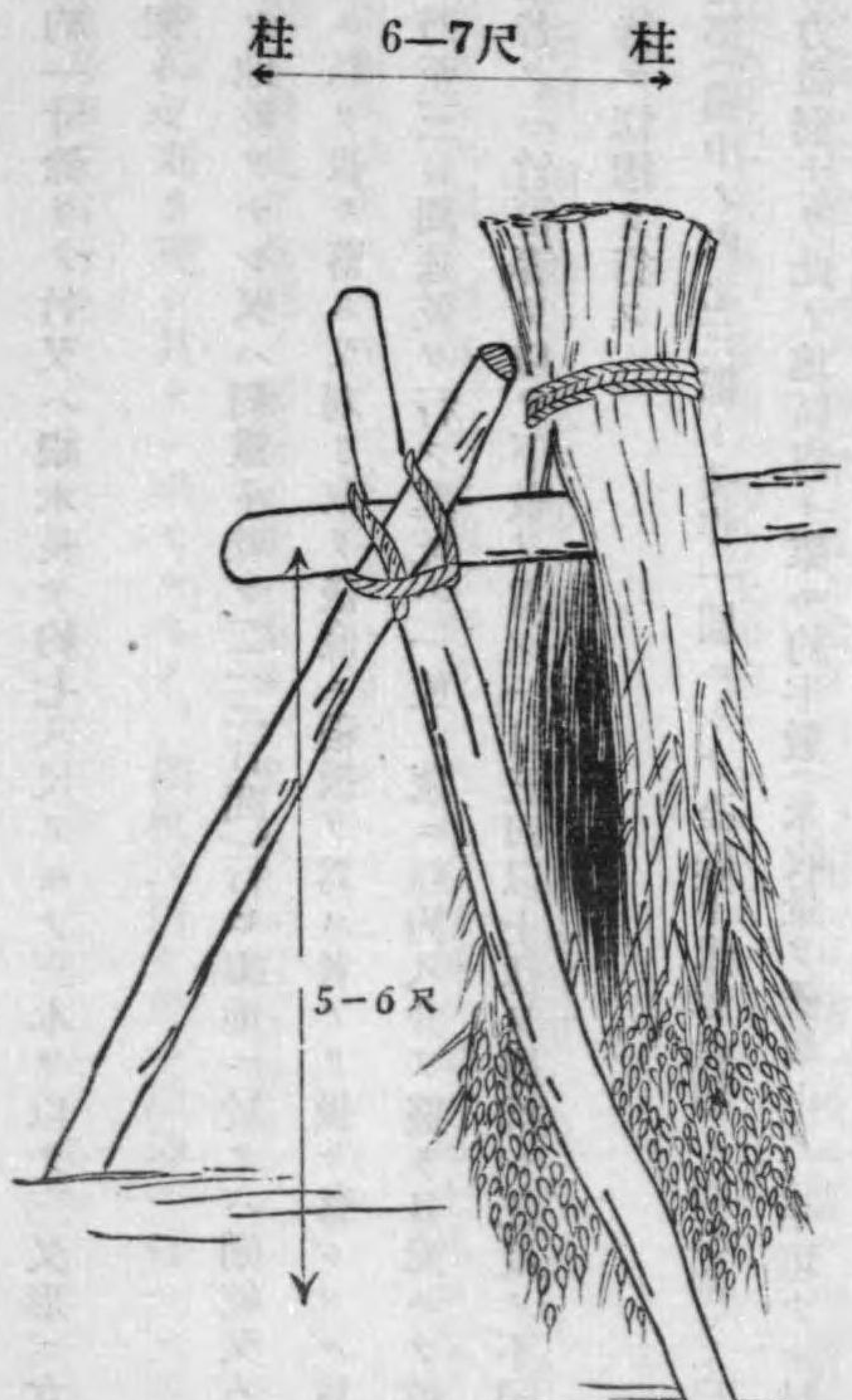
廣　島　縣

(イ)　稲架法、本縣北部ノ各郡ニアリテハ南北ノ方向ニ大ナル柱ヲ地上ニ立テ之レニ横木ヲ數段ニ縛シ

此横木ニ稻束ヲ穗ヲ下ニ向ケテ割懸トシテ乾燥ス地面ヨリ最下段迄ノ高サハ約五尺、段ト段トノ間隔ハ一尺八寸乃至二尺トス三週間乾燥シテ直チニ扱落ス明治四十三年米穀檢査開始以來乾燥ニ重ヲ置キ之レヲ奬勵シタル結果近年ニ至リテハ一段架法ニ依レルモノ增加スルニ至レリ

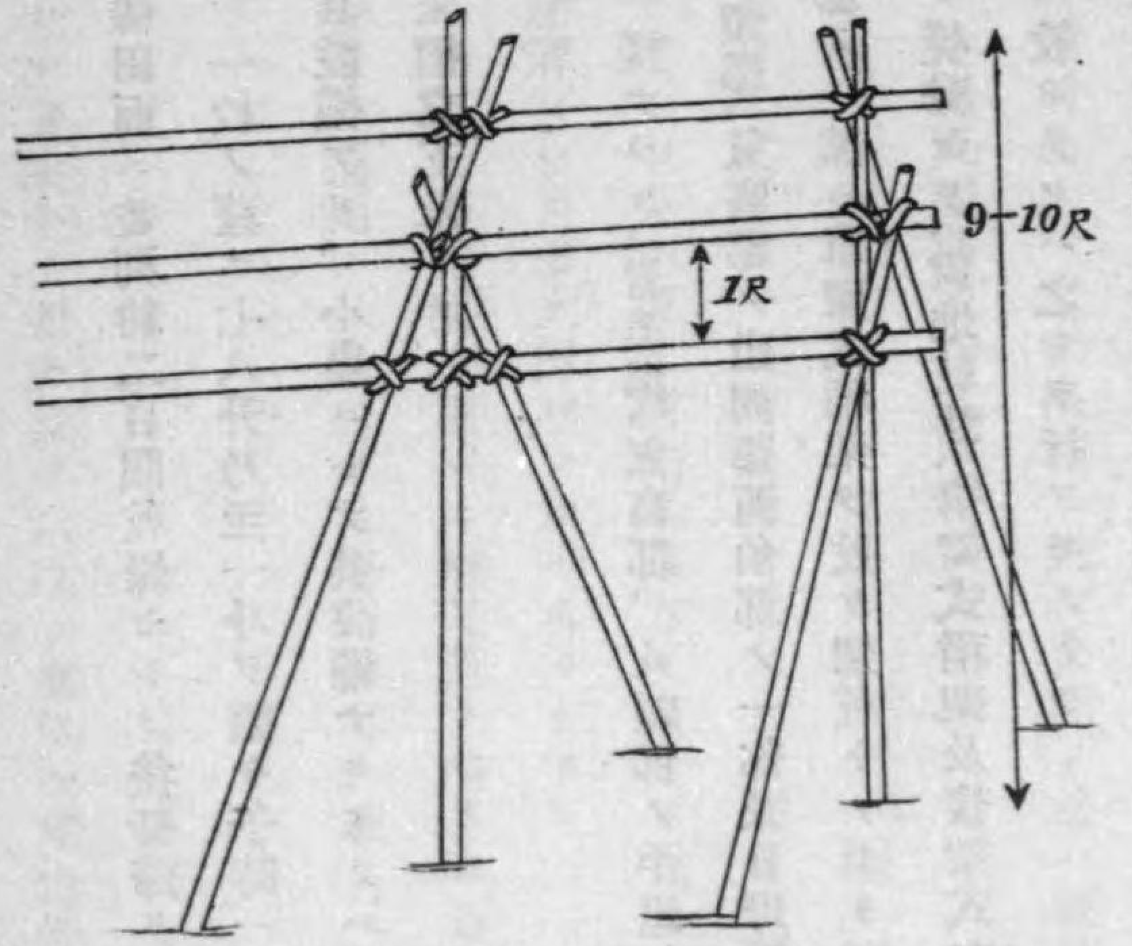
(ロ) 稻架莚乾併用法、本縣中南部ノ各郡ニアリテハ稻架ニテ一週間位乾カシテ扱落シ更ニ二三日間莚乾ヲナス、北部ノ各郡ト雖モ近時之レニ倣フモノ漸ク增加セリ

(ハ) 直扱莚乾法、沿岸部及島嶼ノ農家ハ直扱シ莚乾二三日ニシテ籾摺ヲナスヲ普通トス



尙稻架ノ大樣ヲ記サンニ長サ七、八尺ノ棒杭ヲ叉狀トナシ之レニ棒ヲ架シ之レニ打掛ケ(勿論穗ヲ垂下ス)乾燥セシム其高サハ約五尺ニシテ長サハ土地(田)ノ狀況ニ依リテ一定セス、方向ハ地形ノ許ス限リニ於テ南北トス其理由トスル處ハ太陽ノ光線ヲ可成垂直ニ受ケシメンカ爲メナリ、尙掛方ハ一段掛トシ横木ノ長短ニヨリ叉杭ヲ增減スルハ勿論トス

三段稻架　　反當約十間



山口縣

刈倒シタル稻ハ其儘田面ニ並列約二日間乾燥セシメ後持歸リテ扱落シ篩ニテ藁又ハ稻穗等ヲ篩分ケ更ニ唐箕ニテ風撰シ、一枚ノ莚ニ七八升乃至一斗ヲ擴ケ午時一回反轉シ二日間乾燥シタルヲ籾置場（普通農家ニテハ多ク其設備アリ、小農ニシテ其設備ナキモノハ莚ヲ二三枚繼キ合セ之ヲ立テ、籾置場トス）ニ入レ置キ秋末摺立玄米トス

鳥取縣

米穀乾燥法ハ縣下一樣ナラス、岩美郡、氣高郡、八頭郡ノ平坦部及東伯西伯ノ一部ハ從來地乾法ニヨリ岩美郡元岩井部、八頭郡、氣高郡ノ山間部西伯郡ノ一部及日野郡ハ複架式稻架行ハレ東伯郡ノ殆ント全部及氣高郡、西伯郡ノ一部ハ單架式稻架ヲ設ケ架乾トナセリ、各種乾燥法中最モ利便ナルハ單架式ナルヲ以テ之レヲ專ラ奬勵セリ、尙地乾法、單架式稻架及複架式左ノ如シ、但本縣ニ於テハ罕ニ莚乾ヲ試ミルモノアリト雖一般ヨリセハ之レヲ行フモノナシ

一、地乾法

區別シテ四種トス

(イ) 小把ニ作リ六把宛ヲ一組トナシ穗先ヲ上ニシ圓形ニ相助立セシメ數線ニ併立ス、晴天四五日ニシテ穗ノ乾燥スルヲ待チ更ニ株ヲ乾燥セシムル爲十八把內外ノ小隈ヲ作リ二週日位放置ス此ノ間下層ト上層ノモノトヲ一回積替ヘヲナス、之レヲ東立ト稱ス因幡ノ一地方ニ行ハル

(ロ) 大把ニ作リ穗先ヲ地面ニ擴ケ株ヲ上方ニ八把乃至十把宛ヲ一組トナシ圓錐狀ニ相助立セシメテ週日內外乾燥セシム之ヲ逆立ト云ヒ東伯郡八橋地方ニ行ハル

(ハ) 長サ三尺位ノ小竹木三本ノ一端ヲ括リ三角形ノ支柱ヲ作リ穗先ヲ上方ニ一把ヲ助ケ掛ケ漸次之レニ立テ掛ケテ堤狀ニ延長ス、之ヲ掛乾ト云フ又此ノ法ハ線條ニ延長セスシテ一面ニ展開セシムルモノアリ、西伯郡ノ一部及因幡ノ一部ニ行ハル

(ニ) 刈倒シノ儘把ヲ作ラスシテ乾燥セル地上ニ擴ケテ一線ニ延長シ更ニ其ノ延ヘタル株上ニ穗先ヲ重疊セシメテ順次之レヲ反覆シ一面ニ展開ス、之レヲ羽重乾ト稱シ東伯郡赤碕地方ニ行ハル

其ノ他割乾ト稱シテ把ノ中央ヲ折リ穗先ヲ四方ニ擴ケテ立テ、恰モ苜ノ如ク田面ニ散在セシムルノ法アレトモ貧民ノ應急策ニシテ多ク行ハレサルモノナリ

總テ地乾乾燥ニ在テハ何レノ方法ヲ選ハス晴天週日內外ハ每朝乾燥作業ヲナシ夕刻及雨天ニ際シテハ小隈ヲ作ルカ故ニ勞力ノ損耗ノミニ於テモ至テ拙劣ノ法タリ、況ンヤ降雨繁キ本縣ニ在テハ歡迎スヘキモノニ非サルナリ

二、單架式乾燥法

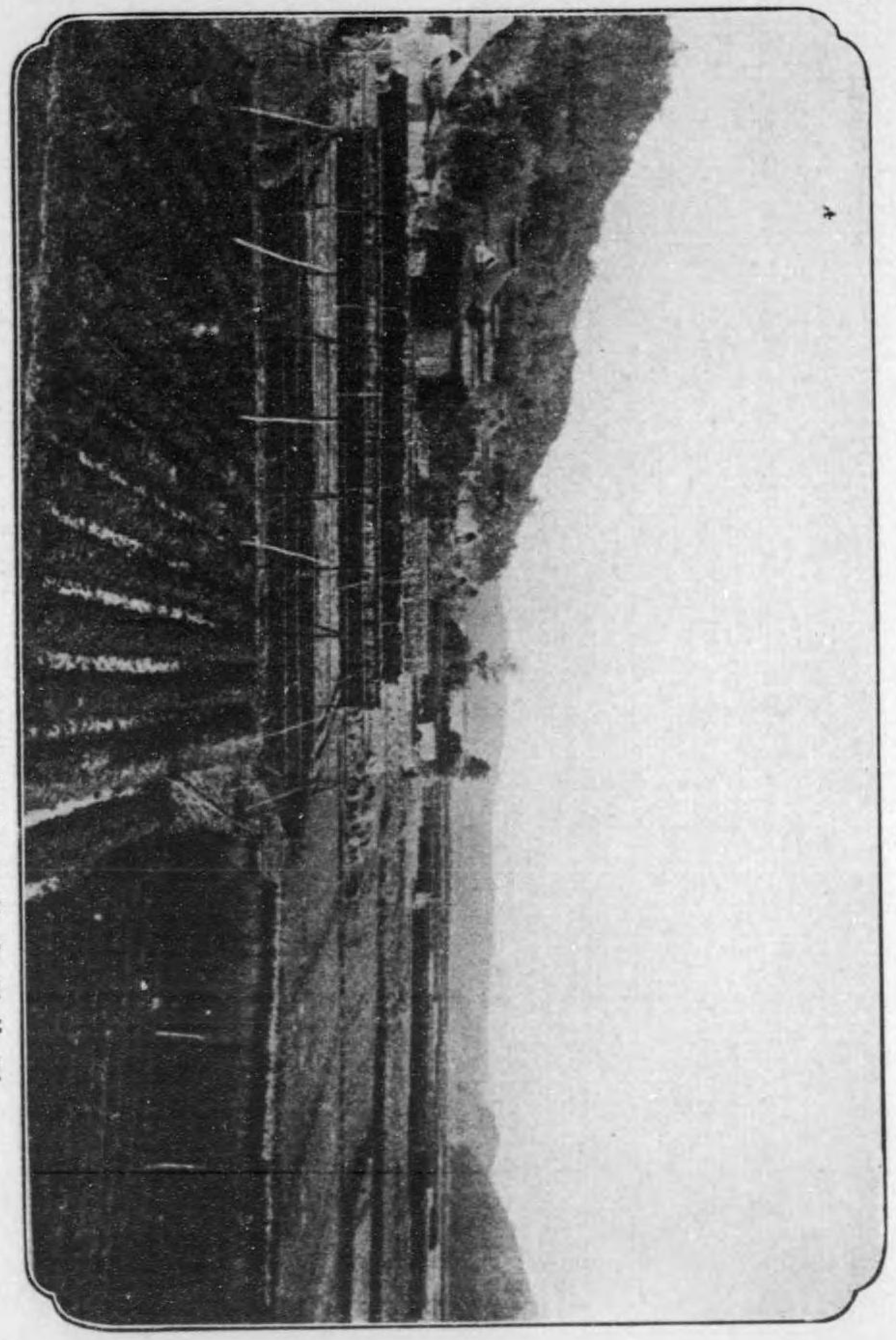
該法ハ最モ簡便ナル方法ナリ即チ長サ六尺、末口一寸內外ノ脚木ト、長サ四間內外、末口一寸五分

位、本口三寸位ノ渡木トヲ以テ作ル一反歩ニ要スル脚木ノ數ハ凡ソ五十二本ニシテ渡木ハ四間位ノモノヲ用ユルトキハ七本ニテ足ルヘシ、之レカ架設方法ハ渡木ノ接合點及全架ノ兩端ニ三本宛ノ脚木ヲ凡ソ三尺ノ距離ニ三角形ニ土中ニ立テ其ノ上端ヲ一括シ、之レニ渡木ヲ支ヘ其ノ三本ノ支柱トノ中間ハ約一間餘ヲ隔テテ二本宛ノ脚木ヲ前後約三尺ヲ跨ケテ立テ上端ヲ渡木ノ曲直ニ沿フテ括リ以テ渡木ヲ支持ス、稻把ハ七分三分位ニ割リ、多キ部分ノ外方ニ現ハルル樣交互ニ割掛トナス（稻ノ穗先ハ地上一尺位ヲ隔タル位ヲ度トス）而シテ其ノ上ニハ更ニ稻把ヲ以テ覆蓋ヲナス、之レヲ笠稻ト稱ス笠稻ニ折掛、蓑掛、頭出シ等ノ別アリ

三、複架式乾燥法

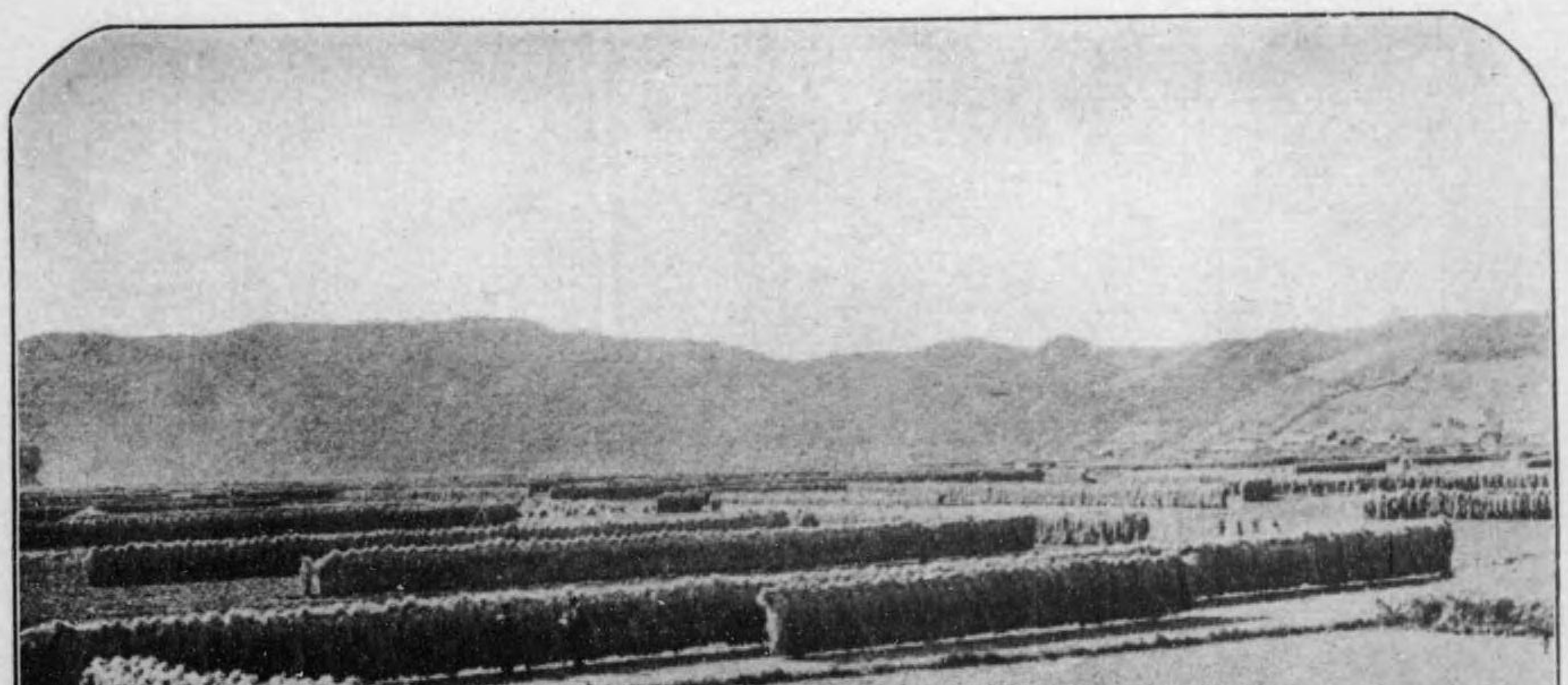
該方法ハ單架式ニ於ケル渡木大ノモノヲ東西ニ亘リ凡ソ一間半內外ヲ隔テテ根元尺餘ヲ土中ニ埋メ稍々北方ニ傾斜スル如ク數本ヲ樹立シ、尙北方ヨリ同大ノ助木ヲ添ヘテ倒伏ヲ支持スルノ用ニ供ス而シテ此ノ支柱ニ數條ノ橫木ヲ階段狀ニ結縛セルモノニシテ五段、八段、十段、十二段掛等アリ稻把ヲ掛クルニハ割掛ト折掛ノ別アリテ割掛ハ折半ニ割リ橫木ヲ跨ケ掛ケ、折掛ハ把ノ中央部ヲ折リ穗先ヲ北ニ株ヲ南ニ幾重ニモ重ネテ掛クルノ法ナリ

複架式稻架



西伯郡成實村大字奥谷ヨリ尚德村方面ヲ望ム
大正三年十一月十日撮影

單架式稻架



東伯郡上北條村大字新田ヨリ仝村大字古川澤方面ヲ望ム
大正三年十一月八日撮影

地乾法

岩美郡美保村大字吉成ヨリ仝村大字宮長方面ヲ望ム
大正三年十一月九日撮影

島根縣

刈取リタルモノハ稲架ニ掛ケ二三週間乾燥シ後扱キ落シ籾摺ヲナス

德島縣

（産米檢査所注意書ヨリ稲ノ乾燥ノ項拔萃）

(一) 稲ハ可成架乾トナスコト
(二) 地乾ノ際ハ必ス穗重乾トシ降雨ノ時ハ取入ルルコト
(三) 生籾ハスヘテ扱落シタル後尙數日間莚乾ヲ行フコト
(四) 莚乾ニハ下敷ヲナシ一莚ニ八升以內ヲ撒布シ數回攪拌スルコト
(五) 莚乾ニハ午前九時頃ニ取出シ午後三四時頃ニ至レハ取入ルヘシ

香川縣

乾燥ヲ分チテ刈乾ト籾ノ莚乾トノ二種トス、刈乾ハ更ニ架乾、穗重乾、並乾ノ三種ニ別レ、架乾ハ用材多キ山間部地方ニ行ハレ、概ネ一週間乃至十日架乾シテ穗ヲ扱キ落スヲ通例トス、穗重干ハ穗ヲ直接土面ニ觸レシメサル目的ニシテ濕潤地ニ於テ行ハレ、並乾ハ直接土面ニ横ヘルモノニシテ乾田ニ於テ行ハル、何レモ普通二三日ニシテ扱キ落スモノトス、莚乾ハ麥稈菰ノ下敷ヲ爲シ混砂ヲ防クト共ニ空氣ノ流通ヲ良クシ普通三四日ニシテ乾燥シ得、尤モ籾ノ莚乾ニ就テハ午前九時頃ニ擴ケ二三回攪拌シ午後

三時頃屋内ニ取リ入レ以テ朝夕ノ濕度強キ空氣ヲ避クルコト、セリ

愛　媛　縣

刈取リ後約三日間翅重乾トナシタル稻ヲ約三尺周リ位ニ結束シ田面一定ノ場所ニ集積シ置キ順次稻扱器ニテ扱キ落シタル籾ヲ下敷ヲナシタル莚一枚ニ約八升乃至一斗ヲ籾サガシト稱スル器具ヲ以テ擴ケ一日三回位攪拌シ晴天二三日位乾燥シテ唐箕選ヲ行フ

高　知　縣

排水良好ナル乾田ニアリテハ可成晴天ヲ選ヒ田面ニ刈倒シ一日乃至二日間陽乾シ直ニ扱キ落シ篩別及唐箕選ヲ經テ莚ヲ擴ケ一日—二日間陽乾シ石入俵トシテ容量八斗一石五六斗ノ藁俵又ハ穀桝トテ倉庫又ハ收納舍ノ一部ヲ板ニテ仕切リ之レニ入レテ貯藏ス

排水惡シキ濕田又ハ雨天續キノ時ハ刈取リ後直ニ扱キ落シ可成薄ク擴ケ時々攪拌シ天候恢復ヲ待チテ二三日間陽乾ス

福　岡　縣

刈取リ後田面ニ於テ平乾トシ、二三日間ノ後扱落シ尙莚乾トシテハ一枚ノ量八九升以内ヲ二、三日間籾乾ヲナス、籾トシテ貯藏スルモノハ翌春彼岸前後ニ於テ尙一回莚乾ヲナス、縣内築上、鞍手二郡ノ如キハ近時掛乾ヲ奬勵シタル結果實行シツ、アリ

佐　賀　縣

稻ヲ刈リ倒シタル儘田面ニ於テ二三日間陽乾シ平坦部ニ於テハ八株乃至十二株分ヲ以テ小束トナシ之ヲ田圃ニ積ミ乾燥ノ目的ヲ以テ二回以上之カ積替ヘヲナシ十月ヨリ翌年一、二月頃迄ノ中ニ全部田圃ニ於テ扱落ス、山間部ノ耕地少キ地方ニ於テハ田圃ニ於テ陽乾後通常周三尺位ノ束トナシ麥ノ播種前ニ於テ稻扱ヲ終ル、扱キ落シタル籾ハ更ニ二三日莚ニ擴ケテ陽乾ス

長　崎　縣

稻刈取後濕田ニアリテハ附近ノ堤塘又ハ稻架等ニ、乾田ニアリテハ其ノ刈跡地ニ二三日間乾燥シタル後之ヲ束トシ自宅ニ取寄セ扱落シ、若クハ田地ニテ扱キ落シテ之レヲ篩選シ又ハ唐箕選ヲナシ、籾ニテ貯藏スルモノハ一二日間莚乾ヲナシ俵裝スルモノト其儘直ニ俵入スルモノトアリ、俵ハ一重俵ニシテ一俵ノ容量四斗乃至五斗ヲ普通トス、玄米トシテ貯藏スルモノハ扱キ落シタル籾ヲ更ニ莚乾ヲ行フコト兩三日ニシテ唐箕選及篩選ヲナス

大　分　縣

刈取後ハ普通羽重乾トシ三日間位圃場ニ乾燥シ後千齒ヲ以テ扱落シ莚一枚ニ五升位ヲ擴ケ晴天二日乃至三日間乾燥ス

熊　本　縣

乾燥ノ習慣トシテハ他縣ニ見サル「猫伏(チコブク)」ト稱フル巾廣ノ厚莚ヲ用ユ、右ハ肥後藩ニ屬セル地方ニ限ラレ他ハ普通ノ莚ヲ用ユ、此地方ハ乾燥不良ノ爲メ近來架乾ヲ行フノ慣例ヲ生シツヽアリ、其他田面ニ晴天二日間地乾シ後莚乾ヲ行フ、一莚ニツキ二斗、四隅ヨリ集メ更ニ擴ケルコト一日五回位ナリ

宮　崎　縣

刈取リタル稻ハ直ニ田面ニ擴ケ(甚シキ濕田ニアリテハ原野等ニ運搬シテ乾燥ス)或ハ稻架乾トナシタル後稻扱ニテ扱キ落シ唐箕選ヲナシテ夾雜物ヲ除去シ莚ニ可成薄ク擴ケテ陽乾シ三日間位ヲ經テ後叺(四斗入)入トナス

地方ニ依リテハ直ニ扱キ落ス事ナク小積ト稱シ乾燥セル刈稻ヲ積ミ重ネ翌年一、二月頃ニ至リテ扱キ落ス慣行ノ所アレト奬勵ノ結果近年漸次減少シツヽアリ

鹿　兒　島　縣

從來本縣ニ於テハ稻刈取後直ニ田面ニ平乾シ稍々其乾燥セルヲ見計ヒ之ヲ田面ノ一部ニ小積ト稱シテ集積シ置キ、農閑時期(十二月乃至一月)ニ至リテ隨時扱キ落シ直ニ(稀レニハ一日間位莚乾ヲナスモノアリ)叺ニ入レテ貯藏スルノ慣行アリシカ乾燥不充分ナルタメ大ニ米質ヲ損シ其害甚シキヲ以テ之レカ改善ヲ促シ羽重乾及稻架乾ヲ奬勵シタル結果漸次其慣行ヲ改ムルニ至レリ、米穀檢査實施以來一層稻架乾(五日乃至七日)及羽重乾(三日乃至五日)等ヲ實行シ稻ノ乾燥ノ完全ニ期スルモノ多ク又其扱キ落シタル籾ハ更ニ莚乾(一日乃至三日)ヲ勵行スルニ至レリ、殊ニ最近ニ至リ稻架乾ノ必要ヲ感シ益々普及スルノ傾向ヲ認ム

第三節　地方別調製及包裝慣行

東　京　府

乾燥後籾通篩ニ通シタルモノヲ一時俵若クハ井籠ニ入レ置キ十二月、一月、二月頃ノ農閑時期ニ入リテ取出シ籾摺ヲ行ヒ玄米ト爲シ更ニ俵詰(二重俵トスルモノアリ)ノ上藏入スルヲ通例トシ著シク異リタル慣行ナシ

京　都　府

調製、籾ノ乾燥ヲ爲シタルモノハ臼摺ヲ行ヒ唐箕、萬石(千石)ヲ用ヒテ玄米ニ仕上ク、調製法ハ府下各郡トモ異ナルコトナシ

包裝、內外二重俵ニシテ口尻ハ棧俵ヲ內俵ノ兩端外部ニ當テ縢繩ヲ施シ之ニ外俵ヲ卷キ編繩ノ末端ヲ以テ結付ケ口尻兩端ヲ折掛縢繩ヲ以テ三遍ツヽ九箇所ニ引掛ケ順次右廻リニ縢リ四廻目ヨリ一目飛トシ縱繩ハ中央横繩ヲ除キ其他ノ横繩ニ悉ク引掛ケ俵口ノ一方ニ於テ男結ニ結ヒ止メ卷封ヲ施ス部分ヲ存シ中央横繩ノ上更ニ二廻緊括スルモ生產檢査ニアリテハ過半ハ縱繩ヲ施サス又白米ヲ叺仕立トナストキハ太サ約一寸ノ繩ヲ以テ叺口ノ卷込ミタル兩耳ニ引掛ケ中央ヲ二回緊括シテ叺ノ上端中央ニ結ヒ

止メ卷封ヲ施ス部分ヲ存セシム、又丹波、丹後地方ノ籾貯藏ニ要スル容器トシテ普通行ハルル方法ハ七八斗入大籾俵及籾井籠ト稱スル木框ヲ用ヒテ貯藏ヲナシ、玄米ハ四斗入菰俵トナスモノ等アリ

大阪府

調製、臼摺ノ後唐箕選ニヨリ籾殼、粃、稗、青米、碎米及塵芥等ヲ除去シ後千石通シ（萬石通シトモ云フ）ヲ用ヒテ籾ヲ除キ再ヒ唐箕選ニ依リ精選ヲ爲ス

包裝、乾燥セル前年ノ藁ヲ用ヒ二重俵ニシテ內俵ノ兩端ニ棧俵ヲ附シ口縢リヲナシタル後三箇所ニ横繩ヲ施シ各二廻リ結ヒトシ外表ニハ口縢リヲ爲シ横繩縱繩ヲ施ス、横繩ハ五箇所各二廻リ結ヒトシ縱繩ハ二筋ヲ以テ四方掛ケトシ中央横繩ヲ除キ其他横繩ニ悉ク引キ掛ケ繩端ハ俵口ニ於テ男結ヒトシ中央横繩ノ上ヲ更ニ二廻リ緊括ス、東成郡一圓中河內郡、北河內郡、泉北郡ノ一部地方ニ於テハ內俵三箇所ニ横繩ヲ用ヒスシテ內外俵ヲ重ネ合セ外俵ニ前項記載ノ方法ニ依リ縱横繩ヲ施シ以テ緊括ス、又一部地方ニハ縱繩ヲ施サヽルモノモアリ

神奈川縣

籾ノ調製ニハ大團扇又ハ唐箕ヲ用ユ、籾ノ乾燥ハ概シテ莚乾二日間位ナリ、籾トシテ貯藏スルモノ尠キニヨリ乾燥後ハ唐臼ニ掛ケ唐箕、萬石通等ニヨリ玄米ニ調製ス後一重ニシテ普通菊縢三ケ所乃至五ケ所括ノ俵ニ包裝ス

兵庫縣

調製、乾燥ヲ了リタルモノハ籾摺ヲナシ唐箕萬石篩ニ掛ケテ籾殼及籾ヲ除キ更ニ屑米、碎米ノ選別ヲナス爲再ヒ萬石篩ヲ急勾配ニ立テ之ヲ通シテ最後ニ唐箕ニヨリテ塵芥ヲ除去ス

包裝、調製ヲ了リタル米ハ自家ノ食料ニ供スルモノノ外本縣米穀檢査規則第四條ニ依ル俵裝ヲ爲ス、以上ハ米穀檢査施行地ニ於テ行ハルル方法ナルモ檢査未施行地タル但馬ニ在リテハ舊慣ヲ踏襲セルヲ以テ乾燥、調製、俵裝共ニ區々タルヲ免レス、今其方法ノ檢査施行地ト異レル點ヲ指摘セハ左ノ如シ

（イ）氣候ノ寒冷ナルタメ稻架乾、莚乾ノ日數長キコト

（ロ）調製ノ順序方法ハ略同一ナルモ檢査ヲ受クルノ要ナキ爲手數ヲ省キ粗略ニ流ルルノ嫌アリ

（ハ）俵裝ノ粗雜ナルコト

（ニ）一俵ノ容量五斗ナルコト（檢査地ハ四斗）

長崎縣

唐箕選、篩選ヲナシ二重俵横五ケ所結ヒ縱四方掛ケトシ倉庫又ハ室內ニ貯藏スルヲ普通トスレトモ往々縱繩ヲ用ヒサルモノ二方掛ノモノ等アリ、北松浦郡、壹岐郡ニ於テハ縱繩ヲ用ヒス單ニ横三ケ所結ヒトスルモノ多シ

群馬縣

調製、充分乾燥シタルモノヲ摺臼ニ掛ケ之ヲ唐箕ニテ籾殼ヲ去リ萬石ニ掛ケ米、籾ヲ區別シ籾ハ更ニ摺臼ニ掛クルモノトス、斯クスルコト二三回ニシテ米トナリタルモノヲ更ニ強ク唐箕ニ掛ケ更ニ萬石ニ移シ屑米ヲ取リ去リ調製ヲ終ル

包裝、新俵ヲ調製スルモノニアリテハ一貫匁乃至一貫三百匁位ノ單俵裝トナシ又古俵ヲ購入シ單俵トシテ保存スルモノアリ

千　葉　縣

調製、刈取後乾燥セルモノハ稻扱ヲ用ヒ扱落シテ籾トナシ芒多キモノハ特ニ芒打チヲナシテ後籾篩ニテ篩ヒ藁其他ノ粗大ナル夾雜物ヲ去リ、更ニ唐箕ニテ土砂、芒等ヲ除キ而シテ籾乾ヲ行フ、籾貯藏ヲ爲スモノハ此ノ籾乾ヲ終リテ後貯藏スルモノトス尙玄米トナスモノハ籾乾ヲ終リタル籾ヲ摺臼ニテ摺リ米ト籾殼トニ分チ更ニ唐箕ニテ籾殼ヲ除去シ又之レヲ萬石ニカケテ籾ヲ區別シ玄米トナス

包裝、籾ハ五斗乃至八斗入ノ藁俵ニ入レ藁或ハ縱莚ニテ包ミ二重俵裝トナス、玄米ハ大部分米穀檢査規則ニヨリ拡藁ノ二重俵裝トナス

栃　木　縣

調製、籾ヲ調製スルニハ籾摺臼ヲ以テシ多クハ人力ナルモ那須郡ニテハ水力ヲ利用スルモノ多シ、次ニ唐ニ箕選ヲナシ次テ萬石通シヲ行ヒ更ニ唐箕選ノ上、四斗入俵トナス、調製ノ時期ハ從來甚區々ニシテ上下都賀、安蘇、足利各郡ニ於テハ冬季ニ於テ籾摺ヲナシ其他ノ各郡ニ於テハ賣米ノ必要ヲ生シタル都度調製スルノ慣行ナリシカ籾取引禁止並ニ今摺米廢止督勵ノ爲メ今ヤ大半秋摺ヲ實行スルニ至レリ而シテ秋摺ヲナスモノト今摺ヲナスモノトハ秋季籾ノ乾燥及包裝等ニ於テ取扱上何等異ナル點ナシト雖今摺就中梅雨後ニ於テ調製スルモノニアリテハ籾摺前更ニ莚乾ヲ行フヲ普通トス尙籾乾後更ニ唐箕選ヲ行ヘハ玄米調製上容易ナルヲ以テ之カ實行方ヲ督勵ノ結果漸次實行ノ域ニ進ミツヽアリ

包裝、籾ノ包裝ハ通例五六斗入ノ俵ヲ使用スルモ稀ニ七八斗入ノモノヲ使用スル地方アリ、要スルニ籾俵ノ大小ハ三俵ヲ米一駄或ハ二俵ヲ以テ一駄ヲ調製シ得ル樣作製シタルモノノ如シ、故ニ從來米一俵四斗二升入、四斗五升入等地方ニヨリ區々ノ慣習ナリシカ故ニ籾俵ノ大小區々ニ涉リシモ米穀檢査實施後ハ米或ハ麥ノ空俵ヲ使用スルモノ多キニ至レリ

米ノ包裝ハ左記米穀檢査規則ノ定ムル所ニ依ル

越年乾燥セル撰藁ヲ用ヒ左ノ各項ニ依リ作製スルモノトス

重量　六百五十匁乃至七百五十匁

封數　六十封以上（編ミ上リ三尺七寸）

封間　四箇所編ミトシ其ノ間隔ヲ各六寸五分トス

髭　五寸五分

目貫　八箇

横繩　能ク打柔ケタル撰藁ヲ以テ拗ヒタル圍リ一寸以上ノモノヲ用ヒ二周リ五ケ所結トス

桟俵　大サハ直徑一尺トシ重量ハ一ケ九十匁乃至百二十匁トス

小口　各目貫ニ引掛ケ中央ニ於テ引締メ菊花狀縢リトス

奈良縣

調製、乾上後籾摺ヲナシ唐箕ニテ先ツ稃、粃、塵芥等ヲ除キ萬石簁ニテ籾、砕米、土砂等ヲ撰別ス

包裝、二重俵ニテ內俵ハ重サ五百匁乃至六百匁外俵ハ三百五十匁乃至四百五十匁何レモ越年ノ藁ヲ用ヒ四箇所編トス横繩ハ周リ一寸ノモノヲ用ヒ五ケ所トス、但內俵ニハ横繩ヲ用ヒス、但米穀檢查實施後モ宇智郡、南葛城郡ハ慣行上直ニ二重俵トナス能ハサル事情アルヲ以テ大正六年迄ハ內俵ノ代リニ紙袋ヲ使用セシムルモ其他ニハ差異ナシ

容量四斗トス

愛知縣

調製、乾燥シタル籾ハ唐臼ニテ籾摺ヲ行ヒ唐箕ニ掛ケ籾殼ト玄米ヲ撰別シタルモノヲ萬石篩ニ掛ケ砕米、屑米等ヲ除去ス、斯ク調製シタル玄米ヲ再ヒ唐箕ニ掛ケ土砂塵芥等ヲ撰別シテ俵裝ス

包裝、調製終レハ本縣標準俵裝ニ基キ內俵ニ入レ横繩三ケ所二廻リトシ兩端ニ桟俵ヲ當テ之ニ外俵ヲ裝ヒ五ケ所掛二廻リトシ之ニ縱繩ヲ四方掛トス、小口括リハ九ケ所拗トシテ四廻リ目ヨリ一ツ飛ニ緊括セラルルモ自家消費米トシテハ一重俵ノモノ尠カラス、又籾ノ貯藏ニテハ莚乾ヲナシタル後直ニ凡ソ五斗入位ノ俵トシ或ハ叺入トシテ貯藏セラル

靜岡縣

調製、乾操シタル籾ハ籾磨臼ニテ脫殼ヲ行ヒ唐箕ニテ殼ト米トヲ區分シテ更ニ篩ニテ精選ス

包裝、一重俵五ケ所締メナルモ特例トシテ賀茂郡ニテハ小作ヨリ地主ヘ納付スルモノヲ叺入レトスルモノアリ又各郡共ニ保存用トシテハ保米袋(紙製)ヲ用ヒ或ハ二重俵トナスモノ多シ、容量ハ安倍郡以東ハ四斗入ニシテ志多郡以西ハ四斗一升入ナリ

山梨縣

調製、普通ノ稻扱ニテ扱キ落シ有芒種及穗屑ハ莚ニ攤ケテ陽乾シ俗ニぼーち杵ト稱スル器具ヲ以テ打チ籾篩ヲ通シテ後唐箕ニ掛ケテ仕上クルナリ、玄米扱ノ地方ハ木製ノ摺臼又ハ土臼ニテ籾摺ヲナス

包裝、籾ハ俵入トス、俵ハ四ケ所編ミニシテ重量一貫二三百匁乃至一貫四五百匁ニシテ皆一重俵ナリ、一俵ノ容量ハ六斗六升入ヲ普通トシ郡內ト稱スル南北都留郡ハ特ニ七斗入又北巨摩郡ニ於ケル小作米

以外ノモノハ籾七斗二升入トス、俵ノ兩側ニハ棧俵ヲ當テ細繩ニテ紮ケ後普通繩ニテ五ケ所結トナス

結上ケタル俵ハ六斗六升入ニシテ約長サ二尺六七寸太サ直徑一尺四五寸、一俵ノ重量十八九貫匁トス、

玄米ハ四斗俵ニシテ特ニ異リタルコトナシ

滋　賀　縣

調製、籾摺臼ニ掛ケタルモノヲ颺扇ニ掛ケテ玄米、籾、碎米、塵芥、土砂ヲ撰別シ更ニ萬石簁ニテ二回簁シ米ト籾トヲ擇別シ籾ハ更ニ斯クスルコト一二回ヲ繰返シテ玄米トナス

包裝、縣下一定ニシテ總テ近江米同業組合ノ定款ノ規定ニ依レリ其規定左ノ如シ

近江米同業組合定款拔萃

一、玄米ハ俵入トシ一俵ノ容量ヲ四斗一升トナスヘシ但シ一斗以上ノ端米ニ限リ袋、叺入ト爲スコトヲ得

縣外ニ輸出スル精米ハ俵、叺又ハ袋入ト爲シ其容量ヲ一斗以上四斗以下ト爲スヘシ

二、俵ハ二重トナシ左ノ各號ニ據ルヘシ

イ、内俵ハ乾燥セル前年ノ藁ヲ用ヒ菰四ツ打其量四百五十匁以上六百匁以内ト爲スコト

ロ、外俵ハ乾燥セル藁ヲ用ヒ菰四ツ打七十以上編ミトシ其量三百匁以上四百匁以内トナスコト

ハ、内外俵ハ共ニ兩端ノ編繩間ヲ二尺乃至二尺一寸ト爲スコト

ニ、棧俵ハ前年ノ藁ニテ製スルコト

ホ、横繩ハ内外俵トモ五ケ所各二廻ニテ緊縛シ竪繩ハ二筋ヲ以テ四方掛トナシ、兩端及中通ノ横繩ニ戻掛ケ俵尻ニ於テハ捻違トナシ俵口ニ於テハ男結ト爲スコト

但締米ニ限リ内俵ノ横繩ヲ七ケ所以上極メテ堅固ニ緊約スルコト

ヘ、外俵ニ用ユル縱横締繩ハ其ノ廻リ曲尺約一寸トナスコト

ト、叺入ハ堅繩二廻リニテ一ケ所以上緊約シ兩耳ヲ繩ニテ括リ置クヘシ

籾トシテ藏入スルモノハ其包裝ヲ俵若クハ叺入トナスト雖玄米ニ於ケルカ如キ嚴重ナル取扱ヲナサス

岐　阜　縣

籾摺機ヲ以テ籾殼ヲ剝離シ唐箕選ヲ行ヒ玄米及籾殼ヲ選別シ金篩ヲ以テ米及籾ヲ區別シ尚一回之ヲ行ヒ後再ヒ唐箕選ニ依リ碎米、屑米等ヲ除去ス、斯クシテ調製ヲ終リ包裝ス

包裝、掟米及縣外移出米ハ本縣米穀檢査規則ノ通ニシテ即チ二重トシ内俵ハ三ケ所外俵ハ五ケ所緊縛シ不動繩ハ四方掛トス其他自家用等ハ不動繩ヲ用ヒサルモノ多シ

可兒、土岐、惠那、益田ノ諸郡ハ一重俵ノモノ其ノ多數ヲ占ム、尚自家用ハ俵裝ノ際保米袋(紙製)ニ入レタルモノヲ俵裝シ或ハ俵ノ内部ニ新聞紙ヲ用フルモノアリ其ノ數多カラス

籾トシテ貯藏スル場合ハ莚乾ノ際乾燥ヲ充分ニシ一重俵トナスノ外異リタル點ナシ

長野縣

玄米取引ノ慣行アル伊那地方ニ於テハ直ニ籾摺ヲナシ玄米トシ普通一俵ノ容量三斗五升乃至四斗五升トシ、一重俵裝トナシ縦縄ヲ用ヒス、横縄五ヶ所結ヒトシ倉庫等ニ貯藏ス

籾取引ノ慣行アル善光寺平地方ハ籾ノ儘包裝ヲ施サスシテ直ニ倉庫内ニ設ケタル戸棚形ノ穀箱ニ貯藏シ又包裝ヲ施スモノニアリテハ一俵ノ容量五斗乃至五斗五升トシ倉庫中ニ蓄積ス、善光寺平地方ニ於テハ刈取後乾燥ヲ行ハスシテ直ニ圃場ニテ扱落シヲナスモノアリ、籾トシテ藏入スル場合ハ玄米トシテ藏入スル場合ヨリ一俵ノ容量ノ多キト特ニ包裝ヲ施サスシテ穀箱ニ貯藏スルノ相違アリ

宮城縣

調製、小雪期頃ヨリ稻扱ニ從事ス、唐箕選ハ一回乃至二回行ヒ包裝スルカ或ハ井樓ニ入レ貯藏ス

包裝、五斗俵トシ單俵ニシテ三ヶ所縢リトナシ藏入ス、玄米トシテ藏入スル場合ハ籾摺ヲ行ヒ二回萬石篩ニ掛ケ唐箕ニテ屑米ヲ選別ス、其包裝ハ單俵ニシテ四斗ヲ以テ一俵トナシ三ヶ所縢リトナシテ藏入ス

福島縣

調製、籾ニテ貯藏スルモノハ種々ナル芒打棒ヲ以テ芒ヲ落シ粃等ヲ去リ又玄米白米等ニテ貯藏スルモノハ玄米又ハ白米トナス操作ヲナス外特殊ナル調製方法行ハレス

包裝、若松市、北會津郡等ノ會津方面ニテハ叺ヲ用ヒ其他ハ概ネ俵ナリトス、而シテ米穀同業組合設置ノ地方ニアリテハ何レモ輸出檢査又ハ産米檢査ヲ施行シツツアルヲ以テ俵ハ二重俵ナリトス、尙白米、玄米ニハ行ハレサルモ籾ヲ貯藏スル場合ニハ包裝ヲ用ヒスシテ井籠ト稱スル木框ヲ使用スル他方尠ナカラス

巖手縣

調製、稻扱ニ掛ケ扱キ落シ槤枷又ハ木槌ニテ打チ若クハ杵搗トナシ唐箕ヲ用ヒテ能ク芒、塵芥等ヲ除去シ精選ノ籾トナシテ藏入ス、稀レニハ藁付ノママ冬期迄收納小屋ニ集積シ置ク地方モアリ、玄米トナストキハ籾摺、唐箕選、萬石通ノ順序ニ依ル

包裝、籾ハ在來ノ一重俵(縣北、三斗五升三斗七升縣南、五斗稀レニ二斗五升)ト爲スモ俵米トシテ貯藏スルハ少ク多クハ井樓、重ネ櫃、木櫃等ニ粒籾トシテ貯藏ス、玄米ハ賣出ノモノハ稀レニ二重俵ヲ使用スルモ貯藏スルモノハ一重俵ニ保米袋(紙袋)ヲ使用シ又ハ使用セスシテ藏入ス

白米ハ玄米ト同斷若クハ叺入トナス

青森縣

調製、秋冬ノ頃稻扱ニテ扱キ落シ槌(木製)又曲棒ニテ輕打シテ穗ヨリ籾ト芒トヲ分離シ之ヲ篩別シ更ニ唐箕ニテ塵芥及粃ヲ去リ籾ノ儘藏入シ又ハ摺リテ玄米トシテ藏入ス而シテ籾トシテ藏入スルモノト玄米トシテ藏入スルモノト取扱上特ニ異ナル點ナク唯玄米ニテハ籾摺ノ一作業加ハルノミナリ

包裝、玄米ハ津輕地方ニテハ四斗俵ヲ普通トシ繩ハ二廻シ三ヶ所結ヒトスルモノ多シ、籾モ大體玄米ニ同シ

山形縣

調製、特異ノモノナシ、一般ニ舊曆五月迄ニ之ヲ終ルヲ例トス

包裝、玄米ハ一重又ハ二重俵裝トス、其ノ一俵容量ハ莊內方面ハ五斗ニシテ一二升ノ餘桝アリ村山方面ハ三斗八升或ハ四斗、置賜方面ハ四斗六升ナリ、籾トシテ藏入スルニハ俵裝シ又ハ其ノ儘籾堂又ハ桝ト稱スル板圍ノ內ニ貯藏スル者多シ而シテ籾ヲ玄米ニ換算スルニハ十八貫五百匁ヲ以テ玄米四斗ト見ルヲ普通トス

秋田縣

調製、稻扱ニテ脫穀シ更ニ打チテ芒ヲ除去シ唐箕ニテ選別ス、而シテ小作料其他ノ目的ニテ玄米トシタルモノハ四斗入トシ本縣米穀檢査規則ニ依ル俵裝ヲ行フモノトス、由利郡地方ニ於ケル調製ハ小束二把宛ヲ木臼ニ搦ミテ子實ノ大部分ヲ脫粒セシメ稈ニ附着セルモノハ後之ヲ更ニ稻扱ニテ處理ス、木臼ニ搦ミタル際脫落シタルモノハ子實ノ充實シタルモノニシテ稻扱ニテ處理シタルモノハ比較的子實ノ不充實ヲ免カレス、故ニ兩者ヲ各別ニ調製スルモノトス尙玄米或ハ白米トシテ貯藏スル場合ニアリテモ前記ノ方法ト異ナラス

福井縣

調製、籾摺ヲナシ唐箕、千石等ノ器具ニヨリ玄米ト爲ス、普通千石使用ノ外粉米拔ヲ行フモノアリ

包裝、俵裝ハ二重、內俵ハ橫繩三ヶ所、外俵ハ橫繩五ヶ所、容量四斗ニシテ前記ノ外穀物檢查規則ニ依リ完全ニ作リ上ケラレタル上貯藏又ハ取引ニ供セラルルナリ

石川縣

調製、籾摺セルモノハ之ヲ唐箕ニ掛ケ籾殼ヲ除キ千石簁ニテ二回乃至三回選別シテ籾ト玄米トニ區別ス此際得タル籾ハ更ニ籾摺ヲ爲ス之ヲ二番摺ト稱シ前者ヲ一番摺ト稱ス、二番摺ノ際ニ得タル籾ハ更ニ纏メテ三番摺ヲ行フ、斯クシテ得タル玄米ハ更ニ唐箕ニ掛ケ精選シ俵裝ス

包裝、四斗入俵トナシ橫繩二廻リ五ヶ所、縱繩ハ二筋二ヶ所掛トナシ結束ス、俵ハ一重四箇編ナリ籾藏入ノ習慣ニ三種アリ、一ハ莚立法ニシテ、莚ヲ縫合シテ圓形ノ「タテ」ヲ造リ籾ヲ入ルモノ、二ハ俵入ニシテ凡五斗乃至七斗入ノ一重又ハ二重俵ト爲スモノ三ハ包堂ト稱スル板圍中ニ籾ヲ容レ蓋ヲ爲スモノトス

富山縣

稻ノ刈取ヲナシ乾燥ヲ終リタル後徐々ニ其扱ノ附近ニテ扱落シタル上、方六七分目ノ篠篩ニテ二回通シテ籾ノ離脫セサル穗ヲ選リ出シ更ニ杵ニテ搗キ落シテ篠篩ニテ通サレタル籾ト共ニ唐箕ニカケ粃ヲ

抜キ精選シテ俵又ハ叺ニ入レ屋内ニ搬入シテ更ニ莚乾ヲ施シタル後藏入スルヲ普通トスレトモ地方ニヨリ或ハ部落ニヨリ其方法ヲ異ニセリ、即チ稲扱ニテ扱落シタル儘莚建ニ入レ置キ晴天ノ日ニ取出シ莚乾ヲ爲シタル上前記ノ籐篩、唐箕選ヲ行ヒ直ニ俵ニ入レ藏入ヲ終ルモノト又扱落シタル儘叺又ハ俵ニ入レ邸宅内ニ搬入精選ノ作業ヲ爲シ藏入スルアリ、或ハ架乾、地乾ヲ終リ直ニ屋内ニ搬入シテ稲扱精選ヲ爲ス向モアリテ區々一定セス

包裝、籾ニテ貯藏スルモノハ五斗乃至六斗入二重俵トシ横縄ヲ四ケ所乃至五ケ所ニ掛ケ緊括シ、其ノ年内ニ脱穀玄米ト爲スモノハ一重俵ニシ三ケ所ヲ緊括シ置クヲ普通トスルモ貯藏ニ注意セサル農家ハ莚建又ハ菰建トシ又ハ倉庫、納屋ノ一部ニ板圍ヲ爲シ貯藏スル者モ少ナカラス

島　根　縣

籾摺ヲナシ唐箕ニ掛ケ萬石篩ニテ二三回篩別シ碎米ヲ去リ四斗入俵トシテ貯藏ス、籾ニテ貯藏スルモノハ籾篩ニ掛ケタルモノヲ一回唐箕ニ掛ケ粃ヲ去リ五斗乃至六斗ヲ以テ一俵トナス、尤モ室ニ收ムルモノハ籾ノ儘貯藏スルモノトス

岡　山　縣

調製、扱キ落シタル籾ヲ籾通シニ掛ケ塵埃等ヲ去リ莚乾ノ前後各一回ツツ唐箕選ヲ行ヒ不熟米其他ノ夾雜物ヲ除去シ次ニ籾摺リヲ爲シ唐箕ニ掛ケ籾殼及不熟米等ヲ去リ萬石通シニ掛ケテ籾、碎米、不熟米、土砂等ヲ去ル、此籾摺後ノ萬石通シ及唐箕選ノ回數ハ以上ノ籾、砂其他ノ夾雜物ノ殘留セル歩合ニ依リ二回又ハ三回位トス、又淺口郡、都窪郡等ニテハ圓筒形又ハ方形ノ特殊ノ米撰器ヲ用ヒ不熟米、砂等ヲ除去スル地方アリ

包裝、縣下產米總產額ノ約七割強ハ本縣米穀檢查規則ニ依リ生產檢查ヲ受クルノ實況ナルニ依リ其俵裝ハ無論成規ノ俵裝方法ニ依ルモノナリ殘三割ハ生產者ノ自家食料用ニ供スルモノニシテ之カ俵裝ニ就テハ規則ナク生產者ノ隨意タルヘシト雖、略成規ノ俵裝ト同一ニシテ唯縱縄ヲ施ササルト古俵ヲ用ユル等ノ點ニ於テ異ルノミ、

俵裝ハ左ノ方法ニ依リ新調スヘシ

一、內俵菰ハ乾燥セル越年ノ藁ヲ用ヒ一枚分八尋半（一尋ハ曲尺五尺トス以下同シ）ノ編縄ヲ以テ中央六寸（尺度ハ曲尺トス以下同シ）左右六寸五分間、兩端五寸トシ四箇所約五十五編ミ重量ハ約五百五十匁トス

二、外俵菰ハ乾燥セル選藁ヲ用ヒ一枚分九尋ノ編縄ヲ以テ中央左右各七寸間、兩端五寸五分トシ四箇所約八十一編ミ重量ハ約四百五十匁トス

三、棧俵ハ乾燥セル越年ノ藁ヲ用ヒ緻密ニ配列シ徑約九寸ノ圓形ニ緣ヲ組ミ重量ハ一個約八十匁トス

四、縄ハ能ク打柔ケタル藁ニテ綯ヒ撚ヲ掛ケ摺リ、太サハ横縄縱縄共約一寸一分絓縄約九分トス

五、口、尻ハ棧俵ヲ內俵ノ兩端ニ當テ外俵菰端ヲ折掛ケ絓繩ヲ以テ外俵菰ヲ三遍宛九箇所掬ヒ順次絓リ三廻目ヨリ戻掛ケ四廻目ヨリ一目飛ニ絓ル

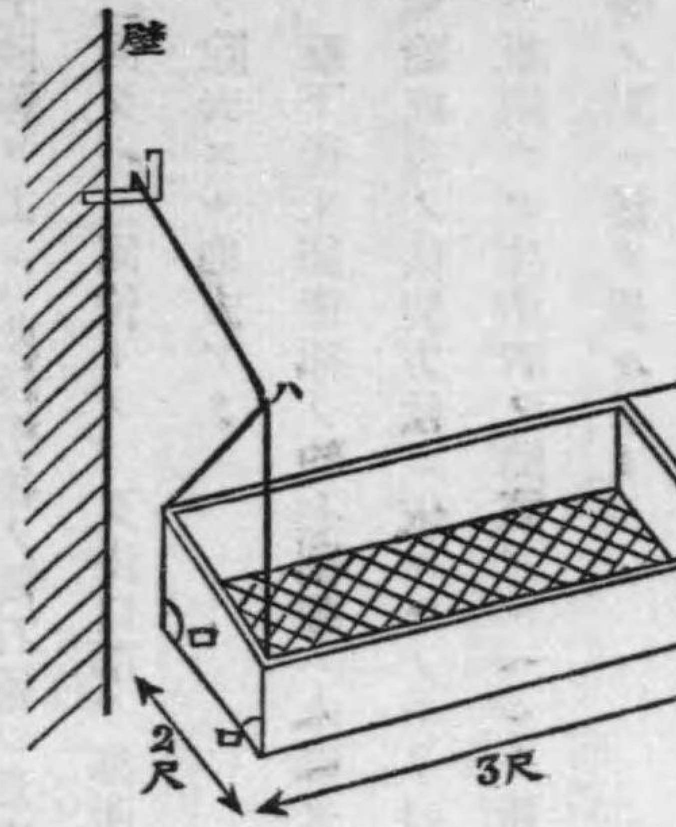
六、橫繩ハ五箇所各二廻掛トシ充分緊括中央橫繩ハ俵ノ中央稍細クナル如クシ繩端ヲ俵肌ニ捻挾セ縱繩ヲ掛ケタル後中央橫繩ノ部ニ於テ縱繩ノ上ヨリ更ニ橫繩ヲ二廻掛ケ繩端ヲ荷造結トス

七、縱繩ハ折曲タル𠮷筋ヲ以テ中央橫繩ヲ除キ他ノ橫繩四箇所ニ戻掛トシ四方ニ掛ケ俵口ノ方ニ於テ切端ヲ折曲ニ掛ケ男結トシ其餘末ニ卷封ヲ施ス部分ヲ存ス

廣島縣

調製、籾摺ニ掛ケタルモノハ唐箕ニテ籾殼ヲ選別シ二重萬石ニ掛ケテ玄米ト籾トヲ選別スルヲ普通トスレトモ亦「ユリ」ナルモノヲ使用スルモノ多シ

「ユリ」圖解



(イ)(イ) 握リ手 (ロ)(ロ) 小孔 (ハ) 兩端ヨリ糸ニテ吊シ糸ノ先端ヲ壁間ノ釘ナトニ引懸ケ(イ)(イ)ヲ兩手ニ握リ左右ニ動搖シテ籾ヲ上層ニ浮ヒ出サシム

(ロ) 此口ヨリ籾多少撥キ出サル

包裝、本縣ノ穀物檢査制度ハ任意檢査ナルヲ以テ本縣米穀檢査規則ニ示シタル改良俵裝ニ依レルモノハ本縣米產額ノ約一割三分ニ過キス、ヽ其他容量ハ三斗一升、三斗一升五合、三斗二升、三斗二升五合、ヽ三斗三升等區々トシテ一定セス其俵裝ハ薄キ二重俵ニシテ口ニハ棧俵ヲ附シ目貫七ツヲ右廻リニ一ツ隔テニ縢リ三ヶ所締メニ二重若クハ三重ニ胴繩ヲ施シ縱繩ヲ施サス

山口縣

摺立ノ際ハ唐箕及千石萬石篵ヲ用キ籾、碎米其他ヲ選別シ精選シタル玄米ハ俵ニ入レ貯藏ス、俵ハ豫メ雨天又ハ夜間ニ調製シ置キタルモノヲ使用ス籾トシテ貯藏スルモノニアリテハ多クハ籾ノ乾燥ヲ行ハス扱落シタル籾ヲ僅ニ唐箕ニテ風選シ俵ニ入レ貯藏スルヲ例トス

和歌山縣

籾ノ儘貯藏スルモノニアリテハ稻扱ニテ扱キ落シ唐箕ニ掛ケテ粃及塵芥等ヲ除去シ更ニ之ヲ莚一枚ニ付七八升ノ割合ニテ晴天一、二日間乾シ五斗又ハ八斗入ノ一重俵トシ五ヶ所ヲ橫繩ニテ緊縛スルモノニシテ入用ノ都度籾摺ヲナシ、永ク貯藏スルモノニアリテハ翌年四、五月ノ頃晴天ヲ選ミテ俵裝ヲ解キ終日乾燥シ又元ノ如ク俵裝貯藏ス

又玄米貯藏ノモノニアリテハ前記ノ如ク莚乾ヲ行ヒタル後直ニ籾摺臼ニ掛ケ唐箕ニテ籾、籾殼及塵芥ヲ選別シ二回ニ亘リ千石篵（萬石篵ト云フ地方モアリ）ヲ用ヒテ籾、土砂等ヲ充分ニ除キ更ニ唐箕ニ

テ碎米、屑米等ヲ除去シ之ヲ一重俵四斗入トシ俵ノ兩口ニハ棧俵ヲ當テ菊花狀ニ結束シ横ニ五ケ所繩ニテ堅ク緊縛ス、尙永ク貯藏スルモノニ對シテハ特ニ紙袋入トシテ後前記ノ如ク包裝スルモノアリ

玄米貯藏ト籾貯藏ト異ナルハ内容量ニ於テ異ナルノミニシテ即チ玄米ニアリテハ五斗又ハ八斗入トナスカ如シ

德　島　縣

（德島縣產米檢査所發布注意事項中ヨリ拔萃）

籾摺前籾ヲ颺扇ニ掛ケ粃、籾ヲ除去スルコト

籾摺ノ際ハ可成甕ノ完全ナルモノヲ用ヒ且其周圍ニハ必ス二重ニ莚ヲ敷キ砂ノ混入ヲ防クコト

籾摺セシ米ヲ再三千石簁萬石簁及手篩等ニ掛ケ且更ニ颺扇ヲ用ヒテ籾、粃、碎米、屑米、稗及土砂等ヲ除去スルコト

内俵及棧俵ハ燥乾セル古藁ヲ用ヒ外俵ハ乾燥セル「スグリ」藁ヲ用ヒテ造リ決シテ水濕ヲ加ヘサルコト

容量ハ四斗タルコト

繩ハ能ク打柔ケタル藁ヲ以テ製シ且充分ニ撚リ摺掛トナスコト

小口繩ハ外俵ノ封端ニ引掛ケ三封ツツ十箇所以上ヲ掬ヒ且内外俵封端ノ間ニ棧俵ヲ挾ミテ順次戻掛トシ三廻目ヨリ目ヲ飛ハシテ充分ニ緊括スルコト

横繩ハ五箇所各二廻結トシ中央ヲ稍細ク結束シ繩端ハ「トンボ」結トスルコト

縱ハ二筋ニテ四方掛トシ中央横繩ヲ除キテ他ノ横繩ニ卷付ケ俵口ニ於テ男結トシ證票紙ヲ卷付クヘキ部分ヲ存シテ他ノ縱ニ結止ムルコト

中央横繩ノ上ヲ縱繩ノ上ヨリ更ニ二廻結トシ繩端ヲ「トンボ」結トスルコト

檢査ノ證印アル俵ハ再ヒ檢査ヲ受クヘキ產米ノ俵裝ニ用フヘカラサルコト

俵ヲ直接土間ニ積ミ又ハ雨露ニ觸レシメ濕氣ヲ吸收スルコトナキ樣注意スルコト

香　川　縣

調製、籾摺其他米ノ取扱ニ莚ヲ敷キ混砂ヲ防クコトトシ籾摺ハ唐臼ニテ籾殼ヲ剝キ調米ニハ唐箕ニテ風選ヲ行ヒ籾殼等ノ輕キモノヲ陶汰シ萬石簁ヲ以テ籾、屑米ヲ除去シ更ニ十河式、藤澤式、松田式、佐藤式等ノ近來發明ニ係ル實用新案特許ノ選米器ヲ使用シ混砂屑米等ヲ除去ス

包裝、四ケ所編二重菰俵ニシテ口尻ハ内外俵ノ間ニ棧俵ヲ挾ミ周リ一寸以上一寸二分以内トシ横繩ハ五ケ所各二廻結トシ縱繩ハ二筋四方掛トシ中央横繩ヲ除キテ他ノ横繩ニ卷キ付ケ繩端ヲ俵口ニ於テ男結トシ卷封ヲ施スヘキ部分ヲ存シ中央横繩ノ上ハ更ニ一筋二廻結トス

愛　媛　縣

調製、乾燥シタル後唐箕選ヲ行ヒ一時之ヲ貯藏シタル後籾摺臼（竹歯及木歯）ニテ籾摺ヲナシ唐箕ニテ

籾殼ヲ除去シ萬石ニテ玄米ト籾トヲ選別シ更ニ玄米ハ唐箕ニテ屑米、碎米等ヲ除去ス、尙特種ノ選米器ヲ用ヒテ調製スル向漸次行ハレツヽアリ

包裝、縣令ノ規定ニヨリ容量四斗入トナシ乾燥セル藁ニテ製シタル二重俵ニ入レ口尻ニ棧俵ヲ當テカヒ口尻ヲ縢リ横縄五ヶ所結束ス

籾トシテ藏入スルモノハ凡テ乾燥不充分ナリ、即チ秋摺ヲ陽乾三日トセハ今摺トナスモノハ二日位ナルヲ常トス、又俵裝ハ容量ヲ五斗トシ一重或ハ二重俵トナシ三ヶ所又ハ五ヶ所ヲ結束スル等不規律ニシテ緊括又充分ナラス

高知縣

石入俵トテ容量八斗或ハ一石五六斗ノ藁俵又ハ穀桝トテ倉庫又ハ收納舍ノ一部ヲ板ニテ仕切リ之ニ入レテ貯藏シ、玄米トナシタルモノハ二重四斗入俵トナシ三ヶ所結束シテ積ミ重ネ貯藏ス

福岡縣

調被、一般ニ行ハルルハ臼摺ノ上唐箕ニテ稃ト米トヲ分離シ米ハ廡又ハ針金製ノ篩ニテ碎米、死米ヲ除去スルヲ例トス

包裝、生産檢査施行郡ハ縣令規程ノ俵裝ヲナシツヽアルモ未タ完全ナラサル向アリ、其ノ他ハ全部叺入ノ習慣ナリ

大分縣

籾摺ヲナシ唐箕及萬石簁ニヨリ調製ヲナシ縣米穀檢査規則ニヨリ内外俵二重俵ニ入レ五ヶ所（横）緊括シ縦縄ヲ施ス、

佐賀縣

小農ニアリテハ年内ニ於テ籾摺ヲナシ年末ノ金融其ノ他小作米ノ納付ヲナス、中農以上ニアリテモ年内ニ於テ一部玄米トナシ他ハ籾ノママ貯藏シ翌年八九月頃迄ノ間ニ適宜籾摺ヲナス、礱ハ木製及土製ノ二種ニシテ唐箕ニ掛ケ籾殼ヲ除キ萬石ニテ米ト籾トヲ選別シ更ニ篩ニ依リ屑米、碎米ヲ除去ス

販賣用玄米ハ通常叺ニ入レ小作米ハ俵ヲ用フルノ習慣アリ

宮崎縣

稲扱ニテ扱キ落シ唐箕撰ヲ爲シ夾雜物ヲ除去シ莚ニ可成薄ク攤ケテ陽乾シ三日間位ヲ經テ後叺入（四斗入）トナシテ屋内ニ運ヒ居宅ノ一部又ハ階上等便宜ノ場所ニ貯ヘ或ハ籾櫃ト稱シテ籾貯藏ノ爲メ特別ノ裝置ヲ施セル大ナル木箱中ニ叺入トナサスシテ貯フルモノアリ

鹿兒島縣

調製、秋摺ニ於テハ二三日間莚乾シタル籾ヲ土臼又ハ木臼ニテ摺リ後チ千石簁、萬石簁又ハ米簁、米搖（コメユリ）箱等ヲ使用シテ玄米、籾、碎米等ヲ選別ス、今摺ハ一二日間莚乾シタル籾ヲ四五日間以上ヲ經テ冷却

セシ後ニ前同樣ノ調製法ヲ行フ

包裝、從來籾貯藏ノ場合ハ主ニ横俵或ハ叺ニ三斗乃至三斗五升ノ籾ヲ入レ縱ニ三ケ所ヲ緊括シ貯藏スルヲ普通トス、又一部地方ニ於テハ板箱(六尺立方位ノ箱)ニ入レ貯藏スルモノアリ、而シテ米穀檢査實施以來ハ秋摺米奬勵ノ結果玄米ハ規定ノ一重俵裝又ハ二重俵裝(四斗入)トナシ稀レニ叺ヲ使用スルモノアリ

北　海　道

調製、乾燥ヲ終リタルモノハ稻扱ニカケテ扱キ落シ篩及唐箕ニテ精選ス、籾ニテ貯藏スルモノハ此儘トナスモ玄米ニナスモノハ更ニ籾摺器ニカケテ籾摺ヲ行ヒ唐箕ニテ籾殼ヲ去リ千石簁ニカケテ籾ト米トヲ區別シ再ヒ籾摺ヲ行フコト前ノ如シ、斯クテ調製ヲ終ヘタル米ハ四斗入トナシ俵裝ス、上川地方ニアリテハ馬力ニ依リ脫粒又ハ籾摺ヲ行フモノ少カラサルモ一般人力ニ依ルヲ普通トス

包裝、四斗入トナシタル俵ハ小口ニ棧俵ヲ覆ヒ繩ニテ千鳥ニ括リ胴三ケ所ハ繩ニテ二廻ニ縛束スルヲ普通トス、然レトモ他ニ販賣スルモノハ更ニ之ヲ莚ニテ包ミ小口ヲ繩ニテ括リ胴五ケ所縱十文字ニ二廻リ繩ヲ紮ケ俵裝スルヲ普通トスルモ俵ノ儘胴五ケ所又ハ三ケ所ヲ縛リ更ニ十文字ニ縛シテ搬出スルモノアリ

俵ハ普通古藁ヲ用ヒ（上川地方ニアリテハ往々新藁ヲ使用スルモノアルヲ以テ之カ矯正ニ努メツツアル）小繩ヲ以テ數ケ所ヲ編ミタルモノヲ用ユ

第三章　貯穀倉庫ノ構造

倉庫ハ物品ノ保管ヲ目的トスルカ故ニ其ノ目的ヲ達スルタメニ必要ナル構造ヲ以テ建築セサルヘカラス、從ッテ完全ニ其保管ノ目的ヲ達センカタメニハ物品ニヨリテ構造ヲ異ニスヘキハ言ヲ俟タス、即チ貯穀倉庫ノ構造ハ貯穀ニ必要ナル條件ヲ具備セサル可カラス、更ニ米穀ニ就キ之レヲ云ヘハ籾貯藏、玄米貯藏、白米貯藏ニ依リテ倉庫ノ種類及構造ヲ異ニスヘキ譯ナリ、尙所在地及建築材料ニヨリテモ異ナルハ當然ナリ、現在倉庫ト稱セラル、モノヲ主タル建築材料ニヨリテ分類スレハ大凡板藏、土藏（間切或ハ信濃藏ハ土藏ノ一種ト見做ス）煉瓦倉庫、石造倉庫、コンクリート倉庫ノ五種トス

板藏ハ特ニ籾貯藏ニ適スルヲ以テ籾貯藏ノ慣行アル地方ニ行ハル、但山梨縣ニ於テハ主トシテ普通ノ土藏ニ貯藏ス、多クハ小農ノ所有ニ屬シ大抵建坪六坪位ノモノナリ、然レトモ時トシテ玄米貯藏ヲナスモノアリテ板倉ト雖大ナルモノアリ、熊本縣八代米券倉庫、秋田市外辻家倉庫ノ如キハ其ノ例ナリ、又舊藩時代ヨリ今ニ殘レル備荒儲蓄ノ籾倉ハ現在各地方ニ一般ニ行ハル、板藏ト構造並ニ內部ノ裝置ニ於テモ差異ヲ認メス

土藏ハ農家、米商人、倉庫會社等米ニ關係アルアラユル階級ヲ通シテ全國ニ亘リ最モ廣ク行ハルル倉庫ニシテ同時ニ特ニ玄米貯藏ニ適當ナルモノト認メラル又用ヒラルル範圍ノ廣キタメ倉庫ノ構造ニ就キテモ一律ニ云フ能ハス、戶前ノ如キモ小農ニアリテハ普通六坪一戶前ヨリ酒田三居倉庫ノ二百二十坪一戶前ニ至ル迄、地方ノ慣行乃至所有者ニ依リテ異ナルナリ、然レトモ概シテ農家ノ小ナルモノハ二階造ニテ階上ニ家具ヲ置クヲ普通トス、其他ハ大體平家ナリ

土藏ノ壁ノ厚サハ一定セルモノニ非ラスシテ、最モ薄キハ三寸位ヨリ地主ノ完全ナル土藏ノ一尺迄種々アリテ、スヘテ柱ヲ塗リ隱スヲ通則トスルモ普通家屋ノ如ク柱ノ現ハルル程度ニ壁ノ厚サヲ止メタルモノモアリ、之レヲ茨城縣ニ於テハ間切或ハ間壁ト稱シ新潟縣ニ於テハ信濃倉ト云フ、尤モ之等ノ倉庫ハ壁ノ厚サ薄キノミナラス必ス床ハ板張ニシテ床下ハ四圍ニ壁ナク全ク空氣ノ流通自由ナリ、故ニ大體ノ構造ヨリ云ヘハ板藏ニ薄ク土ヲ塗リタルモノノ如シ

石造倉庫、煉瓦倉庫、コンクリート倉庫ハ多ク商人、倉庫會社ノ所有ニ屬シ、煉瓦倉庫ノ如キハ稀レニ大地主ノ所有スルモノアリ、多クハ耐久堅牢ノ目的ヲ以テ選擇セラレシモノノ如ク其建築ハ比較的近年ニ始マリタルタメ米穀貯藏上ノ成績ニ就キテハ未タ明カナラス、只倉庫會社ノ場合ニ於テハ預主タル商人側ノ言ニ依レハ煉瓦倉庫ハ建築ノ初年ニハ濕氣ヲ發散シ壁ニ接スル米俵ニ濕氣ヲ與ヘテ品ヲ傷メ三、四年後ニ於テハ却ッテ米ノ水分ヲ吸收スル傾アリ且ツ温熱ヲ傳フルコト甚シク高温ノ場合ニハ乾燥ト高温ノタメニ米質ヲ損スル傾キアリト云フ、尙コンクリート倉庫及石造倉庫モ同樣ノ傾向アルカ如シト云フ尤モ之等ハ主トシテ大都市ニ於ケル場合ニシテ農村ニ於テモ同樣ナリト云フニアラサル

ナリ

第一節　現在ノ貯穀倉庫

一、板　藏

最モ普通ニ籾貯藏トシテ用ヒラルル板藏ノ構造大様左ノ如シ

建築材料ハ主トシテ木材、瓦、土臺石等ニシテ大サハ二間ニ三間ヲ一戸前トスルヲ普通トス、總テ三尺毎ニ土臺石ヲ据エ之ニ柱ヲ立テ横ニ貫ヲ通シ内部ヨリ四圍ニ板ヲ張リ床ハ土臺石ヨリ一、二尺上ケテ張リ、屋根ハ一重或ハ二重ノ瓦葺ト爲シ木羽葺ノ場合ニハ石ヲ置ク、窓ハ大抵設ケサルモ一ケ所位設クルモノナキニアラス、出入口ニハ木製ノ階段ヲ置キ上ニ小サキ庇ヲ設ケ戸ハ板戸一枚トス而シテ籾ヲ俵積ト爲ス場合ニハ何等ノ裝置ヲ要セサレトモ散積ト爲ス場合ニハ普通内部ヲ小室ニ仕切ルナリ即チ奥行ヲ三尺トシ間口三尺毎ニ柱ヲ立テ柱ニ溝ヲ作リ上部ヨリ板ヲ順次ニ嵌メ落シ籾ヲ支フルコト猶堰板ノ如クス、此ノ裝置ハ地方ニヨリテ名稱ヲ異ニシ廣島縣ノ仕付、大阪府ノ籾入、奈良縣ノ嵌メ、島根縣ノ室、佐賀縣ノ籾トヤ、長崎縣ノセコ、岐阜縣ノ籾桝、三重縣ノオトシ、福島縣及秋田縣ノ井籠(樓)、千葉縣ノ穀(ハメ)、埼玉縣ノ穀入、高知縣ノ穀(石)桝等ハ其ノ内容皆同一ナルカ如シ

二、土　藏

イ、屋根ノ構造、屋根ノ構造ハ一重ト二重トアリテ一重ノ構造トハ普通ノ葺方即チ板張ノ上ニ杉皮ヲ置キ其ノ上ニ土ヲ三、四寸位ノ厚ニ置キ其ノ上ニ瓦ヲ並ヘタルモノニシテ之レニ對シテ二重構造トハ普通ノ如ク置土シタル上ニ一尺乃至三尺位ノ間隔ヲ置キ更ニ屋根ヲ設ケタルモノナリ、其ノ中間ハ全ク開放セルモノ多ク、上屋根ハ下屋根ト併行セルモノト下屋根ノ角度ヨリ狹キモノトアリ、二重屋根ハ太陽ノ熱ヲ遮ルコト普通屋根ヨリ有力ナル爲貯藏上有利ナリト一般ニ認メラルロ、屋根、屋根ハ瓦葺、茅葺、竹瓦葺等アレトモ瓦葺最モ普通ナリ、瓦葺ノ場合ニ於テ置土ノ厚サカ貯藏ト尠ナカラサル關係ヲ有シ可成厚キヲ良シトス

茅葺ハ往時盛ニ行ハレタル由ナレトモ現今ハ材料ヲ得ルノ困難ナルト火災ノ場合危險ナル爲極メテ稀ナリ、但シ貯藏上ニハ有利ナリト云フ

竹瓦葺トハ阿蘇地方其他ニ行ハルルモノニシテ竹ヲ割リテ上下ニ組合セ土藏ノ二重屋根ニ葺キタルモノナリト云フ

ハ、床、床ハ土間、コンクリート、セメント、三和土、アスファルト、石、板張等アリ地主ノ倉庫ノ如ク多少體裁ヲ重ンスルモノハ大低板張ニシテ必シモ濕氣ヲ防ク爲ノミニアラサルカ如シ、此場合床下ハ土間或ハ三和土ト爲ス、小農ノ土藏ノ床ハ板張及三和土區々ナレトモ板張ノ方多キカ如シ

近來新ニ建築サルル農家以外ノ倉庫ハ「コンクリート」ニ「セメント」ヲ塗リタルモノ多シ、恐ラク

出入ニ便ニシテ防鼠、防濕ノ効アリ且耐久性ニ富ミ板張ヨリ經濟的ナルカ爲ナルヘシ、此場合ハ地下二、三尺位掘リテ全部割栗石詰トシ其上ニ厚サ四寸以上ニ「コンコリート」ヲ敷キ更ニ「セメント」ヲ塗ルヲ良シトス、尚「コンクリート」ノ上ニ防濕ノ効アリト稱シテ「アスフアルト」ヲ塗ルモノアレトモ其例極メテ稀ニシテ其ノ効果ニ就キテハ今尚疑問ナリ

土間ハ屢々古キ土藏ニ見ル所ニシテ特ニ苦鹽汁ヲ以テ固メタルモノハ庫内ノ濕度ヲ調節シテ貯藏ニ好影響ヲ與フト云フ、酒田山居倉庫ノ床ハ其例ナリ、又東京深川ノ土藏ハ昔時皆土間ナリシト云フ石ハ切石ト栗石トアリテ切石ハ其ノ種類ニ依リテ適度ノ濕氣ヲ與ヘ栗石ハ防濕ノ効アリト稱ス、何レモ其ノ例少クナシ、深川山崎氏倉庫ノ床ハ此點ニ留意シ特ニ上州藪塚ノ石ヲ選ヒタリト云フ

ニ、壁、壁ハ普通竹格子ヲ骨子トシ之ニ壁土ヲ塗付ケテ漸次厚クセルモノナルヲ以テ建設者ニ依リ厚サヲ異ニスルハ當然ニシテ平均五、六寸位ナルモ極メテ粗造ナルモノハ三寸ヨリ大地主ノ完備セル土藏ニ至リテハ一尺以上ニ及フモノアリト云フ、而シテ壁ノ厚サハ貯藏ト多大ノ關係ヲ有シ厚キ程良好ナルハ勿論ナリ

壁ノ外圍ハ荒壁或ハ漆喰塗ヲ普通トスレトモ時トシテ雨雪ヲ避クル爲下見板ヲ壁ニ接シ或ハ離シテ設クルモノアリ、殊ニ酒田三居倉庫ノ如ク全部板ヲ以テ圍ヒ裾ハ壁ト二尺位離シタルハ冬期雪ヲ避クルト同時ニ夏期日光ヲ遮斷シテ貯藏上良好ナル結果ヲ齎ス譯ナリ

壁ノ内側ハ叮嚀ナルモノハ全部板張ト爲スモノアレトモ多クハ荒壁ノ儘トシ只タ俵ノ接觸ヲ避クル爲俗ニ「ニズリ」ト稱スル細キ丸太ヲ一、二尺隔テニ壁ニ沿フテ設ク、之等ハ貯藏ト何等關係ナキモ壁ト板張トノ間ニ乾燥セル砂ヲ塡充スレハ單ニ防鼠ノ効アルノミナラス防温ノ働モナスカ如シ、深川山崎氏倉庫ニハ此ノ設備ヲ有ス

ホ、出入口、出入口ハ通常板戸及土戸ヨリ成リ板戸ノ上半部ハ格子或ハ金網張格子ト爲スモノ多ク土戸ハ觀音開ト引戸ノ二樣アリ、尚出入口ヲ開放シ置ク場合ニハ別ニ鼠返ヲ置クヲ例トス

ヘ、窓、窓ハ元來明取ノ目的ヲ以テ設ケラルルモ倉庫ノ場合ニハ之ニ通氣ノ作用ヲ附帶セシムルモノトス、若シ庫内醱熱スルトキハ窓及戸前ヲ開放シテ庫内ノ空氣ヲ交替セシムルカ如キ或ハ然ラサルモ日常開放シ置クカ如キ何レモ通氣作用ヲ行ハシムルニ外ナラサルヘシ、然ルニ多クノ場合窓ノ位置ハ比較的低クシテ明取ノ効ハ充分ナルモ通氣作用ハ未タ完全ト云フヘカラス、蓋シ醱熱セル空氣ハ輕クシテ上層ニ昇ルカ故ニ之レヲ發散セシメント欲セハ成ルヘク上部ニ其ノ發散口ヲ設ケサル可カラス、此ノ意味ニ於テ通風裝置ハ棟或ハ其ノ附近ニ設ケラルルナリ、然ルニ關西地方ニ於テ往々見ル丸窓（或ハ鐵砲窓トモ云フ）ハ其位置高クシテ明取ヨリハ寧ロ通氣ヲ主トシテ設ケラレタルカ如シ、故ニ明取窓以外ニ通氣ヲ主タル目的トスル丸窓ノ如キモノヲ設クレハ貯藏上良果ヲ得ラルヘシ、窓ノ大サハ普通二尺ニ三尺位ニシテ鐵格子金網張ヲ普通トス、尚明取ノミヲ

目的トシテ硝子張トセルモノアリシモ貯藏ノ結果ハ不良ナルカ如シ

ト、換氣裝置、換氣裝置トシテ特ニ設ケラレタルモノハ殆ント從來ノ土藏ニ見サルモ前述ノ如ク出入口及窓ヲ以テ不充分ナカラ換氣ヲ行ヘルナリ、其ノ他壁ノ裾ニ設ケラレタル小窓ハ床張ノ場合ハ床下ノ通氣ヲ良クシ土間ノ場合ニハ庫內ノ空氣ノ新陳代謝ニ効アルヘシ、然レトモ近時新タニ建設セラレタル倉庫ニハ特ニ此ノ裝置ヲ有スルモノナキニアラス、此ノ點ニ關シテハ酒田山居倉庫ノ如キハ初ヨリ比較的完全ニ近ク天井ニ換氣裝置ヲ有シ近時更ニ壁ノ上部及下部ニ小窓ヲ設ケタリ、深川山崎氏倉庫ノ裝置モ範トスルニ足ルヘシ

チ、地形、地形ハ地下水ノ關係ニ依リ多少地盛リヲ爲シ土臺下深サ三尺幅二、三尺ヲ掘リテ之ニ砂利ヲ水締或ハ「コンクリート」ト爲シ其ノ上ニ長方形ノ角石材ヲ二重乃至三重ニ置クヲ通例トス尙地盤軟キカ或ハ一層堅牢トスルニハ適當ノ松ノ丸杭ヲ打込ムコトアリ

リ、周圍、周圍ハ商家ニアリテハ大抵軒ヲ接シ農家ニアリテハ樹木ナト適宜ニ配置シアリテ貯藏上ハ後者ヲ良シトス

ヌ、位置及方位、位置及方位等ハ大抵運搬ノ便或ハ敷地ノ關係ニ支配セラレ貯藏トノ關係ニハ及ハサルカ如シ

ル、建坪單價、材料ノ選擇、建築仕樣等ニヨリテ異ルモ米劵倉庫ノ如キハ約坪五十圓位ニテ相當ノモノヲ得ラル、地主ノ倉庫ニ至ツテハ手ノ入レ次第ニテ坪八十圓位ノモノアリ

ヲ、修繕、最モ早ク修繕ヲ要スル所ハ床板及屋根ナリ、床板ハ米俵ノ重量ト放擲ニヨリ破レ易キタメ床下ニ割栗石ヲ充滿セシムルモノアリ、瓦ハ殊ニ寒地ニ於テ破損シ易シ

ワ、保存年限、建築ノ模樣及修繕ニヨリテ異ナレトモ大凡百年位ハ使用サルヘシ

三、石造倉庫、煉瓦倉庫、「コンクリート」倉庫

之等ハ大抵耐久堅牢ヲ目的トシテ建築セラレタルカ如シ、煉瓦倉庫ニ於テハ壁ノ厚サ一枚半位ヲ普通トス、石造倉庫ハ角材一枚積ニシテ關東地方ニ於テハ大抵野州石ヲ用ユ、野州石ハ火ニ對シテ丈夫ナリト云フ

戸ハ鐵戸ヲ普通トス

第一項　普通貯穀倉庫ノ實例

廣島縣

農家ノ貯穀倉庫ハ自ラ三別スルコトヲ得ヘシ

（イ）大地主ニ屬スヘキ地主ノ貯穀倉庫

（ロ）小地主若クハ自作農家ノ貯穀倉庫

（ハ）小作農家ノ貯穀場

（イ）大地主ニ屬スヘキ地主ノ貯穀倉庫トハ地主ノ祖先カ材料其他夫賃カ安價ナル時代ニ建築シタルモ

ノニシテ古キモノニ至リテハ元龜、天正年代ニ建築シタルモノアリト云ハル、然ラサルモ皆百年以上ヲ經過シタルモノ多ク三者中最モ優良ト認メラルヘキモノナリ

位置、方法等區々ニシテ定マラサレトモ其内稍見ルヘキモノハ北面ニシテ冷涼ナレトモ甚シキニ至リテハ夏期西南側ヨリ激シキ陽光ヲ受クルモノアリ此(イ)ニ屬スヘキ倉庫周圍狀況ハ概ネ住宅ニ接續シテ設ケラル、モノ多ク、地盤ハ地面ヨリ二尺位高カラシメ土間ヲ叩キテ固メタルモノニシテ地盤地形ニ對シ特別ノ工事ヲ施セルモノナシ床ハ數代以前ノ建築ニナルモノハ土間多ク近時ニ至リテ建築セラレタルモノハ床ヲ板張リトセルモノ往々見受ケラル、モ甚タ尠シ、壁ハ土壁ニシテ厚サ八寸―一尺二三寸ニ及フモノアリ、外圍ハ最下部ヲ石ヲ以テ一尺五寸位ノ高サニ疊上ケ其上ニ土壁ヲ築クモノニシテ直接空氣、風雨ニ曝サル、箇所ハ高サ四五尺以上ノ腰板ヲ以テ圍メリ

屋根古代ノ建築ノモノハ屋上ヲ板張トシ土ヲ一尺厚サニ積ミ杮葺トナシ次ニ約五寸ノ厚サニ土ヲ乘セ其上ヲ瓦葺トセルモノナリ、近來ノ建築ノモノハ土ノ厚少シク薄シ

二階建ニアリテハ階上ハ概ネ荷物置場トセルモノ多シ

窓、窓ノ方向ハ倉庫ノ方向ノ定マラサルト同シク其ノ設ケ場所區々タリ、窓ノ數ハ倉庫面積ニヨリテ異リ五三ノ倉ニシテ二階アルモノハ階上ニ二個、階下ニ一個、四間ニ九間ノ倉ニシテ階上二個階下二個位ヲ設ケタリ窓ノ大サハ高四尺、巾三尺位ノモノ多シ

換氣裝置、窓ト入口トヨリ行ハル、モノニシテ特別ナル裝置ナシ

室内裝置、床、土間ノモノハ特別ナル裝置ナク貯穀ノ場各ニハ土間ニ丸太ナトヲ横ヘ之レニ俵ヲ積重ヌルモノナリ、尙倉庫内ノ側壁ニハ俗ニ仕付ナルモノヲ設ケタルアリ

出入口、住宅ノ玄關俗ニ庭ト稱スヘキ内ニ設ケラレ厚八寸位ノ壁戸ヲ用ヒタリ、優良ナルモノハ三重戸トナシ内部ハ木造格子戸、中ハ厚五寸位ノ壁引戸、外部ハ厚八寸ノ兩戸前ヲ以テ開閉セラル、簡單ナルモノハ二重戸ニシテ内部ハ木造格子戸、外部ハ厚キ板戸ヲ以テ開閉セラル、第一圖平面圖ノモノハ今ヨリ約百五十年位前ノ建築ニシテ尙百年以上ハ保存ノ見込、修繕費ハ一ヶ年壹圓ノ見込

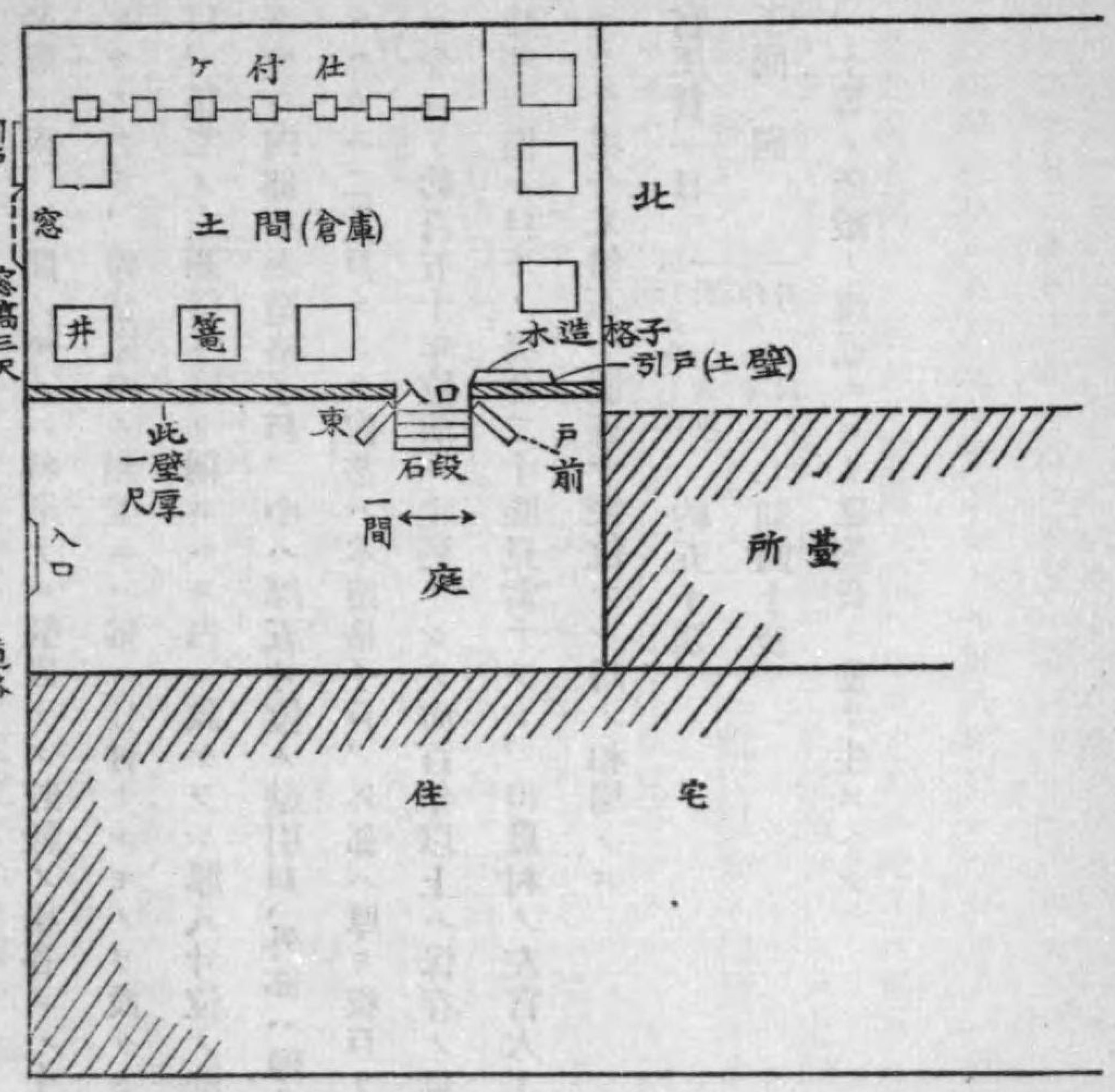
建築建坪單價ハ目下ノ場合二十圓見當ナラン、但農村ノ左官大工ノ工賃ハ米價ニヨリ左右セラルルモノニシテ現今米價石十圓五十錢位ナル時ノ相場トス

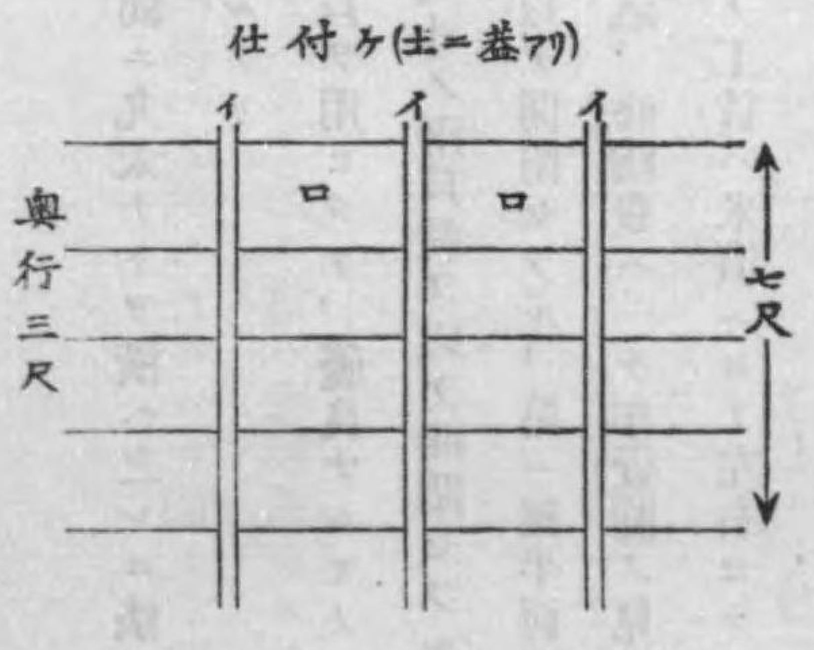
左官工賃一日　三升八合工賃 一升食賃　約五十錢

大工同　同　二升八合同 一升同　同四十錢

材木、土等ノ運搬ノ遠近ニヨリ建築費ニ差ヲ生スヘシ

第一圖





奥行三尺高七尺高七尺巾三間ニテ籾七十石ヲ貯ヘラル

(イ)ト(イ)トノ間隔三尺

(ロ)ハ板ニシテ(イ)ノ溝ニテ上下ニ移動ス

(イ)直立セル材ニシテ溝ヲツケタリ

(ロ)一般ニ云フ能ハサルモ住宅ニ獨立シテ建設セラレ比較的近年(三四十年前)ニ建テラレタルモノ多ク坪數ハ二三、或ハ三四等種々アリ

周圍ノ狀況モ區々ニシテ定マラス、地盤ハ周圍ヨリ少シク高メラレタルモノ多ク、壁ハ厚八寸位、外圍ハ二尺位ノ石疊トナシ上ニ地幅ヲノセタルノミニシテ之レニ腰板四五尺乃至六七尺ヲツケタリ、屋根ハ概ネ瓦葺ナリ、床ハ近年ノ建築ノモノハ板張リニシテ板張リト床下地上マテ八寸ヨリ一尺五寸位迄アリ階上ニハ概ネ雜物ヲ入ル、窓ハ二階アルモノハ階上ニ一個、階下ニハ窓アルモノ又ナキモノアリ、階下ニ無キモノハ入口ニヨリテ光線ヲトル

室內裝置、室內側壁ニ仕付ヲ裝置セルモノト、之ヲ有セサルモノトアリ

出入口、概ネ二重戸ニシテ內側ハ木造格子戸、外ハ厚キ木造引戸、建築費一建坪約十圓ノ見込

(ハ)小作農家ノ貯穀場

特別ニ倉庫トシテ建設セラレタルモノニアラスシテ單ニ住宅內ノ土間(庭)ニ大ナル鼠不入(奥行一間 幅一間半)位ノモノアリ)ヲ作リ、之レニ玄米ナレハ簡單ナル俵裝トナシ、籾ナレハ井籠ノ如キモノニ貯藏スルニ過キサルナリ

今貯藏倉庫トシテ三者ノ優劣ヲ判スルニ

(イ)ハ建築年代古キモノ多ケレハ其周圍ハ比較的樹木等繁茂スルカ爲メ直接日光ヲ受ケス庫內冷涼

ヲ感スルカ故貯藏久シキニ耐ユルモノアリト云フ

(ロ)ハ概シテ年代新ラシク獨立シテ建設セラレタルモノ多ク周圍ハ陽光ノ受クルカ儘ニ任セルモノ多ク、庫內鬱蒸ヲ來シ爲メニ三者中最モ貯藏ニ耐ヘ難シ

(ハ)小作者ノ分ハ住宅內ニ小サク區劃シテ別ニ建設セラレタルモノ故日光ヲ受ケサルハ勿論簡單ニ庫內ヲ清潔ニ保チ得テ比較的貯穀上安全ナルモノナリ

尙比較的優良ナル倉庫ノ一例ヲ擧クレハ左ノ如シ

(1) 所在地、豐田郡沼田東村字七賓 高橋礒吉

(2) 方位、東南向キ

(3) 周圍ノ狀況、周圍ハ空地

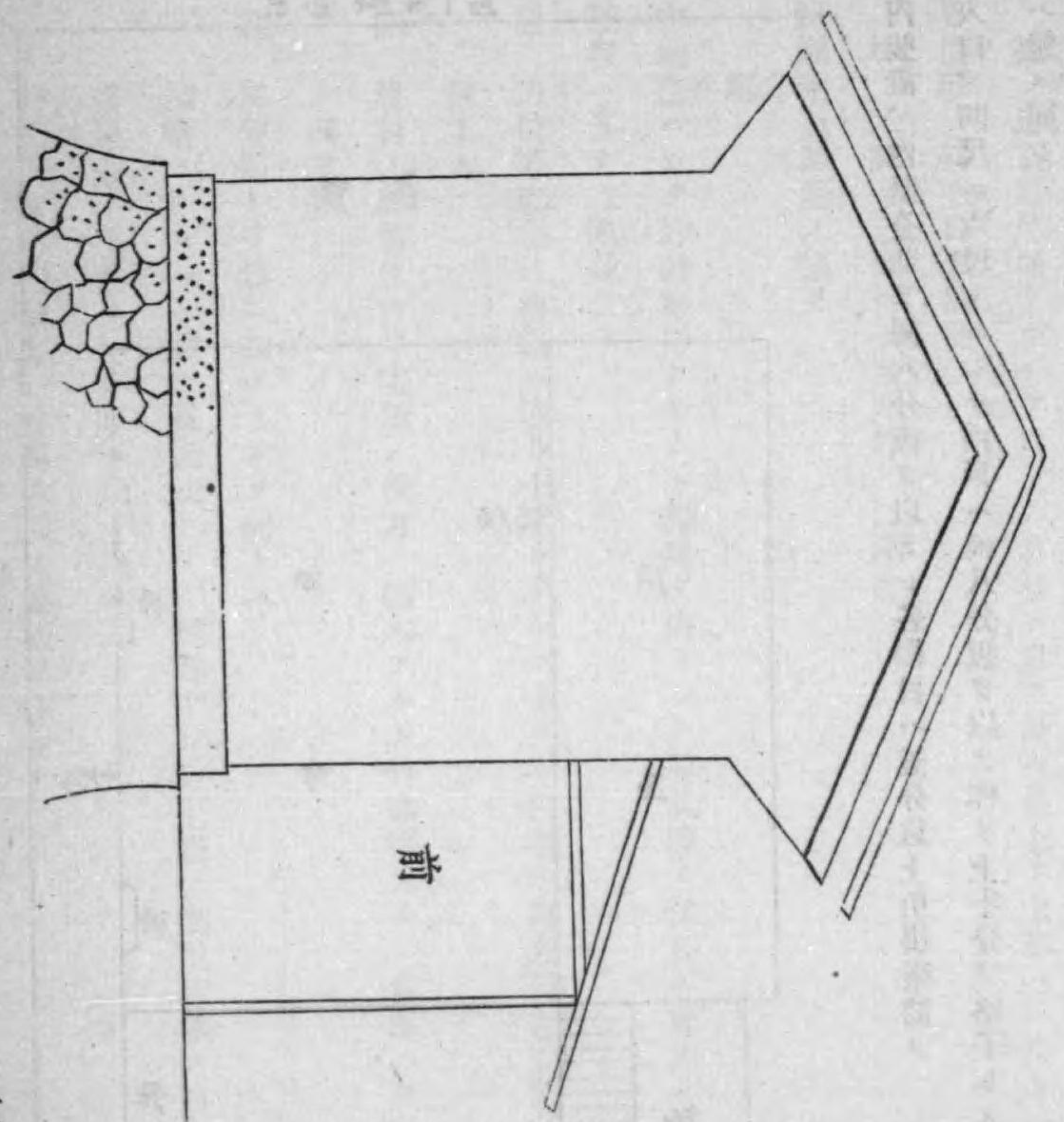
(4) 地形及地盤、平地ニシテ地盤ハ粘質

(5) 床、壁、及外圍、床ハ厚サ一寸二分ノ栂板ヲ用フ壁ハ厚サ八寸ヲ粘土ニテ塗リ其外圍ハ白壁漆喰トス

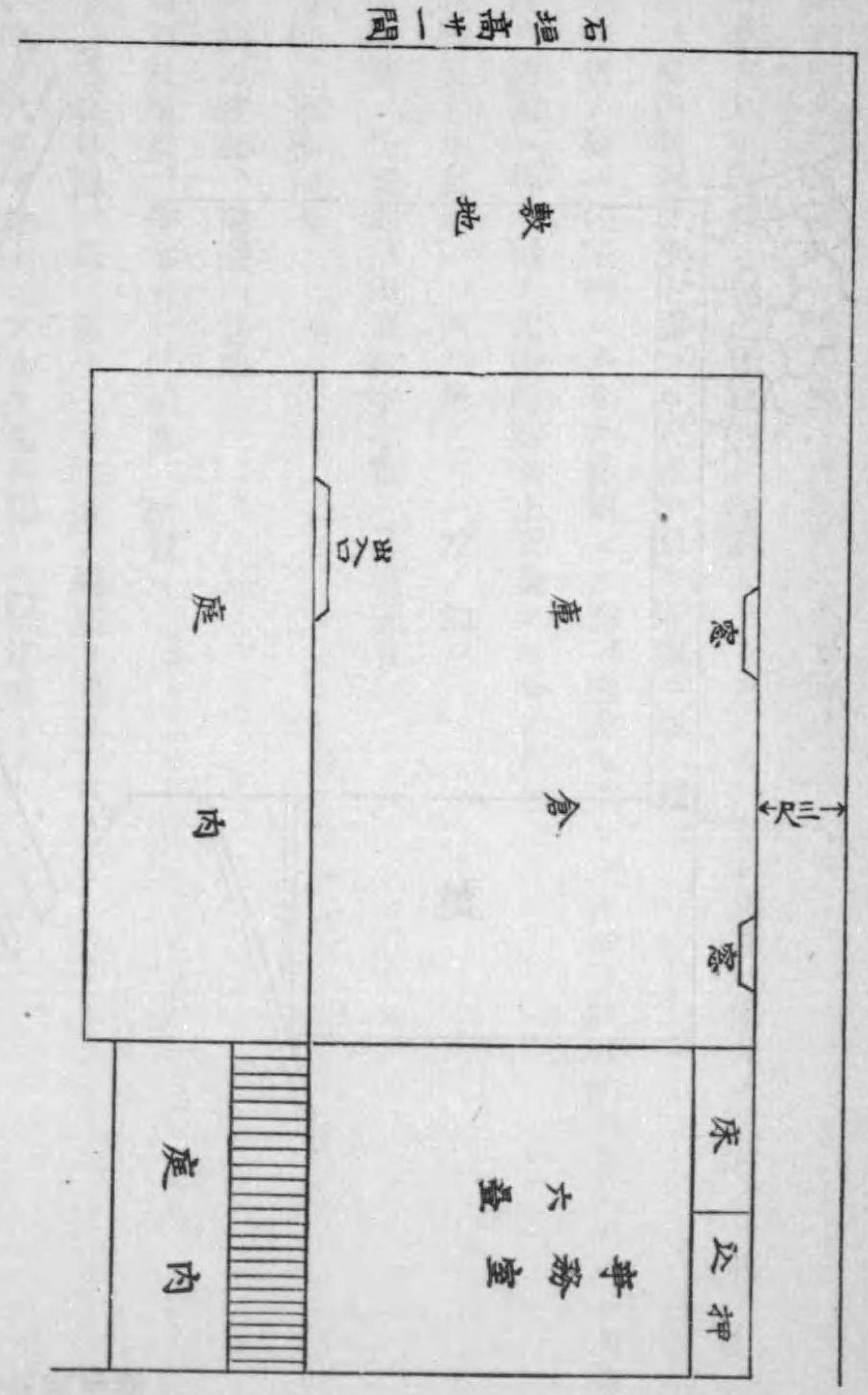
(6) 屋根、下屋根ハ厚サ八寸位ニ粘土ヲ以テ塗ト堅メ上屋根ハ瓦

(7) 窓、北方ニ二個ヲ設ク（鐵格子ヲ用フ）

(8) 換氣裝置、特ニ設置セス



高橋氏倉庫側面圖



同上平面圖

(9) 室内裝置、内壁全部ヲ栂八分板ヲ以テシ各繼目ハ五分以上引掛張詰メ

(10) 出入口、四尺ニ六尺トニシテ内戸ハ栂八分板ヲ以テ作リ上半分ヲ格子トス、外戸ハ土戸ニシテ構造ハ壁ニ同シ

(11) 建築、地下二尺堀下ケ一才以上ノ石材ヲ以テ漸次積上ケ上部ハ一尺ト一尺一寸ノ柱石ヲ敷ク

(12) 建築價額、約五百五拾圓

(13) 建坪、二間ニ三間ニシテ六坪 二階建

倉庫略圖前頁圖面ノ通リ

山梨縣

一般農家中地主ニシテ貯穀專用ノモノト穀物ヲ主トシテ家具等ノ保存ニ兼用ノモノトアリ、前者ハ甚少數ニテ後者ハ多ク二階建ナリ

位置 方位等邸宅ノ模樣ニ依リ一定セラルルモ多クハ住宅ノ後方(乾亥)及前方(辰巳)トス(南向邸宅ノ例トス)

周圍 農村ノ風習トシテ宅地ノ後方ハ樹木アルカ竹林等アリ、倉庫ハ日光ノ直射餘リ多カラサル處ヲ撰メリ

地盤 多少盛土ヲ爲シ高クスルヲ例トス

床 漆喰トナスハ一般ノ設備法ナリ、例外トシテ土間ノ儘及板張ノモノアルモ少數ナリ

壁 普通砂ノ上塗リニテ厚サ六寸内外トス
特別トシテ内部厚一寸高六尺ノ腰板ヲ張ル

腰板ト壁トノ間隔ニ砂礫ヲ約一寸位塡充スルモノアリ

外　圍　普通土壁ノ儘ニテ稀ニ雨露ヲ防クヘキ板張、腰瓦等ヲ付スルアリ

屋　根　瓦葺、草葺、板葺ヲ重トシ、瓦葺ハ全部ノ六分ヲ占ムルナラン、土井葺ト稱シ土塗ノ上ニ直ニ瓦ヲ排列スルアリ、又合掌トテ木造ノモノモアリ

換氣裝置　床ノ板張ノモノハ多ク地盤石ノ位置ニ二間毎位ニ方八寸内外ノ口ヲ設クルモ漆喰床ノモノハ多ク此裝置ナシ

光線ヲ取ル窓（換氣裝置ノ代用トナルモノ）出入口ノ反對ノ側若ハ他ノ側ニ壁ノ中央又ハ其上方ニ方二尺内外ノ窓ヲ設ク、窓ノ數ハ一樣ナラサレトモ二間乃至四間ニ一ケ位トス

室内裝置　二階ヲ有スルアルト然ラサルトノ區別アルノミニテ他ニ裝置ナシ

建　坪　普通間口三間乃至四間、奥行二間乃至三間トス

建坪ノ單價　一坪三十圓乃至五十圓

保存年限　屋根瓦若ハ壁等ハ五年乃至十年ニ於テ小修繕ヲ爲スヲ要シ、其他ハ殆ト半永久的ナリ、草屋根ハ二十年乃至三十年ニシテ葺換ヘヲ要スヘシ、板葺ハ五年目ニ一回葺換ヲ要ス一回ノ費用約十圓内外トス

農家以外ノ倉庫ハ主トシテ地主及商人（保管倉庫ヲ含ム）地主ノ倉庫トシテハ貯穀專用ノモノナルヨリ二階ヲ設ケス、且建坪ハ大體間口五間内外奥行二間半乃至三間半ナリ、入口ノ戸ハ格子造金網ヲ張ルコト、三尺毎ニ柱アルコト等ノ外一般農家ノ倉庫ト大差ナシ

大規模ノ貯穀倉庫設備ノ狀況

イ、甲府市百名町若尾倉庫ハ一棟ノ建坪比較的大ナルモノニテ間口十一間奥行五間ノモノアリ中仕切ヲ設ケ二戸前トス、床ハ漆喰塗トシ内壁ニハ厚サ一寸ノ板ヲ二寸間隔ニ打ツ壁ノ保護ト空氣ノ流通ヲ善クスル目的ナリ

出入口ハ九尺戸ニテ下方三尺ヲ板トナシ上部ヲ鐵骨金網張トナシ、窓ハ出入口ト反對ノ側ニ横一尺五寸ニ縦二尺ノモノ一箇アリ、他ニ通風裝置ヲ設ケス、市街地ニテ周圍遮光物體ナシ

ロ、韮崎町百瀨誠一郎氏所有倉庫（若尾民造氏貯藏庫）間口五間奥行九間アリ、漆喰床、瓦葺、出入口方九尺窓方五尺ニテ一箇アリ

ハ、甲府市一條町寺田喜平治氏（貯藏倉庫ノ一）

構　造　間口三間奥行五間、瓦葺、漆喰床、壁ノ内部ハ普通土壁ノ外厚サ一寸ノ板ヲ張リ其間ニ厚サ一寸砂礫ヲ塡充ス

出入口ハ方五尺北向ニ設ク

窓　南側及西側ノ上部各一ヶ所尚西側ノ中央ヨリ少シ下リテ一箇アリ、又濕氣拔小窓土臺石ノ上邊ニ(五寸ニ八寸)アリ

周　圍　北側及東側ニハ各九尺以上ノ廂アリ、西側ハ樹木ヲ植ユ

內　部　三分ノ一位簡單ノ二階ヲ造レリ

(同上ノ二)

屋　根　床、壁ノ構造前者ニ同シ

內　部　總二階ニ造ル

窓　二階ノミニアリテ四方ニ設ケ六ケアリ

換氣窓　地盤石ノ上ニ東北西側ニ各一ヶ所(縱五寸 横一尺二寸)

出入口　西側ニアリ、方五尺、出入口ノ側ニ九尺ノ廂アリ

日光ヲ受クルコト前者ヨリ多シ

右第一、第二ノ貯穀倉庫ニ於ケル成績ハ後者ニ損傷多ク即チ變質虫害早ク現ハルルヲ見ル

構造ノ特異ナル倉庫

一、中巨摩郡西條村、三神貞僚氏倉庫

(安永以前ニ於テ主トシテ貯穀ヲ目的トシテ建設セル倉庫ト認メラル)

建　坪　間口二間、奧行五間、十坪

位置方位　住宅ノ裏(乾亥)東向ニ入口アリ

周　圍　北西ニハ鬱蒼タル竹林アリテ南ニハ樹木アリ、東方ノ半ハ他ノ建物ニ接シ側面ハ日光ノ直射ヲ受クル時間僅少ナリ

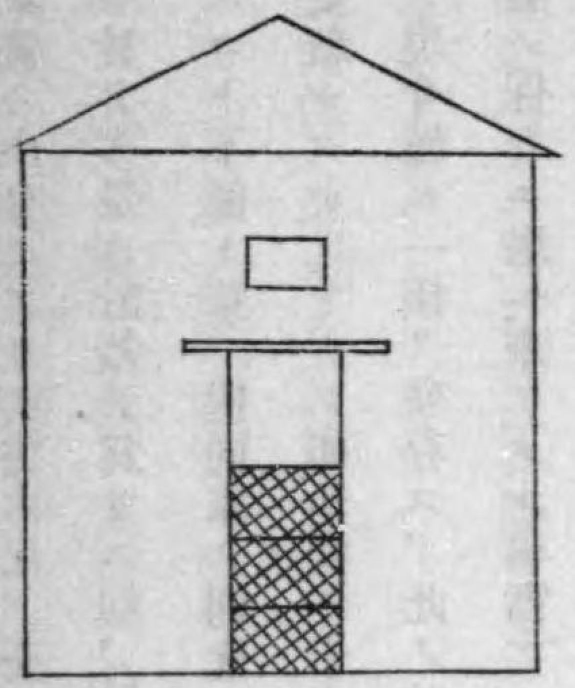
屋　根　合掌造リ、瓦葺

壁　外側ハ土砂、白土塗タルコト普通ノ通リ、內側ハ全部漆喰塗ニテ堅固ナル壁トス

床　漆喰塗リ

換氣裝置　北側ノ上下ニ二ケアリテ、左圖ノ如シ、如此裝置ハ古昔ニ於テ貯穀倉庫トシテ最モ注意シタルモノト考ヘラル

側面北側



上　窓　方八寸

下　窓　(縱一尺五寸 横二尺五寸 金網鐵棒入)

下窓ノ上部ハ外部ニテ落戸ノ裝置アリシ如シ

出入口　東側ノ中央ニアリテ方六尺、全部板張密閉

此倉庫ハ現在ニ於テ多量ノ貯穀ヲ爲サス籾、白米、雜穀等自家農産物ヲ僅カニ保管スルニ止リ其ノ成績ハ具體的ニ知ルコト不能ト雖、偶同家ノ祖先カ天保七年（凶年ノ翌年）備荒貯蓄ノ意志ニテ籾二十四俵ヲ貯蓄シ年々更新シタルコトナク明治初年十六俵現在シタリシモ、爾來現場貯藏ノ必要ナシトシ隨意消費シタルヨリ現今僅ニ一俵ヲ殘存ス、此ノ貯穀ヨリ推考スルニ古昔倉庫設備ノ外何等人工的ノ方法ヲ用ヒスシテ其ノ保存ニ堪ヘ來リタル事實アルハ偶倉庫ノ適當ナル構造ニ基クナカランカ記シテ參考トナス、右倉庫內壁ニ安永八年月日改メ此藏詰米八百俵ト記載アリ、且構造ヨリ察シ專ラ貯穀ノ目的ニ造リタルハ疑ナキカ如シ

鹿兒島縣

甲　農家ノ貯穀倉庫

縣下地方ニ於ケル倉庫ハ主トシテ大地主ノ建設ニテ往々貯藏用ノ目的ニ適セサル設備ノモノ尠カラス、又其構造等種々アリテ一定セスト雖、多クハ土藏ニシテ板藏之ニ次ク、近來亦石藏ヲ建設セルモノアリ、其位置ハ庭前ニシテ西、北向ニ出入口一ヶ所ヲ設ケ四方ニ各一二ヶ所ノ小窓ヲ設ケ屋根ハ悉ク瓦葺トス、室內裝置ハ多ク二階建ニシテ、其二階ヲ家具ノ保管ニ充テ階下ニハ別ニ換氣裝置ノ設備ヲナセルモノ少ナシ、床ハ主トシテ板張ナルカ往々三和土ニテ床面ヲ堅メタルモノアリ、周圍ハ別ニ日光ノ直射ヲ避クヘキ防禦ノ設備ナキモノ多キカ如シ、保存年限ハ土藏ナレハ約百年位ニシテ其期間七八年目毎ニ修繕ヲ要スルヲ普通トス

乙　農家以外ノ貯穀倉庫

農家以外ニ建設セル倉庫ハ地方仲買商人ノ所有セルモノ多ク、又鹿兒島市各商人及諸銀行等ノ建設ニ係ルモノニシテ殆ント石造倉庫ノミナリ而シテ之カ設備上ニ於テハ一時ノ集積所ニ過キサルヲ以テ永ク貯藏シ置クノ必要ヲ認メサル爲メニヤ位置其他各項ニ就テ特ニ米穀ノ貯藏上ニ必要ナル裝置ナク只多量ノ穀類ヲ取引スルニ至便ナルヲ目的トシタルモノニシテ內容全ク裝置ナク廣大ニ建築シタルモノ多シ保存年限ハ屋根ノ修繕ヲナスノミニテ殆ント永久ノモノタルヘシ

附記

大島ハ亞熱帶地ニシテ虫害及鼠害等ニ罹ルコト甚シキ爲メ古來穀物貯藏用特別倉庫ノ設置アリ、之レヲ高庫（タカグラ）及地倉（ヂングラ）ト稱ス

高庫ハ周圍六尺位ノ堅木ノ大材ヲ柱トナシ、多クハ一丈餘ノモノ四本又六本ヲ用キ上ニ屋根ヲ設ケ、六尺位ノ高サニ床ヲ設ケ四圍ハ厚板ニテ密ニ壁ヲ造リ一方ニ小サキ出入口一ヶ所ヲ設ケ、床下ハ明ケ放シニテ出入ノ際ハ楷梯ヲ使用スルモノナリ

地倉ハ內地ニ於ケル板倉ト同樣ナルモノニシテ只異ナルハ特ニ堅材ヲ使用シ建築概シテ堅固ナルニ

アリ

貯穀ハ籾ニシテ一俵五十斤若クハ百斤入ナリ、又往々穗ノ儘ニテ貯フルコトアリ、高庫ヲ所持スルモノハ比較的富裕ナルモノニシテ中產者ハ多ク地倉ヲ所持セリ

新潟縣

甲　農家ノ貯穀倉庫

種類、土藏、信濃藏、納屋ノ三種、土藏ハ數回壁ヲ塗リ柱ヲ塗リ包ミタルモノ、信濃藏ハ數回壁ヲ塗ルモ其回數土藏ニ比シ尠ク柱內外共ニ露出セルモノ、納屋ハ塗壁尠クシテ一般構造粗雜ナルモノニシテ何レモ間口二間乃至三間、奥行二間乃至三間ヲ普通トス

此他ニ籾專用ノ短期貯藏倉庫アリ、其構造九尺ニ二間位ニシテ一寸若クハ八分板ヲ以テ四周ヲ圍ミ中ニ籾ヲ其儘入ルヽモノナリ、建築費約三四十圓

位置、方位、宅地ノ都合ニヨリ一定セス

周圍ノ狀況、倉庫ハ皆宅地內ニ建設シ其周圍ニハ樹木ヲ植エ、日光ノ直射ヲ防ク、住宅ト倉庫ト連接セサルモノニアリテハ其間ニ防火ノ目的ヲ以テ樹木ヲ植エ置クモノアリ

地形及地盤、地上一尺乃至三尺ノ高サニ盛土ヲナシ、堅ク鎭壓スルカ、又ハ三和土、セメントノ類ニテ固ム

床、土間、三和土、セメント、コンクリート、砂敷又ハ板張（地盤ヨリ七八寸乃至一尺上）

壁及外圍、土ヲ以テ厚サ四五寸乃至七八寸ニ塗リ上ケ外面ニ白壁ヲ塗リタルモノ及其外ニ板ヲ張リタルモノアリ

屋根、多ク板葺、杉皮葺ナリシモ近來瓦葺ニ改マル傾向アリ、大部分二重屋根

窓、方二尺位ニシテ一二ヶ所ニ設ク、而シテ南面ニハ多ク設ケス、外方ニ土扉ヲ付シ更ニ內方ニ板戶ヲ付シ其間ニ鐵格子又ハ金網ヲ設ク

換氣裝置、前記窓及出入口ニヨル外特ニ裝置ヲ設クルモノナシ（信濃庫ニ於テハ床下ノ空氣流通自由ナリ、又土藏ニ於テモ往々側壁ノ下部ニ小口ヲ穿チ床下ト外氣トノ通風ヲ計ルモノアリ）

室內裝置、地主ノ倉庫ニシテ專ラ貯穀ノ目的ヲ以テ建テラレタルモノハ別トシテ其他ノモノニアリテハ多ク二階ヲ有シ階上ニハ雜具ヲ置クヲ常トス、床ノ上ニハ萱束又ハ籾殼俵ヲ置キ其上ニ米俵ヲ置クモノアリ

出入口、一ヶ所、住宅トノ關係上區々ナレトモ多ク北向ニシテ幅員四五尺、特ニ其上ニ廂ヲ設ケ外方ニ土扉ヲ付シ內方ニ板戶ヲ設ク

建築建坪單價、保存年限及修繕費

建坪單價	保存年限	修繕

土藏	五十圓內外	百年餘	木板葺ハ五年ニ一回、瓦葺ハ二三年毎ニ破損個所ヲ繕ヒ二十年ニ一回大修理ヲナセハ百五十年以上ヲ保チ得

乙　農家以外ノ貯穀倉庫

種類、土藏ト板倉トアリ、二階ヲ付スルコトナク構造大ナリ

地盤　コンクリートヲ以テ堅メタルモノト單ニ臺石ノ上ニ土臺ヲ据エタルモノトノ二種アリ、土藏ハコンクリートニテ堅メ、板倉ハ石上ニ土臺ヲ据エルヲ普通トス

床、乾燥セル細砂ヲ五寸乃至一尺ノ厚サニ布ク、土間、板張モアリ

壁、土藏ハ最初粘土ヲ以テ厚ク塗リ次ニ砂ヲ以テ中塗ヲナシ上塗ヲ漆喰トス、厚サハ柱共普通一尺トス、板倉ハ單ニ板ヲ張ルモノトス

土藏ノ外壁ニ防火ノ目的ヲ以テ亞鉛板ヲ張ルモノアリ

屋根、瓦葺（板倉ハ單ニ板ノ上ニ土藏ハ土ヲ塗リタル上ニ瓦ヲ置キ全部一重ニシテ二重屋根ヲ用フルモノナシ）

窓、普通一戸前ニ一ヶ所（倉庫ノ大小ニヨリ一定セサルモ普通横三尺縱三尺五寸）ニシテ鐵格子ノ外ニ鐵板又ハ土戸ヲ用ヒ之ヲ開閉スルノミニシテ別ニ換氣裝置等ナシ

室內裝置、容積ノ大ナルモノハ一戸前毎ニ柱又ハ板ヲ以テ仕切リヲ爲シ、萱ヲ直徑三寸乃至四寸ノ束トナシ之ヲ砂上ニ間斷ナク布キ詰メ此上ニ米俵ヲ並積ス或ハ角材ノ上ニ俵ヲ置クモノアリ

出入口　石段ヲ設ケ內ヲ板戸、外ハ土戸（引戸ニシテ開戸トスルモノナシ）トス

建築單價　建築ニヨリ差アルモ一棟百坪トシ左記ト見テ大差ナキモノ、如シ

土　藏　坪三十五圓

板　藏　坪十八圓

保存年限、修繕費、建物ノ位置其他ノ關係ニヨリ異ルモ普通左記ノ通リ大差ナキモノ、如シ

一　土藏保存年限　大修繕迄　五十ヶ年

同一ヶ年ノ修繕費　一坪　五十錢

一　板倉保存年限　大修繕迄　三十ヶ年

同一ヶ年ノ修繕費　一坪　三十錢

石　川　縣

甲　普通ナル倉庫

木造二階建或ハ平屋建トシ、四方及天上ニ土壁五六寸ヲ塗リ付ケ外部下方五六尺ハ板石又ハ漆喰ヲ以テ外圍トシ、床下ハ栗石ヲ敷詰メ、床張ハ普通トシ、內部ハ板張トナシ、屋根ハ瓦又ハ板（木羽板）ヲ以テ葺キ浮屋根トナシタルモノト然ラサルモノトノ二樣アリ、採光窓ハ北方又ハ東方ニ設クルノ慣行ニテ大小及其數ハ一定セス、概ネ中農以下ノ倉庫ハ二階ニ諸道具階下ニ穀類ヲ貯藏スルノ組立ニ成ルモ

ノ多ク中農以上ニアラサレハ諸道具ト穀物トヲ區別シタル倉庫ヲ有スルモノ稀ナリ

乙　完全ナル倉庫

前項記載ノモノハ普通一般ニ設置スル型ナルカ、是レニ一層ノ施設構造ヲ加ヘタルモノヲ以テ完全ナル倉庫トナス而シテ現時進歩セル建築法ニ則リタル完全ナル倉庫ハ一般農家ニ於テハ之レヲ見ルコト少シ。

丙　農家以外ノ倉庫

米劵倉庫、銀行、會社、米穀商等ニハ比較完全ナルモノナキニアラスト雖概ネ規模ノ宏大ナルニアリテ米穀貯藏ヲ目的トセル各項ノ設備ヲ具備セルモノ少ク就中松任米劵倉庫ヲ以テ其完全ナルモノニ屈指セラル、然リト雖採光窓ノ施備猶不完全ナルノ憾アリ

熊本縣

甲　農家ノ貯穀倉庫

瓦葺土藏ニシテ兩側ニ窓ヲ設ケ戸前ハ塗戸、板戸ノ二重トス、寒氣烈敷地方ニアリテハ土藏ノ屋根ニ竹瓦又ハ藁葺トスルモノアリ、此構造ハ貯米ニ最モ適セリ、床ハ板張又ハ漆喰トシ二階ヲ設ケ家具ノ置場トス、方位ハ北向トスルモノ多シ、地盤ハ宅地ヨリ高ムルヲ普通トス、出入口ハ倉庫ノ大小ニ依ルト雖普通二間ニ三間位ノモノニアリテハ一個所ヲ設ケ室内ノ裝置ハ間柱ヲ設ケテ上下米及雜穀トノ區劃ヲ設ケ杉配又ハ棧積トス、建築費ハ一樣ナラサルモ普通一坪當リ三十五圓以上四十圓ニシテ十ケ年毎ニ瓦ノ挿替壁ノ修繕ヲ行フトキハ二百年以上ヲ保ツ

乙　農家以外ノ倉庫

近來新築セル米劵倉庫ハ大部分板壁ニシテ空氣拔キヲ屋上ニ設ケ窓ヲ有セス

丙　優良倉庫

優良ナル倉庫ト稱スルモノモ構造ノ大體ハ異ルコトナク諸式ノ材料ヲ撰ヒ外壁ヲ厚クシ床ニ栗石ヲ敷込ミ、土臺石ヲ二重トス

鳥取縣

甲　農家ノ貯穀倉庫

貯穀期間ノ長短ニヨリ倉庫ノ構造ヲ異ニスルモノナシ、今一般ノ倉庫ニ付調査シタル所ヲ擧クレハ次ノ如シ

位置及方位、屋敷取リノ都合ニヨリ一定セサルモ主ニ住宅ノ裏手ニ構ヘ風通善ク樹蔭アル地ヲ選ヒ可成戸口ヲ北方向トシ居宅構ヘノ美觀ヲ添フ樣配置スルヲ普通トス

周圍ノ狀況、火氣ヲ遠サケ住宅ノ圍トス

地形及地盤、乾燥良好ナル土地ニ土盛又ハ石積ヲナシ濕氣ヲ防クコトニ注意セリ

床、壁及外圍、床下土臺迄一尺內外ニシテ更ニ土臺下一尺―一尺五寸ノ石積ヲナシ二、三箇ノ通風口

ヲ設ク、床板ハ八分―一寸厚サノ松又ハ栗板ヲ使用シ間隙ナク密ニ座張リヲ行フ、壁ハ土壁ヲ厚クシ三寸―六寸トシ外氣、温濕ノ直感ヲ防キ尚内外ニハ板張リヲナス

屋根、二重屋根ニスルモノト然ラサルモノトアリテ何レモ屋根裏ニ土持ヲ多クシ温熱、濕氣ノ遮斷ニ努メ瓦葺トス

窓、倉庫ノ前側ニ二尺四方内外ノ窓牖一箇ヲ設備ス

換氣裝置、窓及戸口ニヨルノ外別ニ裝置ナシ

室内裝置、二樣アリ、一ハ二階ヲ設ケ家具類ヲ藏シ階下ニ貯穀ヲナスモノト一ハ二階ヲ設ケス梁上迄貯藏ニ使用スルモノトナリ

出入口、高サ六尺巾四尺ノ間口ニ引戸ヲ設ケ二重ニスルモノト然ラサルモノトアリ、尙火災防除ノ目的ニテ戸外ニ觀音扉ノ土戸ヲ設ク

建築、間口三間奥行二間高サ一丈二三尺ノモノヲ普通トシ、土臺及周圍ニハ耐久力大ナル栗材等ヲ用ヒ、屋根裏ニハ松材ヲ使用スルモノ多シ

建坪單價、貯穀專用ノモノハ坪當リ四五十圓内外ニシテ貯穀並ニ家具ヲ藏スル二階建ノモノハ坪當リ六十圓ナリトス

修繕及保存年限、修繕ヲ要スルコト少シ、保存年限ハ間々三百年以上ノモノアリト雖普通百年以上百五十年位ナリ

乙　農家以外ノ貯穀倉庫

農家以外ノ貯穀倉庫トシテハ米券倉庫ナリトス、貯穀期間ノ長短ニヨリ倉庫ノ構造ヲ異ニシタルモノナシ、今代表的ノモノ二三ヲ擧クレハ次ノ如シ

	東伯郡松崎報德社倉庫	同郡上井奬惠社倉庫	西伯郡西伯米券米子倉庫
位置	鐵道構内ニシテ通風ヨク稍濕地ナリ	同上	停車場ニ近ク其他同上
方位	南方ニ向ク	南方又ハ北方ニ向ク	同上
周圍ノ狀況	鐵道構内ニシテ民家其ノ他ノ建築物ニ遠サカリ獨立ス、立木等ナク日蔭ナシ	鐵道用地ニ接續シ三方ハ民家ニ接ス、立木等ナク日蔭ナシ	三方民家ニ圍繞セラレ一方田地ニ面ス、立樹等ナク日蔭ナシ
地形	平坦	同上	同上
地盤	從前田地ナリシモ盛土ヲナシ地上ケヲナセリ	同上	同上
床	床下一尺八九寸 土臺下ハ一尺間隔ニ一尺角ノ棒石ヲ以テ土臺石トシ通風ヲ自由ナラシム 床板ハ栗一寸板ヲ密ニ張ル	床下一尺七八寸 土臺下、土臺石ハ密ニ築積シ所々ニ通氣口ヲ設ク 床板ハ松一寸板ヲ密ニ張ル	床下一尺八九寸 同上 床板ハ松八分板ヲ二重張トナセリ
壁	土壁ニシテ厚サ四五寸内側ニ板張リヲナス	土壁ニシテ厚サ三四寸同上	土壁ニシテ厚サ四五寸同上

外圍	外圍ニハ松板ヲ蔽ヒ雨除ケトナス	同上	同上
屋根	葺下ニシテ廂ナク大屋根ノミナリ、一重屋根ニシテ瓦葺ナリ	廂アリ一重屋根ニシテ瓦葺ナリ	同上
窓	四間四方ノ室ニ一箇ノ窓アリ	三間四間ノ室ニ一箇ノ窓アルモノト窓ナキモノト二樣アリ	窓ナシ
換氣裝置	窓及戸口ノ外ニナシ	同上	戸口ノ外ニナシ
室內裝置	屋根裏迄貯穀シ得	同上	同上
出入口	四間四方ノ室ニ高六尺巾五尺ノモノ一個普通倉庫ニアル鼠返ノ裝置ナシ	同上	同上
建築	一室桁行、梁行各四間ノ建築ナリ木材ハ土臺ヲ除ク外松材多シ	一室桁行四間梁行三間ノ建築ニシテ木材ハ土臺及柱ヲ除ク外松材ナリ	一室桁行、梁行共ニ四間ニシテ木材ハ土臺ヲ除ク松材トス
建坪單價	三十五圓	三十圓	三十五圓
修繕	時々雨漏レヲ修復スルニ止マルモ後來害蟲ノ豫防トシテ壁ノ更新ヲ行フ要アルヘシ	同上	同上
保存年限	百年	同上	同上

山口縣

甲　農家ノ貯穀倉庫

農家ノ貯穀ナルモノハ新穀ノ出ツル迄ノ期間ヲ貯藏スルニ止マルモノ大部分ニシテ加フルニ如何ニスレハ尤モ貯藏ニ適スルヤ等ノコトニ何等ノ顧慮ヲ費サヽリシ時代ニ於テ建設セラレ、位置、方向、窓、換氣裝置等ニ就テ特ニ注意シタルモノ極メテ尠シ、今普通農家倉庫ノ構造ノ大要ヲ示セハ左ノ如シ

位置　貯穀上ヨリ打算シテ位置ヲ撰定スルカ如キ場合ハ極メテ尠シ、只火災ノ場合ヲ慮リ居宅ヨリ相當ノ間隔ヲ有セシム

方向　周圍ノ狀況、地盤、地形、床、壁特ニ記スヘキモノナシ

屋根　近年ノ建築ニ係ルモノハ火災ノ場合ヲ考ヘ置屋根トナスモノアリ

窓　農家ノ倉庫ハ九尺ニ二間又ハ二間ニ三間位ヲ普通トシ其坪數僅少ナルヲ以テ特ニ窓ヲ設ケタルモノ尠シ、尤モ二階ヲ家財道具類ノ置場トナシタルモノニアリテハ二階ニ一個ノ窓ヲ設クルヲ普通トス

換氣裝置、室內裝置、出入口、特ニ記スヘキモノナシ

建坪單價　五十圓

修繕　修繕ヲ要スルコト至テ少シ

保存年限　五十ヶ年

乙　農家以外ノ貯藏倉庫

農家以外ノ貯藏倉庫トシテハ銀行、倉庫營業者等ノ倉庫ナリトス、此等ノ倉庫ニアリテハ農家倉庫ニ比シ容積大ナルヲ以テ地盤、床、壁、換氣裝置等ニ就テハ稍注意ヲナシタルモノアルモ長期貯藏ニ適スヘク構造上特ニ注意ヲ加ヘタルモノ尠シ、左ニ山口停車場附近ニ於ケル銀行倉庫ノ構造ヲ記シ以テ一般ヲ窺フノ資トナス

位　　置　山口停車場ヲ去ル西方一町內外ニアリ

方　　向　交通ノ關係上西南向トナセリ

周圍ノ狀況　四方開豁ニシテ家屋ニ接セス

地　　形　土臺石下ハ深サ二尺五寸幅一尺五寸位掘下ケ一尺厚ニ栗石ヲ入レ其上ニ石灰「コンクリート」ヲ二尺厚ニ詰ム

床　地盤ヨリ二尺上リ板張トス

壁及外圍　普通ト異ル所ナシ

屋　　根　瓦葺

窓　縱三尺六寸横三尺ノモノヲ前面二間毎ニ一個、側面二間ニ一個ヲ設ク、床下ニモ小窓ヲ設ケ空氣ノ流通ニ便ス

室內裝置　壁ニ沿ヒ杉丸半截ノスラセヲ備フ

出 入 口　五間ニ一個ノ出入口ヲ設ケ二重戸トシ內戸ハ金網張トス

建坪單價　六十四圓四十錢

富　山　縣

甲、農家ノ貯穀倉庫

別ニ建設シタルモノハ殆ント稀ニシテ大概自家土藏ノ一部又ハ納屋ノ一部ヲ以テ之ニ充ツ、其構造ハ木造瓦葺等ニシテ概ネ二階建ナリトス

乙、農家以外ノ貯藏倉庫

倉庫營業者又ハ地主若クハ商人ノ倉庫ハ木造及土藏造リニシテ瓦葺又ハ板葺ナリ、而シテ長期及短期ノ區別ヲ設クルコトナシ

本縣內ニ於テ貯穀倉庫トシテ優良ト認ムヘキハ射水郡伏木町ニアル中越運輸株式會社所有ノ倉庫（煉瓦倉庫）ニシテ貯穀ノ成績例年佳良ナリ、其構造ハ左ノ如シ

一、間口二十間奥行四間

窓三個各幅三尺高サ三尺五寸其位置東一、西一、北一

一、間仕切ノ有無
板ヲ以テ七間、六間、七間ノ三個ニ仕切レリ
一、廂　間口二十間奥行一間但屋根ハ土藏及廂共瓦葺
一、床ノ構造　善ク乾キタル砂ヲ約三尺盛リ其上ニ木端板ヲ敷並ヘ尚其上ニ藁莚ヲ敷ケリ
一、戸口　幅八尺高サ九尺ノモノ　三ヶ所
一、倉庫方向　西南

埼玉縣志木町、西川武十郎氏倉庫

位置、街道ニ沿ヘル店舖ニ續キ十數ノ倉庫冂形ニ軒ヲ並フ
周圍ノ狀況、周圍ハ常綠木ヲ以テ圍ミ倉庫ハ中庭ヲ包ム、地盤ハ店舖ニ至ルニ從ヒ低下ス、宅地ハ荒川支流ニ近キ高地ニアルヲ以テ排水良好ナリ
地形及地盤、柱下ハ砂利ト土ヲ交互ニ一尺五寸位敲キ込ミ其上ニ斑石ヲ置ク、床下ハ土間或ハ三和土トシタル上ニ瓦炭ヲ厚サ五分位積ミタリ
床ハ一尺上リニ栗材一寸板ヲ以テ張リ容易ニ取外シ得、板裏ニ防腐劑トシテ「コータール」ヲ塗リタリ
梅雨ノ候ニハ瓦炭ハ乾燥狀態ニアルニ拘ハラス「コールタール」ヲ塗リタル面ハ濕氣ヲ呼ヒテ潤フト云フ

用材、柱ハ杉床板ハ栗其他ハ松ナリ
壁及外圍、壁ハ粘土五寸厚サ、土臺石ハ二段ニ積ミ其上ニ柱ヲ立テ腰卷ハ三和土ヲ以テ圍ミソノ上ニ白壁ヲ塗ル、厚サ一尺
屋根、屋根ハ五寸厚サノ鉢卷ニテ瓦葺ナリ
窓及換氣裝置ナシ
大サ、三間ニ六間及二間半ニ六間ノ二種アリテ何レモ二戸前ナリ、軒下迄一丈六尺ニシテ屋根ハ五寸勾配高サ一間半戸口ハ三尺ニシテ板戸ハ半格子金網張リナリ

三重縣四日市、大平庄九郎氏倉庫

圍周　庭、家屋、倉庫、樹木等ニテ圍マレ些ノ餘裕ナシ
方位　西向キ
大サ　南北八間東西五間軒下丈六
屋根　五寸厚サノ置土ニテ瓦葺
床　板張ニシテ床下ハ砂利及砂ヲ充滿ス
壁　壁ノ厚サハ一尺以上
窓　三個（近頃東側ノ窓ヲ開キタルニ結果良好ナリト云フ、窓ハ常ニ開放ス）

換氣裝置 室內裝置等ハナシ

出入口ハ二ケ所アレトモ西向ノモノ、ミヲ使用ス

壁ノ內側ニ沿フテ薪ヲ積ム習慣アリ

佐賀縣、米劵倉庫

厚壁ノ土藏

方位 地形ノ許ス限リ北向

周圍 東南西ノ三方ハ樹木ヲ植エ然ラサルモ夕日ヲ避クル必要上西方ハ是非共板圍ヒ若クハ樹木ヲ植込ムヲ良トス

床 床ハ三和土又ハ「コンクリート」ヲ以テ固メ濕氣ノ侵入ヲ防キ尙苦汁ヲ以テ煉リタル敲ヲ二尺位ノ深サニ盛リ固メ更ニ一寸ノ厚サニ食鹽ヲ撒布スルトキハ苦汁ト食鹽ノ作用ニ依リテ倉庫內ノ濕氣ヲ吸收スト云フ

防鼠工事 倉庫ノ周圍ヲ幅及深サ共四尺位ニ掘リ、夫レニ砂礫ヲ詰メルコト

戶窓 ハ土戶ノ外ニ細目ノ金網戶ヲ設ケ庫內ノ換氣ヲ行フニ當リ鼠及穀蛾類ノ侵入ヲ防ク

第二項 優良ナル貯穀倉庫

優良ナル貯穀倉庫トシテ左記ノ三ヲ擧ク

一、**倉庫會社ノ倉庫**トシテ山形縣酒田町山居倉庫

二、**米商人ノ倉庫**トシテ東京市深川區山崎繁次郎氏ノ倉庫

三、**農家ノ倉庫**トシテ山口縣小郡町古林家（地主）ノ倉庫

一、山形縣酒田町山居倉庫

當倉庫ハ酒田町ノ東南ヲ流ルル新井田川（此川ニ二個ノ橋梁ヲ架ス）ヲ隔テタル鵜渡川原村山居町ニ在リ、該地ハ水路僅ニ數丁ニシテ最上河口ニ通スル便アルモ元來卑濕ノ地ナルヲ以テ既往ノ大洪水ニ鑑ミ一丈二尺ノ盛土ヲナシ（此坪數五千五百四十八坪）地盤ノ堅固ヲ期スルタメ各柱ヲ建ツヘキ土臺石ノ下ニハ長サ二間ノ丸杭一本ツツ隅柱及中柱ノ地下ニハ三本宛ヲ打込ミ且倉庫ノ床ハ苦鹽汁ヲ以テ練リタル敲土ヲ二尺ノ深サニ塡充シテ打固メ落成後ハ更ニ土間ニ一寸ノ厚サニ食鹽ヲ撒布セリ其ノ目的トスルトコロハ倉庫內ノ濕氣ヲ苦鹽汁ト食鹽トノ作用ヲ以テ吸收セシムルニアリ

倉庫ノ大サハ七間半ニ十六間ヲ普通トシ土臺石ヨリ桁マテノ高サハ二間、棟マテノ高サハ四間ニシテ**戶前ノ大サ**ハ橫二間縱一間半ナリ、前後兩面棟ト桁トノ間ニ一個宛又左右兩側桁ノ下ニ二個宛ノ小窓アリ其ノ大サ共ニ橫三尺縱四尺トス大正四年ニ至リ更ニ三尺ニ一尺ノ小窓ヲ壁ノ上下ニ十六個設ケ又**天井ニ棟ヲ挾ミテ四尺四方ノ少窓二個ツツ**相對シテ三個所ニ穿チ、屋根ハ二重屋根（置屋根）ニテ其ノ間ノ空氣ノ流通ヲ自在ニシ貯藏米ノ鬱蒸ヨリ起ル熱氣ノ發散ニ便セリ、尙夏期ニハ悉皆戶前ヲ開放シ

チ空氣ノ流通ヲ自在ニシ熱氣ノ發散ヲ容易ニス

上屋根ハ一尺五寸ヲ隔テ板張ノ上ニ置土ヲ置キ其上ニ瓦ヲ並ヘタリ

壁ノ厚サハ六寸、外壁ノ周圍ハ悉ク板張トシ特ニ出入口ト反對ノ側ハ裾二尺餘開キトナセリ

各倉庫ハ五尺ノ間隔ヲ以テ建築シ戸前ノ前面ハ幅二間ノ相廂ヲ以テ連接シ尚三個所ニハ廊下ヲ架シ河戸船繋場ニ雨覆ヲ掛ケ米ノ揚ケ卸シニ風雨ヲ避クルニ便ス

倉庫現在數ハ左ノ如シ

七間半ニ十六間ノモノ　十三棟

十間ニ二十四間ノモノ　一棟

板倉(俵縄等ヲ容ル)　四棟

事務所其他　大小七棟

外ニ余目村ニ新設セルモノ

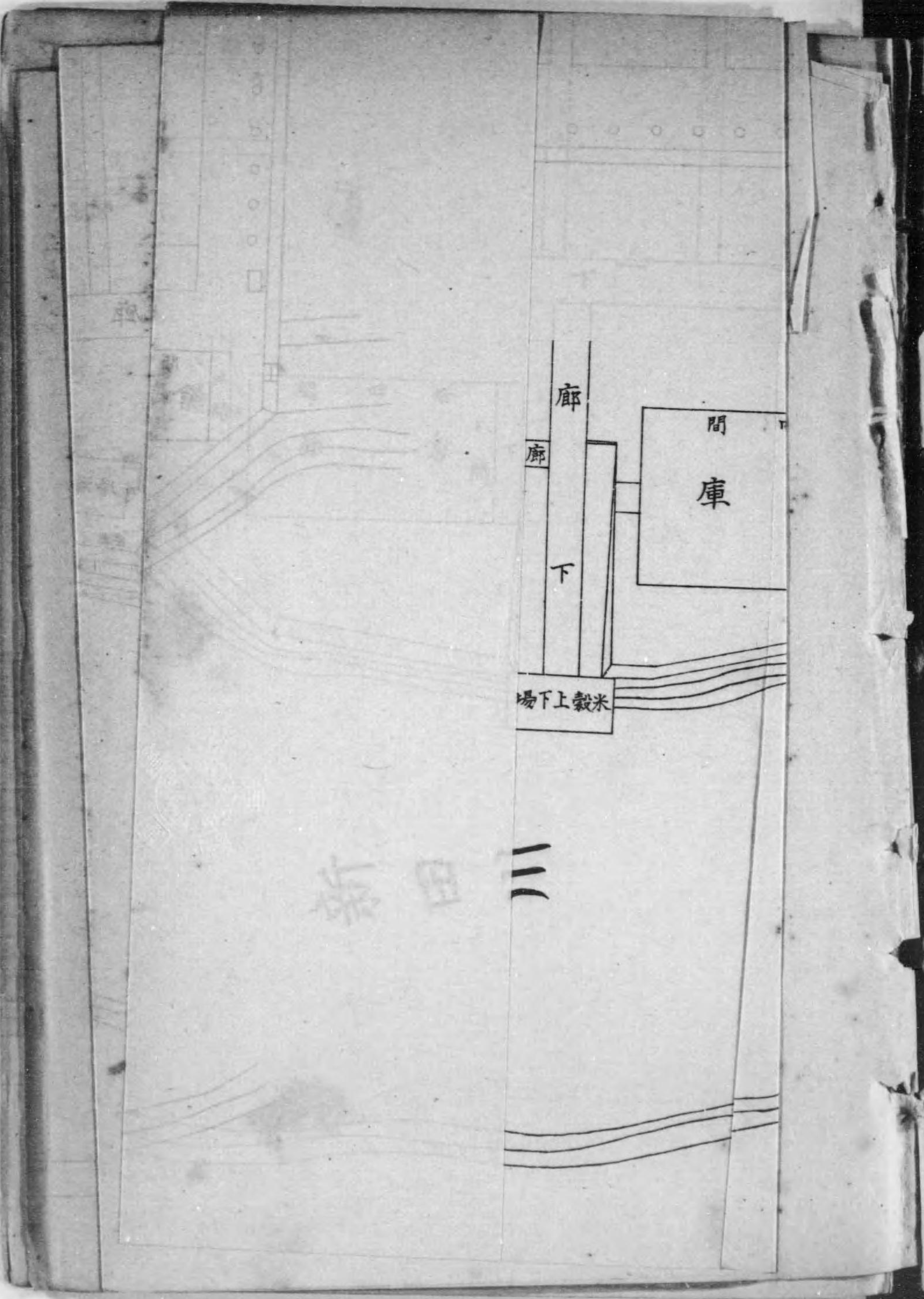
七間半ニ十六間ノモノ　一棟

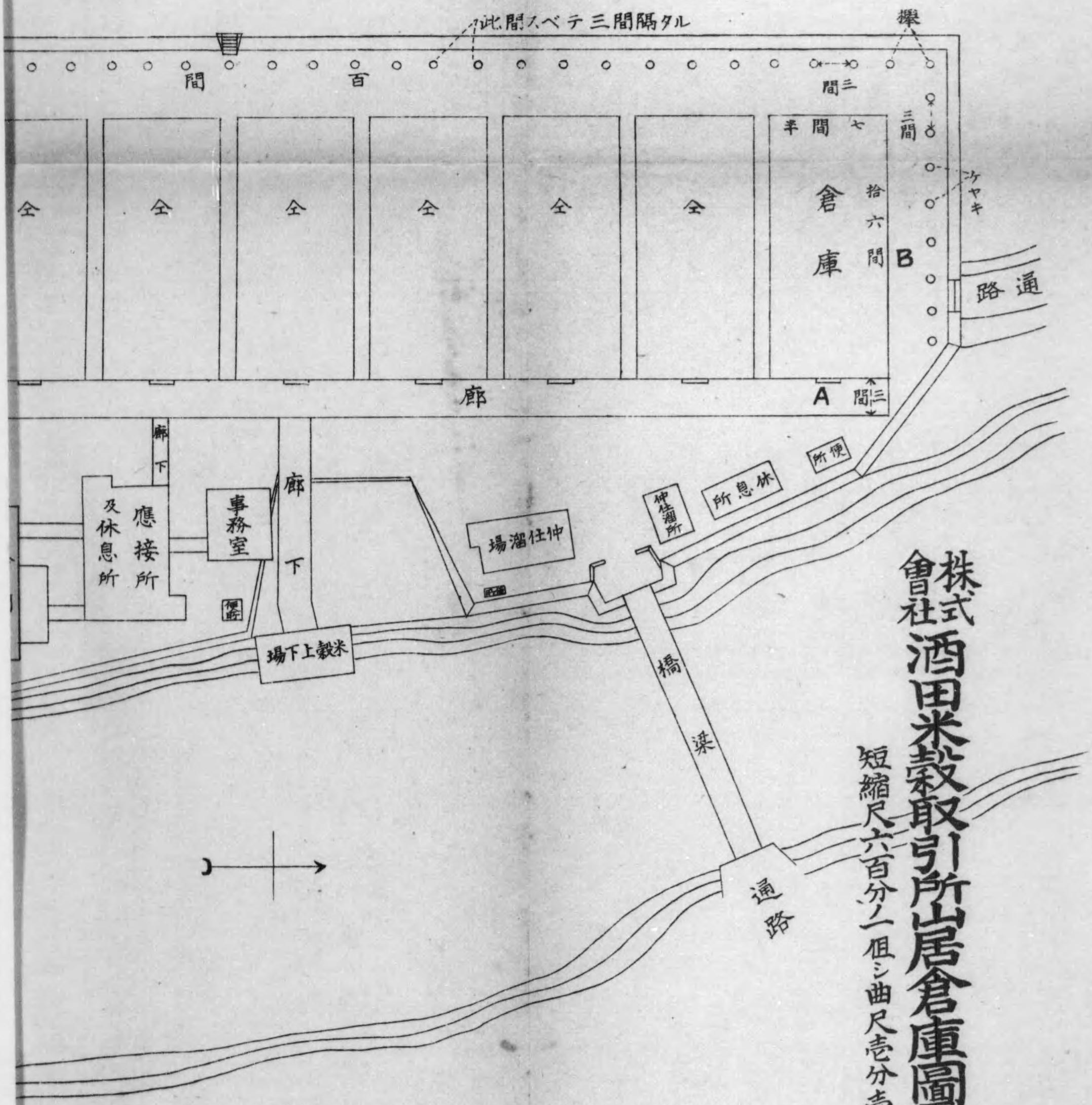
十間ニ三十間ノモノ　一棟

板倉(俵縄等ヲ容ル)　一棟

事務所　一棟

七間半ニ十六間ノ倉庫ニハ四斗俵一萬六千四百二十五俵ヲ容ルヘク一坪貯俵量平均百三十六俵トス而シテ倉庫内ニ俵米ヲ積ムニハ地面ニ萱ノ一尺廻リノ束ヲ二重ニ敷キ其上ニ積上ルナリ、各倉庫ノ土臺下ヲ深サ三尺幅五尺堀上ケ之ニ砂利ヲ填充シ以テ鼠害ヲ防遏ス、尚倉庫ノ周圍ニハ三間隔ニ欅ヲ植ヘテ日陰ヲ作レリ、俵ハ二十俵拼十五俵積トシ二列ノ柱ニ沿フテ二本ノ通路ヲ設ク


廊下
廊
間
庫
米穀上下場
三



株式會社酒田米穀取引所山居倉庫圖面

短縮尺六百分ノ一但シ曲尺壱分壱間